

CMES ANNUAL REPORT 2024

Vol.
025

愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 年 報

(第 25 号)

2024年

ま え が き

出張の多かった夏休みが終わり、授業や会議が多い通常の日々に戻ると、あっという間に11月になりました。例年通り、前年度の後半と今年度の前半における主な出来事について報告いたします。

まず、昨年度から整備されてきた新しい es-BANK が入る E.U. Innovation Commons が10月30日に開所されました。盛大な開所式を終え、内部の見学を行い、新しい建物の美しさを実感しました。これからは、新しい es-BANK の内装整備や冷凍サンプルの整理・移転など、多くの大変な作業が残っていますが、とりあえずファーストステップを踏み出しました。

また、昨年度に開始された教員公募の選考が終了しました。9月1日付で、牛島悠介博士が環境動態解析部門の助教に、濱本耕平博士が生態・保健科学部門の助教にそれぞれ赴任されました。牛島悠介博士は2020年に京都大学で博士号を取得し、財団法人気象業務支援センター研究推進部の研究員を経て、愛媛大学の教員となりました。濱本耕平博士は2022年に琉球大学で博士号を取得し、JSPS の特別研究員を経て、愛媛大学の教員となりました。お二人ともまだ若手であり、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。一方、21世紀 COE および GCOE に大きく貢献していただいた元 CMES 特命教授の Annamalai Subramanian 先生が、2023年12月23日に逝去されました。Subramanian 先生のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

先週公表された共同利用・共同研究拠点の中間評価結果において、LaMer は A という評価を得ました。評価コメントでは、国内最大の生物環境試料バンク (es-BANK) や試料分析装置等の共同利用、質の高い研究成果の発表、外部資金の獲得などが高く評価されています。一方で、分野融合的な研究や教員のダイバーシティにおいては、さらなる発展が期待されています。これに関連して、CMES の2023年度の総論文数とトップ10%論文の数は2022年度とほぼ同じであり、研究の質を維持できています。しかし、拠点の最終評価に向けては、分野融合的な研究を意識しながら CMES の研究活動を展開する必要があります。また、教員のダイバーシティの向上は、全学の支援がなければ CMES 単独では実現が難しいという現実もあります。

分野融合的な研究を推進するために、愛媛大学では2024年4月に先端研究院が設立されました。同研究院は、CMES を含む文部科学省の共同利用・共同研究拠点に認定された3つの先端研究センターを中心に、5つの研究センターと先端研究高度支援室で構成されています。今後、研究院全体のセミナーなどを通じて、センター間の研究交流が一層活発になることが期待されています。

このような局面において、CMES 一同はこれまで以上に頑張りますが、関係各位におかれましては、今後とも引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年11月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 郭 新 宇

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1.1 組 織 (令和6年4月1日現在)	4
1.2 各部門の概要	7
2. 研究者要覧 (令和6年4月現在)	8
3. 研究プロジェクト (令和5年度)	19
3.1 科学研究費等	19
3.2 共同研究	23
3.3 受託研究	23
3.4 奨学寄付金	25
3.5 受託事業	25
3.6 補助金	25
4. 研究成果 (暦年で2023年に出版, 掲載されたもの)	26
4.1 著 書	26
4.2 学協会誌等	26
4.3 学内, 所内誌等	32
4.4 一般誌等	33
4.5 報告書等	33
4.6 学会発表等	33
5. 学会及び社会における活動 (令和5年度)	44
5.1 兼任・委員会委員等	44
5.2 学協会委員等	45
5.3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)	47
5.4 学会, 講演会などの開催 (個人)	48
5.5 学会賞等	48
6. 国際的活動 (令和5年度)	49
6.1 国際研究プロジェクト	49
6.2 在外研究等	51
6.3 海外調査・国際学会等	51
6.4 外国人客員研究員等	52
6.5 海外からの訪問者	52
6.6 招聘研究員	53
6.7 留学生等	54
7. 教育活動 (令和5年度)	56
7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	56
7.2 講義・集中講義	57
8. 設 備 (令和5年度導入)	62
9. 広 報 (令和5年度)	64
9.1 CMES ニュース	64
9.2 報道関係	65
9.3 講座, 講演会等	66
10. 調査実習船「いさな」運航状況 (令和5年度)	68
11. 研究員名簿 (令和5年度)	69
12. 客員研究員名簿 (令和5年度)	70
13. 運営委員会 (令和5年度)	72
14. センター規則および運営委員会規程	73

1. 総説

1.1 組織（令和6年4月1日現在）

センター長 : 郭 新宇
副センター長 : 森本 昭彦

環境動態解析部門

教授 : 郭 新宇
教授 : 森本 昭彦
准教授 : 加 三千宣
兼任教員（理工学研究科 教授） : 日向 博文
兼任教員（理工学研究科 准教授） : 片岡 智哉
先端研究院先端研究高度支援室 准教授 : 吉江 直樹（令和5年11月1日着任）
研究員 : Mao Xinyan（令和5年9月1日着任）
研究員 : Leng Qian（令和6年4月1日着任）
日本学術振興会外国人特別研究員 : Wang Shuya
研究補助員 : 徳永 幸子
研究補助員 : 松田 昌子
事務補佐員 : 山内 樹里

* 講師 : 吉江 直樹（令和5年11月1日先端研究高度化支援室に配置換）
* 研究員 : Dong Menghong（令和5年11月退職）
* 研究補助員 : 小原 玄大（令和5年9月退職）

化学汚染・毒性解析部門

教授 : 岩田 久人
教授 : 国末 達也
准教授 : 野見山 桂
講師 : 仲山 慶
准教授 : 田上 瑠美
特任助教 : 落合 真理
兼任教員（農学研究科 教授） : 高橋 真
兼任教員（農学研究科 教授） : 石橋 弘志
兼任教員（農学研究科 准教授） : 水川 葉月
研究員 : Nguyen Minh Tue
研究員 : 後藤 哲智
研究員 : Kanerva Mirella Mariia
日本学術振興会外国人特別研究員 : Asela Marisol Buenfil Rojas
研究補助員 : 満汐 美穂
研究補助員 : 渡部絵里子（令和5年9月1日着任）
研究補助員 : 倉田 智美（令和5年10月1日着任）
研究補助員 : 谷本 典子

1. 総説

研究補助員	: 田中 順子 (令和5年5月1日着任)
事務補佐員	: 前野和香子
事務補佐員	: 梶本 和枝 (令和5年5月1日着任)
* 研究補助員	: 野口 陽子 (令和5年9月退職)

生態・保健科学部門

教授	: 渡辺 幸三
講師	: 大林由美子
兼任教員 (農学研究科 教授)	: 渡辺 誠也
兼任教員 (理工学研究科 教授)	: 三宅 洋
兼任教員 (プロテオサイエンスセンター 教授)	: Culleton Richard
研究員	: 鈴木 聡 (令和6年4月1日着任)
研究員	: 三浦 郁修 (令和5年8月1日着任)
日本学術振興会特別研究員 P D	: 柳原 未奈
日本学術振興会外国人特別研究員	: Khristina Judan Cruz
日本学術振興会外国人特別研究員	: Anwar Hossain
研究補助員	: 岡崎 早希
研究補助員	: 池永 弥生 (令和6年2月1日着任)
研究補助員	: 片岡 優 (令和6年4月2日着任)
* 准教授	: 北村 真一 (令和5年12月退職)
* 研究員	: Ngure Kagia (令和5年9月退職)
* 研究補助員	: 村上 祥子 (令和6年3月退職)
* 研究補助員	: 中内紫保子 (令和5年10月1日着任～令和6年3月31日退職)
* 日本学術振興会特別研究員 SPD	: 三浦 郁修 (令和5年7月31日受入終了)
* 研究補助員	: 門屋 綾 (令和6年3月退職)
* 研究補助員	: 久保山たまみ (令和5年7月1日着任～令和6年3月31日工学部に配置換)

国際・社会連携室

准教授	: 鈴木 康嗣
研究補助員	: 関井 優 (令和5年9月4日着任)
教授	: Davina Medina Amalin (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
准教授	: Mary Jane Cruz Flores (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
助教	: Anna Karen Carrasco Laserna (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業) (令和5年10月1日着任)
客員教授	: 高菅 卓三 (株式会社島津テクノロジー 取締役)
客員教授	: Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
客員教授	: 呉 明柱 (韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授)
客員教授	: 金 恩英 (韓国慶熙大学 教授)
客員教授	: Michael Thomas Monaghan (ベルリン自由大学 教授)
* 准教授	: Luisa De Asis Enriquez (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業) (令和5年9月退職)

共通

技術専門職員	: 大西秀次郎
技術専門職員	: 小川 次郎

研究支援部研究支援課

研究支援部長 : 佐野 護
研究支援部研究支援課課長 : 大本 盛嗣 (令和6年4月1日着任)
研究支援部研究支援課副課長 : 神野 哲也 (令和6年4月1日着任)
研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム TL
: 田坂 裕
研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム 課員
: 杉村英里子 (令和5年7月1日着任)
事務補佐員 : 中山 真理
事務補佐員 : 渡部 亜紀

* 研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム 課員
: 吉原 育美 (令和5年7月1日配置換)

* は転任または退職した職員

1.2 各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーション、堆積物コア解析などの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、内湾域の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、沿岸海域における海洋酸性化モニタリング、養殖漁場の物質循環と環境保全、黄海・東シナ海の海洋循環、河川水プリュームの挙動、海岸漂着ゴミの動態解析、海洋マイクロプラスチックの観測とモデリング、黒潮による栄養塩輸送、宇和海の環境変遷史解明、力学現象に対する生物学的応答の非線形性、海洋堆積物変質過程の数理構造、残留性有機汚染物質に関する分野横断的な数理モデリング、人新世の地質学的研究、環境DNAを用いた海洋・湖沼生物種の長期動態の解明

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して、生態系を保全する方途を提言する。具体的には、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して、環境や生態系汚染の現状と推移、分布・挙動・ゆくえ、生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また、無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に、異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し、毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究（敏感・鈍感のサイエンス）、多次元オミクス（トランスクリプトーム・プロテオーム・リピドーム・メタボローム）解析による包括的な毒性影響・作用機序を解明する研究にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、爬虫類、魚類、鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価、ヒトの汚染実態解明と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測、環境残留性・生物蓄積性化学物質の網羅的スクリーニング、化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響、脂溶性リガンドレセプターの比較機能学的研究、シトクロム P450およびメタロチオネインの比較機能学的研究、多元的オミクス解析による生物の遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリングと新規バイオマーカーの探索、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその作用機序の解明、毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明、野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究、New Approach Methodologies (NAMs: in silico, in vitro, chemoinformatics, bioinformatics, omics など) による有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

生態・保健科学部門

研究内容：都市・陸水域・沿岸域におけるヒト・動物・環境の健康を包括的に守るワンヘルスに資する研究を推進している。具体的には、1) デング熱などの蚊媒介感染症を生態学的に制御する環境疫学研究、2) 人間社会～沿岸生態系における薬剤耐性菌の発生メカニズムの解明、3) ゲノム解析や環境DNAを使った河川の生物多様性の評価手法の開発、4) ヒラメ・マダイ・ホヤなどの海産魚介類に発生するウイルス病、細菌性疾病、寄生虫病の研究、5) 沿岸域生態系における微生物食物網や物質循環機構の解明などを行っている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究、微生物間での遺伝子伝播の研究、海洋細菌のセララーゼの研究、蚊媒介感染症、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、重油汚染の魚類生体防御系への影響、瀬戸内海の生態系構造解析、海洋での生物間相互作用、微生物の新規機能の開発、河川環境の保全

2. 研究者要覧

(令和6年4月現在)

環境動態解析部門

郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】教授・沿岸環境科学研究センター長 理学部理学科地学コース・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月 愛媛大学博士(工学) 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. American Geophysical Union, 5. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態, 2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3. 黒潮流域における栄養塩輸送, 4. 瀬戸内海及び黒潮内側域における水温の経年変動, 5. 最終氷期最盛期の黒潮流域と縁辺海に関するモデリング, 6. 残留性有機汚染物質の輸送循環モデリング 【受賞歴】2014年6月 Reviewing Excellence Award for Continental Shelf Research, 2016年度 愛媛大学理学部ベストティーチャー賞

森本 昭彦 MORIMOTO Akihiko

【職名】教授・沿岸環境科学研究センター副センター長 理学部理学科地学コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻 【電話】089-927-9674 【FAX】089-927-9846 【E-mail】morimoto.akihiko.cl@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了 【学位】平成12年9月 九州大学博士(理学) 【所属学会】日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海の栄養塩循環, 2. 豊後水道の底入り潮に関する研究, 3. 台風通過に伴う海洋の応答に関する研究, 4. 対馬暖流流路の変動に関する研究, 5. 東南アジア沿岸域の海洋環境に関する研究 【受賞歴】2022年9月日本海洋学会沿岸海洋研究会速水論文賞

加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】准教授 理学部理学科地学コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月 大阪市立大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本第四紀学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本珪藻学会, 4. 日本水産海洋学会, 5. 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 6. 地球環境史学会, 7. 日本地球惑星科学連合, 8. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 珪藻及び安定同位体比, 色素を用いた日本沿岸域における生物生産と気候変動に対する応答, 3. 魚鱗を用いた多獲性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻の Mg/Ca 比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 海洋・湖沼堆積物中の環境 DNA を用いた水域生物の生物量・多様性の長期変動, 6. 人新世 GSSP としての別府湾堆積物に関する研究 【受賞歴】2008年日本海洋学会日高論文賞受賞, 2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞

吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】先端研究院先端研究高度支援室 准教授 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】yoshie.naoki.mm@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 北海道大学水産学部水産化学科卒業，平成14年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月 北海道大学博士（地球環境科学） 【所属学会】1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本地球惑星科学連合，4. 水産海洋学会，5. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 生物地球化学，2. 海洋生態系モデリング，3. 海洋学，4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング，2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング，3. 超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態に関する研究，4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布に関する研究，5. 瀬戸内海における有害赤潮の時空間分布に関する研究，6. 東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響に関する研究，7. トカラ周辺海域における栄養塩・低次生態系動態に関する研究，8. 栄養塩等の水質環境が小型浮魚生産量に及ぼす影響に関する研究，9. 豊後水道における海洋酸性化モニタリング 【受賞歴】2010年 日本海洋学会岡田賞，2011年 北太平洋海洋科学機構（PICES）Best Presentation Award 2019年 第15回三浦保環境賞特別賞

日向 博文 HINATA Hirofumi

【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授） 【電話】089-927-9835 【FAX】089-927-9851 【E-mail】hinata.hirofumi.dv@ehime-u.ac.jp / hinata@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了（1991） 【学位】平成12年1月 東京工業大学博士（工学） 【所属学会】土木学会，日本海洋学会，水産海洋学会 【専門分野】沿岸海洋学，海岸工学 【主な研究テーマ】海洋プラスチックの海岸—沿岸域における挙動の解明，海洋レーダを用いた津波計測に関する研究，黒潮変動が沿岸域の物質輸送に与える影響に関する研究 【受賞歴】土木学会論文奨励賞（2001），日本港湾協会論文賞（2013），土木学会四国支部研究・論文賞（2018），2021年度愛媛大学学長賞（2021年11月）

片岡 智哉 KATAOKA Tomoya

【職名】兼任教員（大学院理工学研究科理工学専攻 准教授） 【電話】089-927-9817 【FAX】なし 【E-mail】kataoka.tomoya.ab@ehime-u.ac.jp, tkata@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月徳島大学工学部卒業，平成26年3月豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了 【学位】平成26年3月 豊橋技術科学大学博士（工学） 【所属学会】土木学会，日本海洋学会，日本海洋学会沿岸海洋研究会，日本水環境学会，American Geophysical Union (AGU)，Institute of Electrical and Electronics Engineer (IEEE) 【専門分野】海岸工学，水工学，沿岸海洋学 【主な研究テーマ】海洋レーダを用いた波浪計測に関する研究，海洋プラスチックの陸域から海洋までの挙動の解明，沿岸域におけるリモートセンシング手法の開発と応用 【受賞歴】2012年6月 50th ECSA BEST STUDENT ORAL PRESENTATION AWARD，2013年5月 平成24年度日本港湾協会論文賞，2016年2月 平成27年度水路技術奨励賞，2019年8月 令和元年度河川財団奨励賞，2019年11月 令和元年度全国大会第74回年次学術講演会優秀講演者賞

王 樹亜 WANG Shuya

【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】なし 【E-mail】wangsy.cmes@gmail.com 【学歴】2017/06, B.S. in Marine Science, Ocean University of China, Qingdao, China; 2022/06, Ph.D. in Physical Oceanography, Ocean University of China, Qingdao, China 【学位】Ph.D. in Physical Oceanography, Ocean University of China 【所属学会】日本海洋学会 【専門分野】海洋物理学 【主な研究テーマ】Internal waves and turbulent mixing in the Kuroshio region 【受賞歴】National Scholarship, Ministry of Education of the People's Republic of China (2018, 2019, 2021).

冷 茜 LENG Qian

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8179 【FAX】 なし 【E-mail】 leng.qian.eg@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成29年6月 中国海洋大学環境理工学部環境科学科卒業, 令和2年6月 中国海洋大学環境理工学院修士課程環境科学専攻修了, 令和6年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース修了 【学位】 令和6年3月 愛媛大学博士(理学) 【所属学会】 1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 3. 日本地球惑星科学連合 【専門分野】 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】 瀬戸内海の栄養塩の動態 【受賞歴】 なし

化学汚染・毒性解析部門**岩田 久人 IWATA Hisato**

【職名】 教授 理学部理学科生物学コース・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース兼任 【電話】 089-927-8172 【E-mail】 iwata.hisato.mz@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】 平成6年3月 愛媛大学博士(学術) 【所属学会】 1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本環境毒性学会, 5. 日本獣医学会, 6. 日本内分泌攪乱物質学会, 7. 日本生化学会, 8. 日本分子生物学会, 9. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 10. Society of Toxicology 【専門分野】 環境毒性学 【主な研究テーマ】 1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 多次元オミクス(トランスクリプトーム・プロテオーム・リポドーム・メタボローム) 解析による包括的な毒性影響・作用機序の解明, 3. 異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し, 毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究(敏感・鈍感のサイエンス), 4. 異物代謝酵素シトクロム P450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した脂溶性リガンドレセプターのインビトロ・インシリコリガンドスクリーニング法の開発, 6. New Approach Methodologies (NAMs) による化学物質の有害性評価・リスク評価手法の開発 【受賞歴】 1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology, 2011年7月 第16回生態学琵琶湖賞

国末 達也 KUNISUE Tatsuya

【職名】 教授 理学部理学科化学コース・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼任 【電話】 089-927-8171 【FAX】 089-927-8171 【E-mail】 kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成16年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】 平成16年3月 愛媛大学博士(農学) 【所属学会】 1. 日本内分泌攪乱物質学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本廃棄物資源循環学会, 4. 日本水環境学会, 5. 日本環境科学会, 6. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 7. American Chemical Society (ACS) 【専門分野】 環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】 1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用 【受賞歴】 2018年5月日本環境化学会学術賞

野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】准教授 理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼任 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月 熊本県立大学博士（環境共生学） 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本セトロジー研究会, 5. American Chemical Society (ACS), 6. 日本内分泌攪乱物質学会 【専門分野】1. 水環境化学, 2. 環境分析化学, 3. 異物代謝学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の *in vitro* / 代謝系の確立, 3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価, 4. 野生生物に残留する医薬品類および生活関連化学物質 (PPCPs) の蓄積特性に関する研究, 5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発, 6. メタボロミクス, プロテオミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価, 7. ペット動物の汚染実態解明とリスク評価, 8. 神経伝達物質の高感度分析法の開発, 9. 臓器・組織中内因性ホルモンの高感度分析法の開発 【受賞歴】2007年11月日本水環境学会博士研究奨励賞 (オルガノ賞), 2009年10月 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞, 2016年4月 ソニー・ワールドフォトグラフィーアワード2016, 2018年2月第14回三浦保環境賞奨励賞, 2018年3月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞, 2020年12月2019年室内環境学会学術大会大会長奨励賞

仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士 (後期) 課程修了 【学位】平成15年9月 九州大学博士 (農学) 【所属学会】1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 4. 日本魚病学会 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明 【受賞歴】2006年9月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞, 2015年9月平成27年度日本環境毒性学会 CERI 学会賞

田上 瑠美 TANOUE Rumi

【職名】准教授 理学部理学科化学コース兼任 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8174 【E-mail】tanoue.rumi.lw@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成27年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】平成27年3月 愛媛大学博士 (理学) 【所属学会】日本環境化学会, 日本水環境学会 【専門分野】1. 環境分析化学, 2. 環境科学 【主な研究テーマ】1. 微量環境汚染物質の分析法開発, 2. 未規制環境汚染物質の魚類への移行・残留性と体内動態の解析および影響評価に関する研究, 3. 南・東南アジア諸国の水圏環境における化学物質汚染の実態解明と影響評価, 4. 内分泌かく乱作用が疑われている人工化学物質のヒト尿中レベルと曝露量の推定 【受賞歴】2016年9月 第22回日本環境毒性学会研究発表会若手研究奨励賞, 2016年9月 平成28年度日本水環境学会博士研究奨励賞 (オルガノ賞) 優秀賞, 2017年6月 第26回環境化学討論会「優秀発表賞」(35歳以下の社会人, 若手研究者, および博士後期課程学生の一部), 2020年5月 令和元年度日本水環境学会中国・四国支部研究奨励賞 (Protecting the environment from psychoactive drugs: Problems for regulators illustrated by the possible effects of tramadol on fish behaviour), 2021年6月 第29回環境化学討論会「優秀発表賞 (SETAC 賞)」(35歳以下若手研究者の一部) 【資格】公害防止管理者 (水質関係), 環境計量士 (濃度関係)

落合 真理 OCHIAI Mari

【職名】特任助教 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8187 【E-mail】ochiai.mari.vb@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成26年3月 愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成26年3月 愛媛大学博士（理学）【所属学会】1. 日本組織培養学会, 2. 幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム, 3. 日本セトロロジー研究会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 5. The Society for Marine Mammalogy 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 鯨類由来細胞を用いた環境汚染物質の毒性影響評価, 2. *in vitro* 評価系の構築, 3. 幹細胞の樹立と神経分化 【受賞歴】2017年10月 10th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine “The Best Oral Presenter Award”, 2015年6-7月 第65回リンドウ・ノーベル賞受賞者会議 選抜派遣（文部科学省）, 2015年7月 第26回日本セトロロジー研究会「最優秀発表賞」, 2013年12月 20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals “Student Travel Grant”, 2013年8月 第22回環境化学討論会「優秀学生賞」, 2013年2月 SETAC 3rd Young Environmental Scientists (YES) Meeting “Travel Grant”

高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 教授）【電話】089-946-9907 【E-mail】takahashi.shin.mu@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月 愛媛大学博士（農学）【所属学会】1. 日本環境科学会会員, 2. 日本環境毒性学, 3. 日本内分泌攪乱物質学会, 4. 日本環境化学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society (ACS), 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 8. 日本水環境学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境計測学, 3. 資源循環工学 【主な研究テーマ】1. POPs およびその関連物質による地球環境汚染の実態と時空間分布の解明, 2. アジア途上国等における非制御的廃棄物処理に伴う環境負荷および生体影響の評価, 3. 先端機器分析と生物学的検定法を統合した影響指向の環境評価法の確立と応用 【受賞歴】2014年7月京都大学環境衛生工学研究会最優秀プロジェクト賞, 2015年5月 廃棄物資源循環学会誌 Best Paper Award, 2019年6月第28回環境化学学術賞, 2019年7月 Emerging Contaminants 誌 Best Paper Award

石橋 弘志 ISHIBASHI Hiroshi

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 教授）【電話】089-946-9583 【FAX】089-946-9583 【E-mail】hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月 長崎大学大学院生産科学研究科海洋資源学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月 長崎大学博士（学術）【所属学会】1. 日本内分泌攪乱物質学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本食品衛生学会 【専門分野】生態毒性学 【主な研究テーマ】1. 代替および新興 PFAS による環境汚染の実態解明と毒性影響評価, 2. 核内受容体-リガンド相互作用のインシリコ統合ケミカルスクリーニング評価系の開発, 3. 魚類を用いた内分泌攪乱物質の影響評価, 4. 海産・汽水産甲殻類を用いた新たな生態毒性試験法の開発と農薬のリスク評価, 5. 造礁サンゴホロビオントの共生・崩壊メカニズムの解明 【受賞歴】2001年1月 日本水環境学会九州支部学術奨励賞, 2008年3月 International Symposium on Biological Response to Chemical Pollutants Best Poster Award, 2011年7月 日本環境化学会第18回環境化学論文賞, 2012年7月 日本毒性学会第2回ファイザー賞, 2020年5月 日本食品化学学会島津製作所論文賞, 2021年5月 日本水環境学会中国・四国支部研究奨励賞, 2023年9月 日本環境毒性学会進歩賞

水川 葉月 MIZUKAWA Hazuki

【職名】 兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 准教授）【電話】 089-946-9908 【E-mail】 mizukawa.hazuki.jg@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成25年3月 愛媛大学大学院理工学研究環境機能科学専攻博士後期課程修了 【学位】 平成25年3月 愛媛大学博士（理学）【所属学会】 1. 日本環境化学会, 2. 日本毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 5. 室内環境学会 【専門分野】 1. 環境化学, 2. 環境計測学, 3. 環境毒性学 【主な研究テーマ】 1. 有害化学物質の汚染の実態と毒性影響評価, 2. ペット動物や野生動物に蓄積した有害化学物質の汚染実態と代謝機構の解明およびリスク評価, 3. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の *in vitro* / 代謝系の確立 【受賞歴】 2011年7月第20回環境化学討論会最優秀学生賞, 2012年7月第21回環境化学討論会最優秀学生賞, 2012年8月32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2012) OTTO HUTZINGER Student Presentation Award, 2020年12月 2019年室内環境学会学術大会大会長奨励賞, 2022年6月 日本環境化学会第2回 環境化学進歩賞

グエン・ミン・トゥエ Nguyen Minh Tue

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8196 【FAX】 089-927-8196 【E-mail】 nguyen.minh_tue.vp@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成17年3月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】 平成22年9月 愛媛大学博士（理学）【専門分野】 1. 環境化学, 毒性学 【主な研究テーマ】 1. アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価, 2. バイオアッセイおよび GC (LC)-TOFMS を用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立

後藤 哲智 GOTO Akitoshi

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8174 【FAX】 089-927-8174 【E-mail】 goto.akitoshi.xn@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成30年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成30年3月 愛媛大学博士（理学）【所属学会】 日本環境化学会, 日本質量分析学会 【専門分野】 1. 環境化学, 2. 質量分析学 【主な研究テーマ】 1. 日本沿岸におけるハロゲン化ダイオキシン類の時空間分布と発生源の解明 【受賞歴】 2014年5月 第23回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部）, 2015年6月 第24回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部）, 2017年5月 第65回質量分析総合討論会「ベストプレゼンテーション賞・優秀賞」（口頭発表部門）

カネルバ・ミレラ・マリア Kanerva Mirella Maria

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8187 【E-mail】 kanerva.mirella_mariia.vj@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成28年8月 University of Turku (Finland), Department of Biology, Division of Physiology and Genetics, Laboratory of Animal Physiology 【学位】 平成26年12月 PhD University of Turku (Finland) 【専門分野】 1. Ecophysiology 2. Ecotoxicology 3. Oxidative stress 4. Omics 5. non-model organisms 【受賞歴】 travel grants from: 2012 University of Turku, travel grant, 2011 Society for experimental Biology, travel grant, 2011 Biological interactions graduate school, grant for course, 2010 University of Turku foundation, travel grant, 2010 Finnish Concordia Fund, travel grant. Other grants: 2017 Japan Society for the Promotion of Science, post-doctoral research (2 years), 2009-2011 Kone foundation, PhD research fellowship, 2011 Kuopio Naturalists' Society, grant for research, 2009 Oskar Öflund's foundation, grant for research, 2008 University of Turku foundation, PhD research fellowship

ブエンフィル・ロハス・アセラ・マリソル Buenfil Rojas Asela Marisol

【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8187 【E-mail】buenfil.rojas_asella_marisol.ax@ehime-u.ac.jp 【学歴】令和1年12月 El Colegio de la Frontera Sur – Campus Chetumal Research Center (Mexico), Environmental Biotechnology. Department of Sustainability Sciences 【学位】令和1年12月 PhD in Ecology and Sustainable Development El Colegio de la Frontera Sur – Campus Chetumal Research Center (Mexico) 【所属学会】1. IUCN-SSC Crocodile Specialist Group 2021-2025 2. National Crocodiles' Specialist Group (Mexico) 3. National Researchers System (National Council of Science and Technology, Mexico) 【専門分野】1. Ecotoxicology 2. Ecotoxicology of reptiles 3. Non-invasive and non-destructive monitoring 4. Biomarkers 5. Bioindicators 6. Conservation genetics 【受賞歴】1. JSPS Postdoctoral Fellowship 2023 2. Funding Grant AZA Crocodylian Advisory Group (USA) 2022 3. Grant IUCN-SSC Crocodile Specialist Group's Student Research Assistance Scheme (SRAS) 2021 4. Honorable Mention for PhD Thesis, El Colegio de la Frontera Sur 2019.

生態・保健科学部門**渡辺 幸三 WATANABE Kozo**

【職名】教授 大学院理工学研究科生産環境工学専攻兼任担 【電話】089-927-9847 【FAX】なし 【E-mail】watanabe.kozo.mj@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年東北大学大学院工学研究科博士課程後期修了 【学位】平成17年3月 東北大学博士(工学) 【所属学会】1. 土木学会, 2. 応用生態工学会, 3. 日本熱帯医学学会, 4. 日本水環境学会 【専門分野】1. 応用生態工学, 2. 分子進化生物学, 3. 生態疫学 【主な研究テーマ】1. 河川生態系の生物多様性の評価と保全, 2. デング熱等の蚊媒介感染症の生態学的制御, 3. 環境中の薬剤耐性菌の発生・動態メカニズムの解明 【受賞歴】日本水環境学会令和3年度水環境国際活動賞(いであ活動賞), 平成26年度地球環境優秀講演賞, 日本水環境学会平成21年年間優秀論文賞(メタウォーター賞), 平成16年度東北大学総長賞, 平成15年度土木学会論文奨励賞

大林由美子 OBAYASHI Yumiko

【職名】講師 農学部生物環境学科・農学研究科生物環境学専攻・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任担 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】obayashi.yumiko.nn@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程地球惑星理学専攻修了 【学位】平成14年12月名古屋大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本地球惑星科学連合, 5. 日本分析化学会 6. 日本プランクトン学会 【専門分野】生物地球化学, 微生物生態学, 海洋学 【主な研究テーマ】1. 海洋での有機物の微生物分解に関する研究, 2. 水圏生態系における微生物間相互作用に関する研究 【受賞歴】2020年日本プランクトン学会論文賞, 2020年度・2016年度愛媛大学農学部ベストティーチャー賞

三宅 洋 MIYAKE Yo

【職名】兼任教員(大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授) 【電話】089-927-9836 【FAX】089-927-9836 【E-mail】miyake@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物科学専攻修了 【学位】平成14年3月 京都大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. Society for Freshwater Science, 3. 応用生態工学会, 4. Ecological Society of America, 5. 日本陸水学会, 6. 土木学会 【専門分野】1. 応用生態工学, 2. 河川生態学 【主な研究テーマ】1. 出水攪乱に対する河川生物の応答に関する研究, 2. 集水域特性が河川性底生動物の広域分布に及ぼす影響の解明, 3. 底生動物を指標とした河川環境の評価 【受賞歴】2002年3月生態学会日本生態学会ポスター発表優秀賞, Ichthyological Research 誌2018年度論文賞

渡辺 誠也 WATANABE Seiya

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生命機能学専攻 教授）【電話】089-946-9848 【FAX】089-946-9848 【E-mail】irab@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻修了 【学位】平成15年3月 北海道大学博士（理学）【所属学会】1. 日本生化学, 2. 日本農芸化学会, 3. 日本生物工学会 【専門分野】1. 生化学, 2. 分子生物学, 3. タンパク質工学 【主な研究テーマ】1. 微生物の新規代謝経路の解明, 2. 微生物酵素の産業応用 【受賞歴】日本農芸化学会2018年度中四国支部奨励賞

カレトン・リチャード CULLETON Richard

【職名】兼任教員（プロテオサイエンスセンター 教授）【電話】089-960-5286 【FAX】089-960-5285 【E-mail】culleton.richard.oe@ehime-u.ac.jp 【学歴】BSc (hons) Zoology (The University of Edinburgh, UK, 2000) 【学位】PhD Genetics (The University of Edinburgh, UK, 2005) 【所属学会】Japanese Society of Parasitology (councillor), Japanese Society of Tropical Medicine (member), British Society of Parasitology (member), Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene (fellow) 【専門分野】Parasitology, epidemiology, genetics and genomics 【主な研究テーマ】Eco-Epidemiology of zoonotic malaria in Malaysia; Epidemiology, genetics and genomics of neglected malaria parasite species in Africa; Malaria vaccine development 【受賞歴】JSTM Young Investigator Award (2014)

三浦 郁修 MIURA Fuminari

【職名】研究員 【電話】089-927-9847 【FAX】なし 【E-mail】miurafuminari0815@gmail.com 【学歴】平成26年 東京大学工学部都市工学科卒業, 平成29年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了, 令和2年 同博士課程修了 【学位】令和2年3月 東京大学博士（工学）【所属学会】土木学会, 日本水環境学会, 日本疫学会, International Water Association 【専門分野】感染症疫学, 微生物リスク評価 【主な研究テーマ】1. 異質な感受性を組み込んだ感染症伝播の数理理論, 2. 潜在的な感染者（不顕性感染・未報告感染者）の統計的推定, 3. 下水中ゲノム情報を用いた感染動態の予測, 4. 自然実験環境と確率過程を用いた感染リスク推定, 5. 人体実験データを用いたワクチン効果の統計解析手法 【受賞歴】2020年9月 日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞）最優秀賞, 2020年5月 日本水環境学会会長特別賞, 2020年3月 令和元年度日本学術振興会育志賞, 2020年3月 東京大学大学院工学系研究科長賞（研究最優秀）, 2019年12月 第56回土木学会環境工学研究フォーラム環境技術・プロジェクト賞（共著者として）, 2017年10月 Best Presentation Award for Innovative mathematical modeling for the analysis of infectious diseases data (IMAID) 2017

柳原 未奈 YANAGIHARA Miina

【職名】日本学術振興会特別研究員PD/CPD 【電話】089-927-9847 【FAX】なし 【E-mail】meenay810@gmail.com 【学歴】平成26年 東京大学工学部都市工学科卒業, 平成28年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了, 平成31年 同博士課程修了 【学位】平成31年3月 東京大学博士（工学）【所属学会】土木学会, 日本水環境学会, 日本環境毒性学会 【専門分野】生態毒性学, 生態リスク評価 【主な研究テーマ】1. 汚染底質・道路塵埃の水生生物への毒性評価, 2. 水生生物のメタボローム情報に基づく毒性要因推定, 3. 種の感受性分布を用いた生態リスク評価 【受賞歴】2019年3月 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 優秀博士研究賞, 2018年9月 第24回日本環境毒性学会研究発表会（ポスター賞）, 2015年8月 Water and Environment Technology Conference 2015 (The WET Excellent Presentation Award)

クリスティーナ・ジュダン・クルズ **Khristina Judan Cruz**

【職名】 Japan Society for the Promotion of Science Postdoctoral Fellow 【電話】 090-6833-7749 【FAX】 なし 【E-mail】 kjcruz@clsu.edu.ph 【学歴】 2017年12月 PhD Biology at De La Salle University, Manila, Philippines 【所属学会】 — 【専門分野】 Molecular Genetics 【主な研究テーマ】 Genomic signatures and transcriptome of Philippine hybrid tilapia 【受賞歴】 1. JSPS Postdoctoral Fellowship, 2022-2024, 2. CHED HEDP Faculty Development Program PhD Sandwich Program Grant, 2010 3. CHED HEDP Faculty Development Program Local Grant for PhD, 2006

アヌワ・ホサイン **Anwar Hossain**

【職名】 日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】 089-927-9847 【FAX】 なし 【E-mail】 ahossain@du.ac.bd 【学歴】 BSc and MS in Fisheries and PhD in Environmental Sciences; 博士課程修了 【学位】 2019年3月 PhD. Environmental Sciences and Risk Management at Yokohama National University, JAPAN 【所属学会】 - ASM, BMS, AFS, BFS etc. 【専門分野】 Environmental pollution, AMR study, Molecular Biology 【主な研究テーマ】 antibiotic contamination and metagenomics study of wastewater and river environment as well as aquaculture 【受賞歴】 1. University student awards for academic results, University of Dhaka 2002-2006, 2. MEXT fellowship for PhD, Japan Govt., 2015-2019; 3. Best Research Award (Gold Medal) – Assistant professor category, University of Dhaka, 2015-16; 4. Excellent presentation awards for two consecutive years 2017 and 2018 from JWET, JAPAN; 5. JSPS postdoctoral fellowship, 2023-2025, JAPAN govt.

国際・社会連携室

鈴木 康嗣 **SUZUKI Yasutsugu**

【職名】 特定准教授 【電話】 089-927-9855 【FAX】 なし 【E-mail】 suzuki.yasutsugu.ao@chime-u.ac.jp 【学歴】 平成24年3月 京都大学大学院生命科学研究科博士課程修了 【学位】 平成24年3月 京都大学博士(生命科学) 【所属学会】 ウイルス学会, 分子生物学会 【専門分野】 ウイルス学, 衛生昆虫学 【主な研究テーマ】 1. 媒介蚊における内在性ウイルス配列の機能解析, 2. 媒介蚊のウイルスに対する不顕性感染メカニズムの解明, 3. 非レトロ RNA ウイルスの内在化機構の解明, 4. シマカにおける蚊媒介性ウイルス感染に関わる宿主遺伝子の探索, 5. 新規蚊媒介性ウイルスの探索と人への伝播リスク予測 【受賞歴】 2019年10月 Best oral presentation prize, 18th Cell Biology of Viral Infections workshop, Schöenthal, Germany

ディビナ・メディナ・アマリン **Davina Medina AMALIN**

【職名】 教授 (デラサール大学教授) 【電話】 +63 2 524 4611 【E-mail】 divina.amalin@dlsu.edu.ph 【学歴】 フロリダ大学 昆虫・線虫学科博士課程修了 【学位】 1999年6月30日 フロリダ大学博士(昆虫学) 【所属学会】 Philippine Association of Entomologists (フィリピン昆虫学協会), Entomological Society of America (米国昆虫学会), Florida Entomological Society (フロリダ昆虫学会), American Arachnological Society (米国蜘蛛学会) 【専門分野】 昆虫学 【主な研究テーマ】 生態学的アプローチによる農業生産やヒト健康への害虫制御法の開発に関する研究

メリー・ジェーン・クルス・フローレス Mary Jane Cruz Flores

【職名】准教授（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 准教授）【学歴】デラサール大学博士課程修了【学位】2010年5月デラサール大学博士（生物学）【所属学会】フィリピン昆虫学者協会，フィリピン生物学教員協会，フィリピン微生物学会，フィリピン国立研究評議会【専門分野】ベクター感染症【主な研究テーマ】マダニ感染症【受賞歴】准教授クラスファカルティメダル受賞（デ・ラサール大学），St. Jaime Hilario Pillar of Lasallian Excellence Award in Community Engagement（デ・ラサール大学），St. Benilde Romancon Pillar of Lasallian Excellence Award in Teaching（デ・ラサール大学）

アンナ・カレン・ラセルナ Anna Karen Laserna

【職名】特定助教（愛媛大学），Academic Service Faculty（Central Instrumentation Facility，デラサール大学）【E-mail】anna.laserna@dlsu.edu.ph【学歴】シンガポール国立大学【学位】2016年3月31日シンガポール国立大学博士課程修了（化学）【所属学会】Kapisanang Kimika ng Pilipinas; Integrated Chemists of the Philippines【専門分野】Analytical Science, Mass Spectrometry, Metabolomics【主な研究テーマ】Analytical Science- Environmental Analysis, Water Quality, Various applications of metabolomics and mass spectrometry（food, toxicology, clinical/pre-clinical）【受賞歴】DOST PCHRD Long Term Balik (Returning) Scientist

高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授（株式会社島津テクノリサーチ 執行役員 環境事業部事業部長）【電話】075-811-3183【FAX】075-821-7837【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp【学歴】昭和60年3月愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了【学位】平成13年5月東京大学博士（農学），平成15年2月スウェーデン Örebro 大学名誉博士【所属学会】1. 日本環境化学会，2. 日本分析化学会，3. 日本内分泌攪乱物質学会，4. 廃棄物資源循環学会【専門分野】1. 環境化学，2. 分析化学，3. 環境分析化学，4. 廃棄物処理【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究，2. POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究，3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発，4. GC/MS（EI 及び NCI）法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究，5. GC-HR-TOFMS を用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析，6. 新規 POPs を含む各種有機ハロゲン化合物等の測定分析法開発【受賞歴】1994年6月日本環境化学会技術賞，1997年6月日本環境化学会学術賞，1999年11月環境測定分析功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会），2003年2月スウェーデン Örebro 大学名誉博士，2009年5月協会功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）

クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授 (New York University School of Medicine 教授) 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院 連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 愛媛大学博士 (学術) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 有害化学物質によるヒト曝露とリスク評価, 2. 有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal – Environmental Science and Technology in 2004, ISI Highly Top 10 Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2012, ES&T Super Reviewer Award in 2013, United States Environmental Protection Agency, Scientific and Technological Achievement Award in 2015, ISI Thomson Reuters, Most influential scientific minds in the world, Top 1% Highly cited researcher in Ecology/Environment in 2015, Larry S. Sturman Excellence in Research Award, Wadsworth Center in 2017

呉 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授 (韓国国立全南大学校水産生命医学科教授) 【電話】+82-61-659-3173 【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 北海道大学水産学博士 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1. 魚病学, 2. 病原微生物学 【主な研究テーマ】1. 魚類ウイルス病に関する研究, 2. 食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries

金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】客員教授 (韓国慶熙大学教授) 【電話】+82-2-961-2310 【E-mail】eykim08@khu.ac.kr 【学歴】平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月 愛媛大学博士 (学術) 【所属学会】1. 日本環境化学学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒理学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的の反応・感受性のバイオマーカーの探索, 3. 細胞内受容体の *in silico* ドッキングシミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

マイケル・トーマス・モナハン Michael Thomas MONAGHAN

【職名】客員教授 (ライプニッツ淡水生態学・内水漁業研究所教授) 【電話】+49 (0) 30 64181 684 【E-mail】monaghan@igb-berlin.de 【学歴】スイス連邦工科大学 博士課程修了 【学位】2002年6月30日 スイス連邦工科大学博士 (環境科学) 【所属学会】Society for Freshwater Sciences (淡水科学国際学会), Society of Systematic Biologists (システム生物学会), European Society of Evolutionary Biology (欧州進化生物学会), Linnaean Society of London (ロンドンリンネ学会) 【専門分野】河川生態学 【主な研究テーマ】淡水生態系の生物多様性に関する研究

3. 研究プロジェクト

3. 研究プロジェクト

(令和5年度)

3.1 科学研究費等

No.	部 門	研究担当者	区分	新規/継続	研究種目	研 究 課 題	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	黄海底部冷水塊における残留性有機汚染物質の濃度上昇に関する現場検証と機構解明	4,680,000	世界で最も閉鎖性の強い底部冷水塊の形成域の一つである黄海を対象とし、粒子態 POPs の分解と溶出より溶存態 POPs の濃度上昇という作業仮説を現場観測に基づいて検証し、そのメカニズムを解明する。
2	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	継続	学術変革領域研究 (A)	沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価	6,500,000	黒潮流域とその内側の沿岸域の間に存在する淡水と栄養物質の交換過程を定量化し、水平移流と鉛直混合が両海域間における物質輸送に果たす役割、ならびに基礎生産への寄与を解明することを目的として、物理および生物・化学の観測と低次元生態系モデルをベースにした研究を行う。
3	環境動態解析部門	郭 新宇	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	瀬戸内海島嶼部最古の縄文遺跡とその環境に関する総合的研究 (代表: 愛媛大学 村上 恭通)	325,000	愛媛県越智郡上島町佐島東岸から出土した縄文草創期末～早期初頭の土器を理解するため、この時期の旧地形 (平野・河川) と海岸線を瀬戸内海の潮汐モデル結果から復元する。
4	環境動態解析部門	郭 新宇	分担	継続	学術変革領域研究 (A)	マクロ沿岸海洋学の研究推進 (代表: 東京大学 羽角 博康)	5,070,000	日本沿岸海域における栄養物質の起源や利用の実態を解き明かすことを目的として、陸域から外洋までの中で生じる様々な現象を統合的に表現するシミュレーションシステムを構築する。
5	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	新規	基盤研究 (B) 一般	境界流と沿岸域との相対位置に着目した外洋から沿岸への栄養塩供給に関する研究	5,200,000	地球回転系の視点から、境界流の流向に対する沿岸域の相対位置の違いに着目し、黒潮の左側にある瀬戸内海と対馬暖流の右側にある若狭湾を選択し、現場観測と高解像度の数値モデル計算から外洋水の入入過程に関する物理機構を解明する。
6	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (C) 一般	湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動 (代表: 琵琶湖博物館 里口 保文)	208,000	琵琶湖南湖において、湖底における水草の繁茂が問題となっており、その繁茂が近年の人為活動によるものなのか、それ以前でも自然で起こってきたものなのかを調べるため、湖底堆積物を使った水草の動態を解明する。
7	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (C) 一般	アーカイブとしての堆積物を用いた阪神大震災時のアスベスト放出状況の評価 (代表: 大阪公立大学 井上 淳)	130,000	阪神大震災の火災による飛灰中に含まれるアスベストは、どの程度放出されているのかについて明らかにするため、池の堆積物を使って、その沈積量を明らかにする。
8	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (C) 一般	湖沼生態系への温暖化対策の影響解明に向けた環境 DNA による新たな評価手法の構築 (代表: 松山大学 槻木 玲美)	130,000	水位操作で琵琶湖の沿岸部の魚の卵の干上がり、食物網を通じて琵琶湖湖沼生態系の全体に与えた影響はわかっていない。そこで、堆積物中に遺骸として残らない動物プランクトン当の環境 DNA を使って、過去の動態を明らかにする。
9	環境動態解析部門	加 三千宣	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	別府湾堆積物の人新世境界模式地選定に向けたキーマーカーデータセットの構築	1,575,600	現在新たな地質時代として人新世が到来したとされる。しかし、その根拠となる国際標準模式地がまだ決まっていない。本研究は、別府湾において人新世の始まりを特徴づける人新世キーマーカー層序のデータセットを構築することで、別府湾堆積物が人新世の GSSP に選定されることを目指す。
10	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	残留性有機汚染物質の包括網羅分析に基づくマスバランス解析と生態リスクの時系列評価 (代表: 愛媛大学 高橋 真)	520,000	国内複数地点の湖沼・沿岸の堆積物柱状試料を活用し、近年国際的に注目されている残留性有機汚染物質 (POPs) および代替/類縁物質について先端分析機器による一斉網羅分析を実施し、汚染実態の時系列評価や発生源解析を行う。

11	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (S) 一般	微細マイクロプラスチックの動態を含む海洋プラスチック循環の包括的解明 (代表:九州大学 磯辺 篤彦)	2,600,000	微細マイクロプラスチックの動態は、マイクロプラスチック汚染研究の最先端である。本研究では、ミッシングリンクと考えられる海底への堆積量の歴史の変遷を明らかにする。
12	環境動態解析部門	森本 昭彦	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	太平洋から沿岸への栄養塩供給システム; 豊後水道の底入り潮の理解	1,040,000	豊後水道では夏季を中心に低温で高栄養な水塊が太平洋から豊後水道内へ突発的に進入する底入り潮と呼ばれる現象が発生する。本研究では係留系観測と繰り返し船舶観測により底入り潮の発生を捉え、その力学バランスを明らかにする。さらに、数値モデルにより底入り潮に伴う栄養塩供給量を定量化する。
13	環境動態解析部門	森本 昭彦	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	北部タイランド湾の富栄養化解消に向けた栄養塩循環の把握	4,550,000	北部タイランド湾には5つの河川から大量の有機物が供給され富栄養化が進行している。富栄養化の解消に向け、湾内の栄養塩循環に対する各河川の役割と赤潮の発生メカニズムの解明を目的に観測とモデル研究を実施する。
14	環境動態解析部門	森本 昭彦	分担	継続	新学術領域研究 (研究領域提案型)	台風・爆弾低気圧の予測可能性とスケール感大気海洋相互作用 (代表:九州大学 川村 隆一)	1,300,000	台風や低気圧が海上を通過することに伴い起こる海洋内の現象を観測と数値モデルにより明らかにする。さらに、海洋内の変化が大気へ及ぼす影響を調べる。
15	環境動態解析部門	吉江 直樹	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	新世代衛星・現地機動観測を融合する突発的な黒潮の沿岸進入過程の予測と理解 (代表:海洋研究開発機構 美山 透)	975,000	豊後水道では夏季を中心に高温で貧栄養な黒潮系外洋水が突発的に進入する急潮と呼ばれる現象が発生する。本研究では急潮に即応できる機動観測を実施し、研究代表者らの数値モデルの精度検証を行うとともに、急潮に伴う低次生態系の応答を明らかにする。
16	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	分担	継続	挑戦的研究 (萌芽)	アミロイド凝集を指標とした生体化合物の内分分泌攪乱性評価法の創出 (代表:愛媛大学 座古 保)	260,000	凝集性タンパク質であるアミロイドβの凝集を指標とした、簡便かつ高感度な内分分泌攪乱性の分析評価法を開発する。開発した分析法を用いて、化学物質の甲状腺ホルモン輸送タンパク質であるトランスサイレチンとの結合能を評価する。
17	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	ベトナムの廃棄物・排水処理由来の微細プラスチック/新興化学物質汚染とリスク評価	3,900,000	経済発展が著しいベトナムの首都ハノイおよびその近郊を対象に、廃棄物や排水の不徹底処理で環境中への放出が予想されるマイクロプラスチックと有害化学物質の汚染実態と生態リスクに関するデータを集積し、環境改善や対策技術構築のための科学的基礎データを提示する。
18	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	残留性有機汚染物質の包括網羅分析に基づくマスバランス解析と生態リスクの時系列評価 (代表:愛媛大学 高橋 真)	975,000	国内の湖沼・沿岸の堆積物柱状試料を活用し、残留性有機ハロゲン化合物 (POHCs) 汚染の時系列評価や発生源解析を行う。また、POHCsの包括指標として総有機態ハロゲンに着目し、個別物質や化学形態別の分析結果と統合することで、物質マスバランスを時系列的に解析する。
19	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	代表	新規	基盤研究 (A) 一般	アジア太平洋地域における要監視・新興化学物質の時空間トレンド解析と生態リスク評価	11,760,000	アジア太平洋地域で採集した多様な環境・生物試料を用いて、国際社会で関心の高い要監視化学物質の残留性有機汚染物質 (POPs) と水銀に加え、近年新たに環境残留性や生態影響が危惧されている新興化学物質における広域汚染の実態と時系列トレンドを解明し、in silico・in vitro・in vivo 試験からリスクを評価する。
20	化学汚染・毒性解析部門	後藤 哲智	分担	新規	基盤研究 (B) 一般	ノンターゲット分析とQSARの融合手法を用いた海洋化学環境の評価 (代表:産業技術総合研究所 頭士 泰之)	1,300,000	ノンターゲット分析で実測した全検出化合物の物理化学特性及び毒性をDetective-QSARで網羅的に解析することにより、海洋化学環境の実態とリスクを把握する。
21	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	継続	挑戦的研究 (開拓)	毒性試験の高感度化・効率化を目指したMITAシステムの構築と実践 (代表:北海道大学 池中 良徳)	520,000	本研究で提案するMITAシステムは、中枢神経の活動や代謝系の観察を、最先端のイメージング技術を用いることにより可視化する。それにより、連続的かつ高感度で、これまで見落とされていたAdverse Effectsを検出する。

3. 研究プロジェクト

22	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	代表	継続	基盤研究 (A) 一般	魚類を指標としたイオン性環境汚染物質による脳移行の実態とリスク評価法の開発	3,900,000	多様な野生魚類を対象に PPCPs の曝露と脳移行性の定量的評価に基づき、脳移行性の予測モデルを構築する。複数種のモデルフィッシュを用いた曝露試験を通じて脳中の内因性ホルモンや神経伝達物質の変化等、行動異常に繋がる Key Event を明らかにし、感受性と種差を解析する。
23	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	魚類胚の全身スクリーニングと統合オミクスを基盤とした化学物質の毒性発現機序解明 (代表: 帯広畜産大学 久保田 彰)	325,000	新たな動物実験代替法の開発と活用と寄与するゼブラフィッシュ胚を用いて、社会的・学術的に関心の高い化学物質の毒性評価と毒性発現機序解明を試みる。
24	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	新規	基盤研究 (A) 一般	脳機能攪乱検出法・診断法の開発を起点としたシグナル毒性評価プラットフォームの創設 (代表: 北海道大学 池中良徳)	130,000	本研究では、これまでの毒性試験では検出できなかった、シグナル毒性を起因とする脳機能ネットワーク攪乱を検出するため、新たなイメージング技術の確立を目指すと共に、高感度なバイオマーカーを開発する。
25	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	代表	継続	基盤研究 (A) 一般	化学物質による水棲哺乳類細胞内受容体シグナル攪乱と感受性を規定する分子機構の解明	7,800,000	水圏生態系の頂点に位置し、進化学的に独自の分類群に属する水棲哺乳類の細胞内受容体のシグナル伝達系を対象に、環境汚染物質による系の攪乱を先端技術によって解析し、種特異的な感受性を評価する。さらにその知見を基に、種差の原因となる感受性規定因子の分子的理解を目指す。
26	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	メキシコ産ワニを対象とした次世代型モニタリング基盤の開発	4,160,000	淡水生態系の頂点に位置するメキシコのモレレットワニを対象に、環境汚染物質による影響を先端技術によって解析し、モニタリング基盤を確立する。具体的には、ユカタン半島に生息するモレレットワニの複数の野生個体群から血液・鱗甲・爪を非侵襲的に採取し、多様な環境汚染物質の曝露 (エクスポゾーム) を網羅的に測定するとともに、包括的な多元的オミックス解析をおこない、野生個体群への影響とその至適バイオマーカーを明らかにする。
27	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	代表	継続	基盤研究 (C) 一般	トラフグ口白症新規遺伝子産物を活用した感染機序の解明とワクチンの開発 (代表: 三重大学 一色 正)	130,000	トラフグ口白症原因ウイルスのゲノム情報を解析し、その情報に基づいたウイルスの系統学的解析を行うとともに、病原性因子を特定し、DNA ワクチンの開発を行う。
28	化学汚染・毒性解析部門	落合 真理	代表	継続	基盤研究 (C) 一般	鯨類 iPSC 細胞の樹立と環境汚染物質の神経毒性リスク評価への応用	1,105,000	鯨類の培養細胞から iPSC 細胞および神経細胞を作成し、環境汚染物質への曝露による毒性影響を評価する。
29	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	代表	継続	基盤研究 (C) 一般	生物濃縮性・生態毒性を有する未規制化学物質の網羅的探索	1,560,000	国内外で採集した環境水と水生生物試料を対象に、液体クロマトグラフ-四重極飛行時間型質量分析計 (LC-QToF-MS/MS) を用いたワイドターゲット (約400種)・サスベクトスクリーニング (約3500種) 分析により、水生生物に対して高い濃縮性 (移行・残留性) を有する化学物質の網羅的探索を試みる。
30	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	分担	新規	挑戦的研究 (萌芽)	希少鳥類の生息域外保全に資する非侵襲的薬物感受性評価法の開発と臨床応用 (代表: 帯広畜産大学 久保田 彰)	169,000	希少鳥類における治療薬物の代謝および感受性を in vitro・in silico で評価することにより、より安全性の高い投薬プロトコルの確立を目指す。
31	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (C) 一般	DNA 情報に基づく水生昆虫の流域内多様性評価手法の構築と流域管理への応用 (代表: 山梨大学 八重樫 咲子)	195,000	環境 DNA のメタバーコーディング解析による水生昆虫の流域内の種多様性を評価する
32	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	ゲノム情報が解明する河川生物の環境応答: 自然選択と機能的多様性に着目した保全	4,940,000	河川生物のゲノムワイドの塩基配列情報を解析し、種・個体群レベルおよび群集レベルの環境応答を正確に定量する新規的技術を開発する。
33	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	代表	継続	挑戦的研究 (萌芽)	水環境中細菌の種ごとの薬剤耐性遺伝子保有率を推定するガラボン法の開発	3,250,000	環境細菌群集を構成する各種の耐性遺伝子の保有率を推定するガラボン法を開発する。
34	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	ウイルス抵抗性遺伝子を活用した Dengue 熱媒介蚊の効率的な制御	6,240,000	ネッタイシマカの Dengue ウイルス感染・複製への抵抗性を決めている遺伝子をマーカーとして、Dengue ウイルス伝播ポテンシャルが高い蚊地域集団を見つけ、それらを狙い撃ちにした殺虫剤散布などの効率的な Dengue 熱制御手法を提案する。

35	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	下水疫学を用いたアジアの途上国における病原ウイルス監視基盤の構築と感染リスク制御 (代表: 東京大学 福士 謙介)	3,120,000	アジアの途上国の下水を使った病原ウイルスの検出技術の開発と感染リスクを評価する手法の開発
36	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	河川生息場の時空間的多様性を指標とする生態系管理: 動的環境への適応進化と棲み分け (代表: 大阪公立大学 竹門 康弘)	2,600,000	生息場の空間分布や種類別日齢と生息種間の遺伝的系統関係との連関を分析し、生息種の種分化に果たす生息場の時空間的多様性の役割 (生息場の種分化ポテンシャル) や棲み分けの進化過程を推定する。
37	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	水環境に潜伏する薬剤耐性菌から人への耐性遺伝子の伝播機構とリスク評価 (代表: 愛媛大学 鈴木 聡 (工))	6,630,000	臨床および水圏起源の耐性遺伝子が病原菌・腸内細菌に伝播するプロセスを解析し、水圏から人間環境へ耐性遺伝子が侵入する機構・条件を解明し、リスク評価を目指す。遺伝子伝播と侵入の機構を解明する。
38	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	新型コロナ様パンデミックを誘因する未知&変異病原ウイルスの下水からの早期検出手法 (代表: 東北大学 大村 達夫)	2,080,000	人々の社会生活から排出される下水から、パンデミックを誘引する可能性がある未知病原ウイルスや既知病原ウイルスの変異株を早期検出するシステムを開発する。
39	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	見えない自然を守る～DNAによる河川地下フロンティア領域の可視化 (代表: 北海道大学 根岸 淳二郎)	910,000	防災と両立する河川・水辺生態系保全事業の効果の最大化に向けて、見えないフロンティア領域である地下環境 (河床間隙水域) を DNA 技術の応用により可視化する。
40	生態・保健科学部門	大林由美子	分担	継続	基盤研究 (C) 一般	「摂餌利益」による甲殻類マイクロネクトンの海洋生態系における機能評価 (代表: 静岡大学 宗林 留美)	130,000	海洋でのバイオマスが多く鉛直移動を行う甲殻類マイクロネクトンについて、摂餌行動がもたらす生理機能への影響 (「摂餌利益」) と高次栄養段階へのその輸送を調査し、海洋生態系における彼らの機能を評価する。
41	生態・保健科学部門	大林由美子	分担	新規	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	東南アジアにおけるクラゲ類の種多様性および食用クラゲ類の生態的役割の解明 (代表: 北里大学 三宅 裕志)	390,000	東南アジアのクラゲ類の種多様性・種分化と、餌生物・共生生物を含めた生態を調査する。食用クラゲ類の生態・生息環境・生態系での役割を明らかにすることで、生物や環境の保全と、東南アジアでは大きな産業であるクラゲ漁業の持続的生産に繋げる。
42	生態・保健科学部門	大林由美子	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	海洋の細菌群集をめぐる“見えない生物間作用”の実態とその機能: 栄養塩再生への寄与	2,990,000	海水中の細菌群集をめぐる、有機物の低分子化を介した“見えない生物間作用”を明らかにし、水圏生態系でのその機能、特に栄養塩再生への寄与と一次生産者への影響を解析する。
43	生態・保健科学部門	大林由美子	分担	継続	基盤研究 (A) 一般	大気海洋境界領域の微生物学: 海泡濃集と雲核へのリンケージ (代表: 東京大学 浜崎 恒二)	780,000	大気海洋境界領域における有機物と微生物の動態と、微生物活動が海水飛沫エアロゾルの雲核活性に与える影響を検討する。
44	生態・保健科学部門	北村 真一	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	マボヤ被囊軟化症における軟化の分子機構の解明	4,693,000	病原鞭毛虫 <i>Azumibodo hoyamushi</i> に起因するマボヤの被囊軟化機構を解明する。我々のこれまでの研究結果から、被囊の主成分であるセルロースは分解されていないことが分かったので、本課題では被囊中のタンパク質に注目して、軟化機構の解明を目指す。
45	生態・保健科学部門	鈴木 康嗣	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	内在性ウイルス配列の抗ウイルス機構による媒介蚊の繁殖戦略の解明	3,510,000	媒介蚊ゲノム中に組み込まれているウイルス由来の DNA 配列 (内在性ウイルス配列) が、媒介蚊の繁殖に重要な役割を果たしているのかを検討する。
46	生態・保健科学部門	鈴木 康嗣	代表	継続	国際共同研究加速基金 (B)	媒介蚊はなぜウイルス感染で深刻な病態を示さないのか: 不顕性感染メカニズムの解明	4,160,000	媒介蚊がウイルス感染において、病態を発症しない状態、「不顕性感染」を成立させるために重要な宿主遺伝子を同定とその分子機構の理解を目指す。
47	生態・保健科学部門	鈴木 康嗣	代表	継続	挑戦的研究 (萌芽)	媒介蚊のゲノムに眠る古代ウイルス遺伝子は蚊に深刻な病態を引き起こすのか?	1,690,000	シマカに病原性を持つウイルスは媒介蚊の制御手段となり得る。本研究では、シマカのゲノムに化石として残るウイルス遺伝情報 (内在性ウイルス配列) に着目し、蚊に深刻な病態を誘導する古代のウイルス遺伝子の同定と復元に挑戦する。

3. 研究プロジェクト

48	環境動態解析部門	WANG SHUYA	代表	新規	特別研究員 奨励費	黒潮流域における流れと地形の相互作用に起因する内部波と乱流混合	1,000,000	黒潮が通過するトカラ海峡とその周辺海域における内部潮汐と近慣性波の形成と伝播、さらに乱流混合への影響を数値モデルから評価する。
49	化学汚染・毒性解析部門	BUENFIL ROJAS ASELA MARISOL	代表	新規	特別研究員 奨励費	メキシコ・ワニ野生個体群の化学物質汚染と影響の統合的評価	1,200,000	メキシコのモレレットワニを対象に、環境汚染物質による影響を先端技術によって解析し、影響の統合的評価法を確立する。具体的には、ユカタン半島に生息するモレレットワニの野生個体群から血液・鱗甲・爪を非侵襲的に採取し、多様な環境汚染物質の曝露を網羅的に測定するとともに、包括的な多元的オミックス解析をおこない、曝露とオミックス測定値の関係を明らかにする。
50	生態・保健科学部門	三浦 郁修	代表	継続	特別研究員 奨励費	下水中微生物データと機械学習モデルによるノロウイルス感染症の動態理解	3,900,000	下水中微生物データと機械学習モデルを組み合わせてノロウイルス感染症の動態を理解する。
51	生態・保健科学部門	柳原 未奈	代表	継続	特別研究員 奨励費	環境モニタリングデータを用いた生態毒性予測手法の開発	4,550,000	既存の大規模データを活用しながら、化学物質が水生生物へ及ぼす複合的な影響を予測する手法を提案する。さらに、対策が求められる化学物質について推定し、毒性影響の低減に活用される知見を報告する。
52	生態・保健科学部門	HOSSAIN ANWAR	代表	新規	特別研究員 奨励費	養殖排水中の抗生物質の除去と薬剤耐性菌の制御：バン格拉ディッシュへ適用可能な新技術	1,200,000	バン格拉ディッシュの養殖池からの排水中の抗生物質を除去する技術開発とそと薬剤耐性菌の制御効果の評価を行う
53	生態・保健科学部門	CRUZ Khristina Judan	代表	継続	特別研究員 奨励費	遺伝子組換えティラピアのゲノムワイド探索：養殖における水資源管理への応用	1,100,000	遺伝子組換えティラピアの機能的遺伝子をゲノムワイドに探索して養殖における水資源管理への応用を目指す。

・金額は令和5年度に受け入れた直接経費（補助金、基金）及び間接経費の合計額

3.2 共同研究

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	寄 附 者	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	沿岸域から外洋域へのブルーカーボン（生物粒子）の輸送過程に関する研究開発	海洋研究開発機構	1,320,000	瀬戸内海から外洋域への生物粒子の流出量とそれに関わるプロセスの解明
2	生態・保健科学部門	北村 真一	フコイダンによる養殖魚・エビの感染性疾患に対する効果検証	(株)ヤクルト本社	7,111,000	免疫賦活剤に注目したオキナワモズクフコイダンによる養殖魚類における感染症の発症予防効果の検証

・金額は令和5年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3.3 受託研究

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	委 託 者	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	NEDO 非可食性バイオマスを原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	7,629,120	瀬戸内海と北西太平洋を対象とする海洋生態系とポリマーを考慮した POPs 動態モデル開発を行う。
2	環境動態解析部門	郭 新宇	環境研究総合推進費 気候変動による富山県の水・栄養塩循環への影響評価と適応策の検討	(環境省) 富山大学	8,970,000	富山県水モデルの結果を富山湾低次生態系モデルに導入し、富山県の水・栄養塩循環システムの再現し、水・栄養塩の輸送経路・輸送量を解明する。
3	環境動態解析部門	加 三千宣	NEDO 非可食性バイオマスを原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	3,722,016	マルチロック型で強靱性を有するバイオプラスチックの開発に向けて、自然環境中での高分子材料の動態を解き明かし、プラスチックなどポリマーの細分化メカニズムを明らかにする。
4	環境動態解析部門	吉江 直樹	漁業環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 「有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発」	(農林水産省) 水産研究・教育機構 水産技術研究所	500,000	西日本沿岸域で多発するカレンニア・ミキモトイによる赤潮の発生・衰退機構を現場観測と数値モデルを組み合わせ明らかにすることを旨とする。

5	環境動態解析部門	吉江 直樹	漁場環境改善推進事業のうち栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査「栄養塩等の水質環境が小型浮魚の餌料環境に及ぼす環境解明」	(農林水産省) 水産研究・教育機構 水産技術研究所	5,300,000	沿岸域における栄養塩濃度の変動と小型浮き魚の餌料として重要なメソ動物プランクトン量の変動の関連性について数値モデルを用いて明らかにすることを旨す。
6	環境動態解析部門	吉江 直樹	海洋酸性化適応プロジェクト	特定非営利活動法人里海づくり研究会	1,510,000	沿岸域における海洋酸性化の現状について、豊後水道3か所において高精度連続モニタリングすることにより明らかにすることを旨す。
7	環境動態解析部門	吉江 直樹	伊方原発温排水影響調査	愛媛県	650,000	伊方原発の温排水の影響について、海洋の流動場および動物プランクトンおよび植物プランクトン現存量を調査する。
8	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	NEDO 非可食性バイオマスを原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	4,167,310	海洋環境におけるマルチロック型バイオポリマーの長期動態・生態影響予測システムを構築するため、海水-ポリマー界面における POPs の吸脱着モデルを開発する。
9	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	オープンイノベーション研究・実用化推進事業 高品質養殖魚の育種・完全養殖サイクルの構築と出荷社会実装	農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	4,700,000	同一条件で飼育されたスマの筋肉中 PCBs および水銀蓄積濃度に個体差や季節間差が認められるかを検証し、低濃度個体群の選定と要因解析を実施する。
10	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	創発的研究支援事業 環境リスクの高い未規制化学物質の探知とリスク低減措置の検討	科学技術振興機構	6,500,000	高い感度を有する LC-MS/MS と高い質量分解能を有する LC-QToF-MS/MS を活用した日本および南・東南アジア諸国の水圏環境に残留する人工化学物質とそれらの環境変化体の網羅分析を試みる。また、環境動態、生物濃縮性、生態毒性を解析することにより、生態リスクの高い未規制化学物質（優先的に詳細調査すべき化学物質と変化体）の提示を旨す。
11	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	農学・環境学分野に関する学術研究動向及び学術振興方策-環境化学・毒性学分野における新たな潮流の解析	日本学術振興会	5,200,000	環境化学・毒性学分野における新たな研究の潮流を解析し、今後の研究方策を提言する。
12	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価（高懸念マイクロプラスチックの生物影響評価に関する研究）	(環境省) 国立環境研究所	6,687,000	タイヤ、再生プラ、繊維を対象に魚類に対する有害な影響を検出し、その閾値に基づいて生態リスクを評価する。
13	生態・保健科学部門	北村 真一	(重) 宇和島港海域環境調査2	愛媛県南予地方局	512,039	魚類のスクーチカ症の原因虫 <i>Miamiensis avidus</i> の環境動態の解明を行っている。
14	生態・保健科学部門	大林由美子	(重) 宇和島港海域環境調査2	愛媛県南予地方局	512,040	魚類のスクーチカ症の原因虫 <i>Miamiensis avidus</i> の環境動態の解明を行っている。
15	生態・保健科学部門	北村 真一	(重) 宇和島港海域環境調査3	愛媛県南予地方局	1,865,283	魚類のスクーチカ症の原因虫 <i>Miamiensis avidus</i> の環境動態の解明を行っている。
16	生態・保健科学部門	大林由美子	(重) 宇和島港海域環境調査3	愛媛県南予地方局	1,758,717	魚類のスクーチカ症の原因虫 <i>Miamiensis avidus</i> の環境動態の解明を行っている。
17	生態・保健科学部門	三浦 郁修	戦略的創造研究推進事業 大規模社会データを縮約する数理疫学手法の構築：理論に基づく感染症対策の新展開	科学技術振興機構	6,500,000	異分野において収集されているが未だ活用されていない「代替データ（人々の社会活動やウイルスの蔓延状況を反映する多様なデータ）」を統合し、迅速かつ詳細な感染動態の把握と介入政策の最適化を実現する数理的アプローチを提案する。

・金額は令和5年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3. 研究プロジェクト

3.4 奨学寄附金

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	寄 附 者	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	海洋科学に関する研究のため	Dr. Chen-Tung Arthur Chen	1,002,023	東シナ海を中心とする海洋生態系に関わる栄養塩輸送の研究
2	環境動態解析部門	森本 昭彦	沿岸海洋に関する研究	日本海洋学会沿岸海洋研究会	450,000	日本周辺の沿岸域における物理・化学・生物過程に注目し、最新の研究成果の情報を収集する。
3	環境動態解析部門	森本 昭彦	森本昭彦教授への研究助成	宇和海水温情報運営管理協議会	160,825	宇和海沿岸に設定されている多層水温計データによる水温連続データの取得と、水温変化に関わる現象の把握を目的とした研究を実施する。
4	環境動態解析部門	吉江 直樹	栄養塩類から高次生態系を含む統合シミュレーションの構築	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会	1,500,000	海水中の微量な肥料物質から魚類などの高次栄養段階生態系までを包括的に取り扱うことができる統合モデルの構築を目的とした研究を実施する。
5	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	沿岸環境科学研究センターにおける研究のため	株式会社シアテック	200,000	沿岸環境科学研究センターの生態・保健科学部門で実施する研究を推進する。
6	生態・保健科学部門	北村 真一	魚類感染症に関する研究	松岡科学研究所	1,000,000	魚介類の感染症（リンホシスチス病・スクーチカ症・マボヤ被囊軟化症）の基礎研究および対策に関する研究を行っている。

・金額は令和5年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3.5 受託事業

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	委 託 者	金額 (円)	概 要
1	科学汚染・毒性解析部門	Chalida CHOMPOOBUT (岩田 久人)	論文博士号取得希望者に対する支援事業	日本学術振興会	1,200,000	タイ・バンコクの住民を対象に、マイクロプラスチック曝露量と血中トランスクリプトームの関係を明らかにする。
2	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	生態学的アプローチによる蚊媒体感染症の制御	日本学術振興会	6,424,000	日本・フィリピン・インドネシア・パングラデシュ・モザンビーク・シンガポールにおける「蚊媒体感染症に対応する生態研究拠点」を構築する。

・金額は令和5年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3.6 補助金

該当なし

- Paleoceanography and Paleoclimatology*, **38**(1), e2022PA004486, DOI: 10.1029/2022PA004486.
- 13) Zhu, J., Zhou, Q.Y., Zhou, Q.Q., Geng X., Shi, J., Guo, X., Yu, Y., Yang, Z. and Fan, R. (2023): Interannual variation of coastal upwelling around Hainan Island. *Frontiers in Marine Science*, **10**, 1054669. doi: 10.3389/fmars.2023.1054669.
 - 14) Guo, Z., Wang, S., Cao, A., Xie, J., Song, J., Guo, X. (2023): Refraction of the M2 internal tides by mesoscale eddies in the South China Sea, *Deep Sea Research Part I*, **192**, 103946, <https://doi.org/10.1016/j.dsr.2022.103946>.
 - 15) Takahashi, H., Sakaguchi, A., Hain, K., Wiederin, A., Kuwae, M., Yamasaki, P., Sueki, K. (2023): Reconstructing the chronology of the natural and anthropogenic uranium isotopic signals in a marine sediment core from Beppu Bay, Japan. *Heliyon*, **9**(4), e14153. <https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2023.e14153>
 - 16) Kuwae, M., Finney, B., Shi, Z., Sakaguchi, A., Tsugeki, N., Omori, T., Agusa, T., Suzuki, Y., Yokoyama, Y., Hinata, H., et al., (2023): Beppu Bay, Japan, as a candidate Global boundary Stratotype Section and Point for the Anthropocene series. *The Anthropocene Review*, **10**, 49-86. <https://doi.org/10.1177/20530196221135077>
 - 17) Nakane, K., Liu, X., Doi, H., Dur, G., Kuwae, M., Ban, S., Tsugeki, N. (2023): Sedimentary DNA can reveal the past population dynamics of a pelagic copepod. *Freshwater Biology*, **68**, 1917–1928. <https://doi.org/10.1111/fwb.14096>
 - 18) Hinata, H., Kuwae, M., Tsugeki, N., Masumoto, I., Tani, Y., Hatada, Y., Kawamata, H., Mase, A., Kasamo, K., Sukenaga, K. and Suzuki, Y. (2023): A 75-year history of microplastic fragment accumulation rates in a semi-enclosed hypoxic basin. *Science of The Total Environment*, **854**, 158751. doi: 10.1016/j.scitotenv.2022.158751.
 - 19) Almeida, S., Radeta, M., Kataoka, T., Canning-Clode, J., Pessanha Pais, M., Freitas, R., & Monteiro, J. G. (2023). Designing Unmanned Aerial Survey Monitoring Program to Assess Floating Litter Contamination. *Remote Sensing*, **15**(1). doi:10.3390/rs15010084
 - 20) Andriolo, U., Topouzelis, K., van Emmerik, T. H. M., Papakonstantinou, A., Monteiro, J. G., Isobe, A., . . . Gonçalves, G. (2023). Drones for litter monitoring on coasts and rivers: suitable flight altitude and image resolution. *Marine Pollution Bulletin*, **195**, 115521. doi:<https://doi.org/10.1016/j.marpolbul.2023.115521>
 - 21) Kataoka, T., & Fujiki, T. (2023). Applicability of ocean wave measurements based on high-frequency radar systems in an estuary region. *Coastal Engineering Journal*, 1-16. doi:10.1080/21664250.2023.2275469
 - 22) Kataoka, T., Tanaka, M., Mukotaka, A., & Nihei, Y. (2023). Experimental uncertainty assessment of meso- and microplastic concentrations in rivers based on net sampling. *Science of The Total Environment*, **870**, 161942. doi:<https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2023.161942>
 - 23) Tanaka, M., Kataoka, T., & Nihei, Y. (2023). An analytical approach to confidence interval estimation of river microplastic sampling. *Environmental Pollution*, **335**, 122310. doi:<https://doi.org/10.1016/j.envpol.2023.122310>
 - 24) Yuenyong, S., Buranapratheprat, A., Thaipichitburapa, P., Gunbua, V., Intacharoen, P., Morimoto, A. (2023): Fluxes of dissolved nutrients and total suspended solids from the Bang Pakong River mouth into the upper Gulf of Thailand. *Journal of Fisheries and Environment*, **47**(3), 68-83.
 - 25) Cao, A., Wang, S., Morimoto, A., Takikawa, T., Guo, X. (2023): Model content of typhoon-induced near-inertial waves around the East China Sea. *Continental Shelf Research*, **264**, 105055.
 - 26) Mino, Y., Sukigara, C., Watanabe, A., Morimoto, A., Uchiyama-Matsumoto, K., Ishimaru, T. (2023): Rapid growth of surface water pCO₂ revealed by settling particulate organic matter carbon isotope time series during 2001-2009 in Sagami Bay, Japan. *J. Oceanogr.*, **79**, 317-331. <https://doi.org/10.1007/s10872-023-00688-3>.
 - 27) Soeyanto, E., Morimoto, A., Hayami, Y., Sudaryanto, A. (2023): Seasonal spreading and age of Citarum River water in the Jakarta Bay. IOP Conf. Series: *Earth and Environmental Science*, **1137** (2023) 012009.
 - 28) 脇田和美・杉野弘明・鈴木崇史・森本昭彦 (2023) : 兵庫県・香川県住民が描く瀬戸内海のイメージと望ましい姿 ～目指すべき「豊かな海」の具体化に向けて～. *沿岸域学会誌*, **35**(4), 55-67.
 - 29) Morimoto, A., Ito, M., Takikawa, T. (2023): Year-to-year variations in the third branch of the Tsushima Warm Current in the Japan Sea. *Coastal altimetry: case studies from Asian shelf seas*, 215-230. Elsevier, ed. by Idris, N. H. and Vignudelli, S.

総説等

- 1) 加三千宣・齋藤文紀 (2023) : 地質時代としての人新世の定義. 人新世: 科学の挑戦と社会の変革. *科学* **93**, 1020-1022, 岩波書店
- 2) 加三千宣・彼末 成樹 (2023) : 人新世の始まりを示す海底堆積物中のマイクロプラスチックとその意義. *沿岸海洋研究* **61**, 103-105. <https://doi.org/10.32142/engankaiyo.2023.8.007>
- 3) 加三千宣 (2023) : 別府湾の海底堆積物に記録された人新世境界. *Ocean Newsletter*, **546**, 4-5. https://www.spf.org/opri/newsletter/546_2.html

化学汚染・毒性解析部門

原 著

- 1) Tue, N. M., Matsukami, H., Tuyen, L. H., Suzuki, G., Viet, P. H., Sudaryanto, A., Subramanian, A., Tanabe, S., Kunisue, T. (2023): Estrogenic, androgenic, and glucocorticoid activities and major causative compounds in river waters from three Asian countries. *Environmental Science and Pollution Research*, **30**, 20765-20774, doi.org/10.1007/s11356-022-23674-6
- 2) Nozaki, K., Tanoue, R., Kunisue, T., Tue, N. M., Fujii, S., Sudo, N., Isobe, T., Nakayama, K., Sudaryanto, A., Subramanian, A., Bulbule, K. A., Parthasarathy, P., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Kondo, M., Tanabe, S., Nomiya, K. (2023): Pharmaceuticals and personal care products (PPCPs) in surface water and fish from three Asian countries: Species-specific bioaccumulation and potential ecological risks. *Science of The Total Environment*, **866**, 161258, doi.org/10.1016/j.scitotenv.2022.161258
- 3) Hoang, A. Q., Tue, N. M., Tu, M. B., Suzuki, G., Matsukami, H., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Kunisue, T., Sakai, S., Takahashi, S. (2023): A review on management practices, environmental impacts, and human exposure risks related to electrical and electronic waste in Vietnam: findings from case studies in informal e-waste recycling areas. *Environmental Geochemistry and Health*, **45**, 2705-2728, doi.org/10.1007/s10653-022-01408-4
- 4) 岩崎真由・安積紗羅々・石塚真由美・池中良徳・国末達也・綿貫 豊 (2023): オオミズナギドリ3個体の各羽の水銀濃度, *山階鳥学誌*, **55**: 123-130, <https://doi.org/10.3312/jyio.55.123>
- 5) Hoang, A. Q., Takahashi, S., Tuyen, L. H., Tue, N. M., Tu, N. M., Nguyen, T. T. T., Tu, M. B. (2023): Polycyclic Aromatic Hydrocarbons in Air and Dust Samples from Vietnamese End-of-life Vehicle Processing Workshops: Contamination Status, Sources, and Exposure Risks. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*, **110**, 110, doi.org/10.1007/s00128-023-03757-x
- 6) Falahudin, D., Hukom, F. D., Arifin, Z., Dirhamsyah, D., Peristiwady, T., Sudaryanto, A., Iwata, M., Hoang, A. Q., Watanabe, I., Takahashi, S. (2023): First insight into accumulation of characteristics and tissue distribution of PCBs, PBDEs, and other BFRs in the living Indonesian coelacanth (*Latimeria menadoensis*). *Environmental Science and Pollution Research*, **30**, 49368-49380, doi.org/10.1007/s11356-023-25716-z
- 7) Falahudin, D., Herandarudewi, S. M. C., Hukom, F. D., Arifin, Z., Wulandari, I., Sudaryanto, A., Hoang, A. Q., Watanabe, I., Takahashi, S. (2023): The first full-congener analysis of 209 polychlorinated biphenyls (PCBs) in the blubber of short-finned pilot whales (*Globicephala macrorhynchus*) stranded along the coast of Savu Island, Indonesia. *Science of The Total Environment*, **879**, 163008, doi.org/10.1016/j.scitotenv.2023.163008
- 8) Hoang, A. Q., Takahashi, S., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Tran, T. M., Yen, N. T. H., Tu, M. B. (2023): Occurrence, emission sources, and risk assessment of polybrominated diphenyl ethers and current-use brominated flame retardants in settled dust from end-of-life vehicle processing, urban, and rural areas, northern Vietnam. *Environmental Science and Pollution Research*, **30**, 2061-2074, doi.org/10.1007/s11356-022-22396-z
- 9) Ogasawara, K., Yamada, N., Nakayama, S.M., Watanabe, Y., Saito, K., Chiba, A., Uchida, Y., Ueda, K., Takenaka, Y., Kazama, K., Kazama, M., Yamagishi, J., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Ishizuka, M. (2023) Surveys of eleven species of wild and zoo birds and feeding experiments in white-tailed eagles reveal differences in the composition of the avian gut microbiome based on dietary habits between and within species. *Journal of Veterinary Medical Science*, **B**, 1355-1365, doi.org/10.1292/jvms.23-0138
- 10) Hirano, T., Ikenaka, Y., Nomiya, K., Honda, M., Suzuki, N., Hoshi, N., Tabuchi, Y. (2023): An adverse outcome pathway-based approach to assess the neurotoxicity by combined exposure to current-use pesticides. *Toxicology*, **500**, 153687. [doi: 10.1016/j.tox.2023.153687](https://doi.org/10.1016/j.tox.2023.153687)

4. 研究成果

- 11) Khidkhan, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakayama, S.M.M., Nomiya, K., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Tanabe, S., Ishizuka, M. (2023) : Biological effects related to exposure to polychlorinated biphenyl (PCB) and decabromodiphenyl ether (BDE-209) on cats. *PLoS One*. **8**(1), e0277689. doi: 10.1371/journal.pone.0277689.
- 12) Kondo, M., Ikenaka, Y., Nakayama, S.M.M., Kawai, Y.K., Mizukawa, H., Mitani, Y., Nomyama, K., Tanabe, S., Ishizuka, M. (2023): Sulfotransferases (SULTs), enzymatic and genetic variation in Carnivora: Limited sulfation capacity in pinnipeds. *Comp Biochem Physiol C Toxicol Pharmacol*. **263**, 109476. doi: 10.1016/j.cbpc.2022.109476.
- 13) Hoa Thanh Nguyen, Yuka Yoshinouchi, Masashi Hirano, Kei Nomiya, Haruhiko Nakata, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, (2023) In silico simulations and molecular descriptors to predict in vitro transactivation potencies of Baikal seal estrogen receptors by environmental contaminants. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **265**, 115495, 15 October 2023, <https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2023.115495>
- 14) Mirella Kanerva, Nguyen Minh Tue, Tatsuya Kunisue, Kristiina AM Vuori, Hisato Iwata, (2023) Multi-level assessment of the origin, feeding area and organohalogen contamination on salmon from the Baltic Sea. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **264**, 115424, 1 October 2023, <https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2023.115424>
- 15) Kaori Chigusa, Kazuki Kanda, Hisato Iwata, (2023) Developmental toxicity in early chicken embryos on exposure to an organophosphorus flame retardant, tris(2-chloroisopropyl) phosphate. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **264**, 115445, 1 October 2023, <https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2023.115445>
- 16) Akira Kubota, Masashi Hirano, Yuka Yoshinouchi, Xing Chen, Michiko Nakamura, Yumi Wakayama, Jae Seung Lee, Haruhiko Nakata, Hisato Iwata, Yusuke K. Kawai, (2023) In vivo and in silico assessments of estrogenic potencies of bisphenol A and its analogs in zebrafish (Danio rerio): Validity of in silico approaches to predict in vivo effects, *Comparative Biochemistry and Physiology Part C: Toxicology & Pharmacology*, **269**, 109619, <https://doi.org/10.1016/j.cbpc.2023.109619>.
- 17) Dave Arthur R. Robledo, Maricar S. Prudente, Socorro E. Aguja, Hisato Iwata, (2023) A meta-analysis of randomized controlled studies on the hepatotoxicity induced by polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in rats and mice, *Current Research in Toxicology*, **5**, 2023, 100131, <https://doi.org/10.1016/j.crtox.2023.100131>.
- 18) Takeuchi, I., Mizuguchi, M., Ishibashi, H., Takayama, K., Yamashiro, H. (2023): Upper thermal tolerance of hermatypic coral *Acropora digitifera* collected from Sesoko Island, southern Japan, based on a laboratory experiment. *Fisheries Science*, **89**: 181-189.
- 19) Uchida, M., Addai-Arhin, S., Ishibashi, H., Hirano, M., Fukushima, S., Ishibashi, Y., Tominaga, N., Arizono, K. (2023): Developmental toxicity and transcriptome analysis of equine estrogens in developing medaka (*Oryzias latipes*) using nanosecond pulsed electric field incorporation. *Comparative Biochemistry and Physiology Part C: Toxicology and Pharmacology*, **266**: 109547.
- 20) Chen, X., Hirano, M., Ishibashi, H., Lee, J.S., Kawai, Y.K., Kubota, A. (2023): Efficient in vivo and in silico assessments of antiandrogenic potential in zebrafish. *Comparative Biochemistry and Physiology Part C: Toxicology and Pharmacology*, **264**: 109513.
- 21) Uchida M, Mizukawa H, Hirano M, Tominaga N, Arizono K, Ishibashi H. (2023): Adverse effects of contamination by fipronil and its derivatives on growth, molting, and gene expression in the mysid crustacean, *Americamysis bahia*, in Japanese estuaries. *Science of the Total Environment*. **892**: 164595.
- 22) Ishibashi H, Minamide S, Takeuchi I. (2023): Expression analyses of stress-responsive genes in the hermatypic coral *Acropora tenuis* and its symbiotic dinoflagellates after exposure to the herbicide Diuron. *Marine Life Science and Technology*, **5**: 289-299.
- 23) 豊久志朗・藤原尚美・中嶋友希子・宮後靖浩・森岡あゆみ・石橋弘志・樋口壯太郎・佐藤研一 (2023): 最終処分場浸出水原水モニタリングにおけるバイオアッセイの実用化. *廃棄物資源循環学会論文誌*, **34**: 59-69.

総説等

- 1) Sudaryanto, A., Witama, R. O., Nozaki, K., Tanoue, R., Suciati, F., Sachoemar, S. I., Hayami, Y., Morimoto, A., Nomiya, K., Kunisue, T. (2023): Occurrence of emerging contaminants in Jakarta Bay, Indonesia: pharmaceuticals and personal care products. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, **1137**, 012050, doi.org/10.1088/1755-1315/1137/1/012050

- 2) Sudaryanto, A., Ilyas, M., Wahyono, I. B., Aviantara, D. S., Efadeswarni, Takahashi, S., Isobe, T., Tanabe, S., Kunisue, T. (2023): Spatial distribution of atmospheric polychlorinated biphenyls (PCBs) in Jakarta Great Area using passive air sampler. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, **1201**, 012029, doi.org/10.1088/1755-1315/1201/1/012029
- 3) Sulistia, S., Ilyas, M., Suciati, F., Kurniawan, B., Isobe, T., Kunisue, T., Tanabe, S., Sudaryanto, A. (2023): Atmospheric concentrations of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in passive air sampler from Batam Island, Indonesia. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, **1201**, 012027, doi.org/10.1088/1755-1315/1201/1/012027

生態・保健科学部門

原 著

- 1) Faridah, L., Ekawardhani, S., Fauziah, N., Djati, I. D., Putra, R. E., Watanabe, K. (2023): Arbovirus Detection of Adult Female *Aedes aegypti* for Dengue Surveillance: a Cohort Study in Bandung City, Indonesia, *Global Medical and Health Communication*, **11** (3), 225-233. doi: 10.29313/gmhc.v11i3.12749
- 2) Doloiras-Laraño, A. D., Serrana, J. M., Takahashi, S., Takemon, Y., Watanabe, K. (2023): The short-term influences of flow alteration on microbial community structure and putative metabolic functions in gravel bar hyporheic zones, *Frontiers in Environmental Science*, **11**, 1205561. doi: 10.29313/gmhc.v11i3.12749
- 3) Muharromah, A. F., Reyes, J., Kagia, N., Watanabe, K. (2023): Genome-wide detection of *Wolbachia* in natural *Aedes aegypti* populations using ddRAD-Seq, *Frontiers in Cellular and Infection Microbiology*, **13**, 1252656. doi: 10.3389/fcimb.2023.1252656
- 4) Shindoh, S., Kadoya, A., Kanechi, R., Watanabe, K., Suzuki, S. (2023): Marine bacteria harbor the *sul4* sulfonamide-resistance gene without mobile genetic elements, *Frontiers in Microbiology*, **14**, 1230548. doi: 10.3389/fmicb.2023.1230548
- 5) Md. Zakariaa, Sanyalb, S. K., Haquea, Md. I-M., Mandala, S. C., Watanabe, K., Hossain, A. (2023): Bacterial diversity and antibiotic-resistant genes associated with the different farming systems of black tiger shrimp (*Penaeus monodon*) in Bangladesh, *Aquaculture Research*, 2023, 6255586. doi: 10.1155/2023/6255586
- 6) Serrana, J. M. and Watanabe, K. (2023): Haplotype-level metabarcoding of freshwater macroinvertebrate species: a prospective tool for population genetic analysis, *PLoS ONE*, **18**(7), e0289056. doi: 10.1371/journal.pone.0289056
- 7) Nukazawa, K., Chiu M-C., Kazama, S. and Watanabe, K. (2023): Contrasting adaptive genetic consequences of stream insects under changing climate, *Science of the Total Environment*, 872, 162258. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2024.29.8.2300277
- 8) Salmela, J., Ishimaru, K., Watanabe, K., Kolcsár, L-P. (2023): The first record of *Chaoborus punctipennis* (Say, 1823), an invasive phantom midge (Diptera, Chaoboridae), in Japan, *BioInvasions Records*, **12** (1), 124-135. doi: 10.3391/bir.2023.12.1.11
- 9) Kolcsár L-P., d' Oliveira M. C., Graf W, Quindroit C, Watanabe K., Ivković M. (2023): New records for the Western Balkans crane fly fauna (Diptera, Tipuloidea) with the description of a new *Baeoura* Alexander (Diptera, Limoniidae), *ZooKeys*, **1157**, 1-42. doi: 10.3897/zookeys.1157.98997
- 10) Kolcsár, L-P., Oosterbroek, P., Olsen, P. M., Paramonov, N. M., Gavryushin, D., Pilipenko, V. E., Polevoi, A. V., Eiroa, E., Andersson, M., Dufour, C., Syratt, M., Kurina, O., Lindström, M., Starý, J., Lantsov, V., Wiedeńska, J., Pape, T., Friman, M., Peeters, K., Gritsch, W., Janević, D., Salmela, J., Viitanen, E., Aristophanous, M., Watanabe, K. (2023): Contribution to the knowledge of Cylindrotomidae, Pediciidae and Tipulidae (Diptera: Tipuloidea): first records of 86 species from various European countries, *Diversity*, **15**(3), 336. doi: 10.3390/d15030336
- 11) Chiu M-C, Nukazawa K., Resh V. H., and Watanabe, K. (2023): Environmentally mediated gene flow and genetic drift have unequal importance in influencing genetic structure across landscapes, *Journal of Biogeography*, **50**(2), 352-364. doi: 10.1111/jbi.14537
- 12) Gamboa, M., Serrana, J., Takemon, Y., Monaghan, M. T., Watanabe, K. (2023): Spatial and phylogenetic structure of Alpine stonefly assemblages across seven habitats using DNA-species, *Oecologia*, **201**, 513–524. doi: 10.1007/s00442-023-05321-0
- 13) 太田克哉・熊谷悠志・三宅 洋 (2023) 平地河川のコンクリート河床に成立する底生動物群集：自然河床との

- 比較, *応用生態工学*, **25**(2), 51-61. doi: 10.3825/ece.21-00025
- 14) Prakoso, S. B., Miyake, Y., Ueda, W., Suryatmojo, H. (2023) Impact of land use on water quality and invertebrate assemblages in Indonesian streams, *Limnologica*, **101**, 126082-126082. doi: 10.1016/j.limno.2023.126082
 - 15) Watanabe, S. (2023) Characterization of a novel L-fuconate dehydratase involved in the non-phosphorylated pathway of L-fucose metabolism from bacteria, *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, **88**(2), 177-180. doi: 10.1093/bbb/zbad161
 - 16) Yoshiwara, K., Watanabe, S., Watanabe, Y. (2023) Molecular evolutionary insight of structural zinc atom in yeast xylitol dehydrogenases and its application in bioethanol production by lignocellulosic biomass, *Scientific reports*, **13**(1), 1920-1920. doi: 10.1038/s41598-023-29195-7
 - 17) Kenmochi, A., Takahashi, D., Matsuura, H., Yoshikawa, T., Sohrin, R., Obayashi, Y., Kuroda, H., Nishikawa, J. (2023) Cladoceran communities in offshore Suruga Bay, Japan: How are they formed?, *Journal of Oceanography*, **79**, 49-59. doi: 10.1007/s10872-022-00662-5
 - 18) Culleton, R., Pain, A., Snounou, G. (2023): Plasmodium malariae: the persisting mysteries of a persistent parasite. *Trends Parasitol*, **39**(2), 113-125. doi: 10.1016/j.pt.2022.11.008
 - 19) Yu, X., Wang, C., Zhao, Y., Tang, J., Zhu, M., Platon, L., Culleton, R., Zhu, G., Ménard, D., Zhang, Q., Cao, J. (2023): Ring-stage growth arrest: Metabolic basis of artemisinin tolerance in *Plasmodium falciparum*, *iScience*. **26**(1):105725. doi: 10.1016/j.isci.2022.105725
 - 20) Ramaprasad, A., Culleton, R., (2023): A song for the unsung: The relevance of *Plasmodium vinckei* as a laboratory rodent malaria system, *Parasitology International*, **92**, 102680. doi: 10.1016/j.parint.2022.102680
 - 21) Simpson, S. V., Nundu, S. S., Arima, H., Kaneko, O., Mita, T., Culleton, R., Yamamoto, T., (2023): The diversity of *Plasmodium falciparum* isolates from asymptomatic and symptomatic school-age children in Kinshasa Province, Democratic Republic of Congo, *Malaria Journal*, **22**(1), 102. doi: 10.1186/s12936-023-04528-z
 - 22) Naserrudin, N. A., Jiee, S. F., Habil, B., Jantim, A., Mohamed, A. F. B., Dony, J. J. F., Ibrahim, S. S. A., Fornace, K. M., Hassan, M. R., Jeffree, M. S., Hod, R., Culleton, R., Ahmed, K. (2023): The public health response to a *Plasmodium malariae* outbreak in Penampang district, Sabah during a COVID-19 movement control order, *Malaria Journal*, **22**(1):292. doi: 10.1186/s12936-023-04693-1
 - 23) Naserrudin, N. A., Lin, P. Y. P., Monroe, A., Culleton, R., Baumann, S. E., Sato, S., Adhikari, B., Fornace, K. M., Hod, R., Jeffree, M. S., Ahmed, K., Hassan, M. R., (2023): Exploring barriers to and facilitators of malaria prevention practices: a photovoice study with rural communities at risk to *Plasmodium knowlesi* malaria in Sabah, Malaysia., *BMC Public Health*, **10;23**(1), 1316. doi: 10.1186/s12889-023-16173-x
 - 24) Naserrudin, N. A., Yong, P. P. L., Monroe, A., Culleton, R., Baumann, S. E., Sato, S., Hod, R., Jeffree, M. S., Ahmed, K., Hassan, M. R. (2023): Seeing malaria through the eyes of affected communities: using photovoice to document local knowledge on zoonotic malaria causation and prevention practices among rural communities exposed to *Plasmodium knowlesi* malaria in Northern Borneo Island, *Malaria Journal*, **26;22**(1), 166. doi: 10.1186/s12936-023-04603-5
 - 25) Naserrudin, N. A., Lin, P. Y. P., Monroe, A., Baumann, S. E., Adhikari, B., Miller, A. C., Sato, S., Fornace, K. M., Culleton, R., Cheah, P. Y., Hod, R., Jeffree, M. S., Ahmed, K., Hassan, M. R. (2023): Disentangling the intersection of inequities with health and malaria exposure: key lessons from rural communities in Northern Borneo, *Malaria Journal*, **22**(1), 343. doi: 10.1186/s12936-023-04750-9
 - 26) Naserrudin, N. A., Monroe, A., Yong, P. P. L., Baumann, S. E., Culleton, R., Sato, S., Hod, R., Jeffree, M. S., Ahmed, K., Hassan, M. R. (2023): The One Health Approach to Addressing Zoonotic Malaria in Rural Northern Borneo: Challenges and Solutions, *One Health Cases*, *BMC Public Health*, **23**, 1316. doi: 10.1079/onehealthcases.2023.0017
 - 27) Dhakal, M., Gompo, T. R., Devkota, P., Kafle, S. C., Subedi, J. R., Gong, H., Arima, H., Culleton, R., Asada, M., Pandey, K. (2023): Molecular Detection and Identification of Piroplasm in Cattle from Kathmandu Valley, Nepal, *Pathogens*, **12**(8), 23-33. doi: 10.3390/pathogens12081045
 - 28) Xiridou, M., Miura, F., Adam, P., Op de Coul, E., de Wit, J., Wallinga, J. (2023): The Fading of the Mpox Outbreak Among Men Who Have Sex With Men: A Mathematical Modelling Study. *The Journal of Infectious Diseases*, **jiad414**. doi: 10.1093/infdis/jiad414
 - 29) McFarland, S. E., Marcus, U., Hemmers, L., Miura, F., Iñigo Martínez, J., Martínez, F. M., Montalbán, E. G., Chazelle, E., Mailles, A., Silue, Y., Hammami, N., Lecompte, A., Ledent, N., Vanden Berghe, W., Liesenborghs, L., Van den Bossche, D.,

- Cleary, P. R., Wallinga, J., Robinson, E. P., … Bartel, A. (2023): Estimated incubation period distributions of mpox using cases from two international European festivals and outbreaks in a club in Berlin, May to June 2022. *Eurosurveillance*, **28** (27), 2200806. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2023.28.27.2200806
- 30) Miura, F., Backer, J. A., van Rijckevorsel, G., Bavalia, R., Raven, S., Pettrignani, M., Ainslie, K. E. C., Wallinga, J., Dutch Mpox Response Team. (2023): Time scales of human mpox transmission in the Netherlands. *The Journal of Infectious Diseases*, **229** (3), 800-804. doi: 10.1093/infdis/jiad091
- 31) van Boven, M., Hetebrj, W. A., Swart, A., Nagelkerke, E., van der Beek, R. F., Stouten, S., Hoogeveen, R. T., Miura, F., Kloosterman, A., van der Drift, A.-M. R., Welling, A., Lodder, W. J., de Roda Husman, A. M. (2023): Patterns of SARS-CoV-2 circulation revealed by a nationwide sewage surveillance programme, the Netherlands, August 2020 to February 2022. *Eurosurveillance*, **28** (25), 2200700. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2023.28.25.2200700
- 32) van Ewijk, C. E., Miura, F., van Rijckevorsel, G., de Vries, H. J. C., Welkers, M. R. A., van den Berg, O. E., Friesema, I. H. M., van den Berg, P., Dalhuisen, T., Wallinga, J., Brandwagt, D., van Cleef, B. A. G. L., Vennema, H., Voordouw, B., Koopmans, M., van der Eijk, A. A., Swaan, C. M., te Wierik, M. J. M., Leenstra, T., Op de Coul, E., Franz, E., the Dutch mpox response team. (2023). Mpox outbreak in the Netherlands, 2022: public health response, characteristics of the first 1,000 cases and protection of the first-generation smallpox vaccine. *Eurosurveillance*, **28** (12), 2200772. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2023.28.12.2200772

総説等

- 1) Endo, A., Jung, S.-M., & Miura, F. (2023). Mpox emergence in Japan: ongoing risk of establishment in Asia. *The Lancet*, **401** (10392), 1923–1924.

4. 3 学内, 所内誌等

環境動態解析部門

- 1) Wang Shuya (2023): 新任職員紹介, CMES ニュース, No.47,1-2.
- 2) 郭 新宇 (2023): 共同ワークショップ開催報告, 「亜寒帯-亜熱帯域含めた日本周辺の海洋環境科学の統合的理解」, CMES ニュース, No.47, 2-3.
- 3) 森本昭彦 (2023): 研究集会開催報告, 「豊後水道研究集会」, LaMer ニュース, No.14, 9.
- 4) 森本昭彦 (2023): 研究課題紹介, 科研費 国際共同研究強化 B 「北部タイランド湾の富栄養化解消に向けた栄養塩循環の把握」, CMES ニュース No.48, 3.
- 5) 加三千宣 (2023): 解説 「人新世の始まりを刻んだ別府湾海底堆積物」, CMES ニュース, No.48, 5-6.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 国末達也 (2023): 研究課題紹介, 「科研費基盤研究 A, 生アジア太平洋地域における要監視・新興化学物質の時空間トレンド解析と生態リスク評価」, CMES ニュース, No.48, 1-2.
- 2) 田上瑠美 (2023): 研究課題紹介, 「科学技術振興機構 (JST) 創発研究支援事業, 環境リスクの高い未規制化学物質の探知とリスク低減措置の検討」, CMES ニュース, No.48, 3-4.
- 3) 岩田久人 (2023): 拠点長新年度挨拶, LaMer ニュース, No.15, 8-9.
- 4) 岩田久人 (2023): 2023年度共同利用・共同研究採択課題, LaMer ニュース, No.15, 12-14.
- 5) 野見山桂・水川葉月 (2023): シンポジウム開催報告, 「6th International Chemical Hazard Symposium」 「第6回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム」, LaMer ニュース, No.15, 9-10.
- 6) Asela Marisol Buenfil Rojas (2023): 新任職員紹介, CMES ニュース No.47 2.
- 7) 落合真理 (2023): 研究課題紹介, 科研費 基盤研究 (C) 「鯨類 iPS 細胞の樹立と環境汚染物質の神経毒性リスク評価への応用」, CMES ニュース No.47 6-7.
- 8) 水川葉月 (2023): 受賞紹介, 第2回環境化学進歩賞, LaMer ニュース, No.14, 9-10.

生態・保健科学部門

- 1) 渡辺幸三 (2023): 研究課題紹介, 文部科学省・教育研究組織改革事業「沿岸環境科学研究センターの改革によるアジア拠点化の推進」, CMES ニュース, No.47 3-5.
- 2) 大林由美子 (2023): 研究課題紹介, 科研費 基盤研究 (B)「海洋の細菌群集をめぐる“見えない生物間作用”の実態とその機能: 栄養塩再生への寄与」, CMES ニュース, No.47 5-6.

4. 4 一般誌等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 野見山桂 (2023): シャチの未来を危ぶむ有害化学物質, 「絶景・秘境に息づく世界で一番美しいシャチ図鑑 (改訂版)」(水口博也 編著), 誠文堂新光社 2023年8月 (ISBN: 9784416518687)
- 2) 野見山桂 (2023): 残留性有機汚染物質による猛禽類の汚染実態, 「世界で一番美しいフクロウ図鑑: 闇に息づく, 飛翔する, 謎多き生態」(水口博也, 先崎理之 編著), 誠文堂新光社 2023年7月 (ISBN: 9784416523810)
- 3) 落合真理 (2023): スナメリの培養細胞を用いた環境汚染物質の毒性影響評価, 「agreeable」(日本しろあり対策協会), 66, 6-7.

4. 5 報告書等

環境動態解析部門

- 1) 上村海斗・占部敦史・山下慶太郎・加川真行・上原達亮・相田 聡・馬場俊典・茅野昌大・内田善隆・畑間敏弘・後川龍男・恵崎 撰・鹿島祥平・斎藤義昭・野田 誠・宮村和良・平野荘太郎・徳丸泰久・三門哲也・神野 智・関信一郎・吉江直樹・郭 新宇・清水園子・松原孝博・竹内久登・山口晴生・外丸裕司・三宅陽一・坂本節子・鬼塚 剛 (2023): 有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発 イ. 瀬戸内海西部・豊後水道海域・土佐湾海域. 令和4年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」報告書, 水産庁, 東京, 55-108.
- 2) 田所和明・岡崎雄二・吉江直樹・郭 新宇 (2023): 栄養塩等の水質環境が小型魚類の生産性に及ぼす影響の解明 ア. 栄養塩等の水質環境が小型魚類の餌料環境に及ぼす影響の解明. 令和4年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」報告書, 水産庁, 東京, 58-68.

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) Li, Z., Guo, X. (2023): Analysis of oxygen deficit on the mid-outer shelf of East China Sea based on the World Ocean Database, Kyushu University Stress Research Conference, Fukuoka, February.
- 2) Morimoto, A (2023): Numerical model development for research on eutrophication. Joint Seminar on Collaborative Research and Education Project in Southeast Asia for Sustainable Use of Marine Ecosystem, Chiba, March.
- 3) Bai Y., Guo X., Zhao X., Li Y., (2023): Distribution and Transport Process of Microplastics in the Seto Inland Sea. 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月.
- 4) Zhao X., Goto A., Yoshie N., Kunisue T., Guo X. (2023): Seasonal variation of PCB concentrations in plankton from Seto Inland Sea, Japan. 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月.
- 5) Li Y., Guo X., Zhao X., Bai Y., (2023): A three-dimensional numerical model for the polychlorinated biphenyls (PCB) in the Seto Inland Sea. 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月.
- 6) LI, Z., Guo, X. (2023): Oxygen depletion analysis in the mid-outer shelf of the East China Sea based on the World Ocean

- Database, Japan Geoscience Union Meeting, Chiba, AGC31-P4, May.
- 7) Leng Q., Guo X., Morimoto A. (2023): A significant contribution of open ocean to nutrient and phytoplankton inventory in the Seto Inland Sea. Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 8) 美山 透・堤 英輔・吉江直樹・郭 新宇・遠藤貴洋・宮澤泰正 (2023): 急潮予測に向けた豊後水道の御五神島周辺における観測に対応するモデル結果., Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 9) 堤 英輔・吉江直樹・郭 新宇・遠藤貴洋・宮澤泰正・美山 透 (2023): 急潮予測に向けた豊後水道の御五神島周辺における流れと乱流混合の観測. Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 10) Cao A., Guo Z., Wang S., Guo X. (2023): Energetics of the M2 internal tides modulated by typhoons at the Luzon Strait. Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 11) Wang, S., Guo, X., Morimoto, A., Tsutsumi, E., Cao, A., Miyazawa, Y., Varlamov, S. M. (2023) Semidiurnal internal tides in the Bungo Channel: characteristics, energetics, and temporal variation. Japan Geoscience Union Meeting 2023, Chiba, Japan, May.
 - 12) Morimoto, A., Tokuda, S., Leng, Q., Guo, X (2023): Nutrient supply associated with tropical cyclone passage in the continental shelf of the East China Sea. Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 13) Tong-u-dom, S., Morimoto, A., Leng, Q., Guo, X., Yoshie, N., Tada, K., Ichimi, K., Yamaguchi, H., Nakakuni, M. (2023): Roles of riverine nutrients from different sources in the Harima-Nada and their contributions to primary production. Japan Geoscience Union Meeting 2023, 千葉, 5月.
 - 14) 加三千宣・増原拓馬・日向博文 (2023): 別府湾における過去70年間の微細マイクロプラスチックの海底沈積量. 日本地球惑星科学連合2023年大会, 5月, 千葉, MIS17-06.
 - 15) Kuwae, M., Finney, B.P., Shi, Z., Sakaguchi, A., Tsugeki, N., Omori, T., Agusa, T., Suzuki, Y., Yokoyama, Y., Hinata, H., Hatada, Y., Inoue, J., Matsuoka, K., Shimada, M., Takahara, H., Takahashi, S., Ueno, D., Amano, A., Tsutsumi, J., Yamamoto, M., Takemura, K., Yamada, Y., Ikehara, K., Haraguchi, T., Tims, S., Froehlich, M., Fifield, L.K., Aze, T., Sasa, K., Takahashi, T., Matsumura, M., Tani, Y., Leavitt, P.R., Doi, H., Irino, T., Moriya, K., Hayashida, A., Hirose, K., Suzuki, H., and Saito, Y. (2023): A rapid increase in anthropogenic fingerprints in the Beppu Bay stratigraphy as a potential marker of the onset of the Anthropocene. JpGU 2023 meeting, U03-01. 5/25/2023. (Invited)
 - 16) Aya Sakaguchi, Hodaka Takahashi, Karin Hain, Andreas Wiederin, Michinobu Kuwae, Yuichi Takaku, Yamasaki Shinya, Keisuke Suek (2023): The Application of Long-Lived Anthropogenic Uranium Isotopes to Geoscience Research. JpGU 2023 meeting, U03-03. 5/25/2023. (Invited)
 - 17) Jun Inoue, Natsuko Takenaka, Takamoto Okudaira, Michinobu Kuwae (2023): The record of spheroidal carbonaceous particles (SCPs) in Beppu Bay sediments: Further evidence for SCPs as a marker for Anthropocene industrialization. JpGU 2023 meeting, U03-02. 5/25/2023. (Invited)
 - 18) Airi Maruyama, Tomohisa Irino, Ikehara Ken, Masanobu Yamamoto, Michinobu Kuwae, Keiji Takemura (2023): Reconstruction of Holocene provenance and delivery mass of change in Beppu Bay in using mineral composition. JpGU 2023 meeting, AHW18-20. 5/26/2023.
 - 19) 日向博文・笠毛健生・真瀬充臣・松浦由依・加三千宣・槻木玲美 (2023): 別府湾海底に堆積するマイクロプラスチック量の数値計算－1993年, 2004年, 2013年夏季の比較－. 日本地球惑星科学連合2023年大会, MIS17-07, 2023年5月26日, 千葉.
 - 20) 横山祐典, Tims Stephen, Froehlich Michaela, 平林頌子, 阿瀬貴博, Fifield L Keith, Koll Dominik, 宮入陽介, Pavetich Stefan, 加三千宣 (2023): 人新世の正確なタイミングを記録する別府湾の極微量プルトニウム同位体と石垣島サンゴ骨格の放射性炭素. 日本地球惑星科学連合2023年大会, MTT38-03, 2023年5月26日, 千葉.
 - 21) 正木紫苑・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・芳賀裕樹・加三千宣 (2023): 琵琶湖南湖における過去30年間の珪藻群集変化と湖内環境変化 日本珪藻学会第44回大会, 5月13日～14日, 文教大学, 東京
 - 22) Chisato Numa, Hideyuki Doi, Tatsuya Saito, Narumi Tsugeki³, Kai Nakane⁴, Michinobu Kuwae⁴, and Yusuke Hirahashi (2023): Comprehension of Species Compositions Using Environmental DNA Metabarcoding in Beppu Bay Sediment. The eDNA Society International Meeting 2023, Otsu, May 17 2023.
 - 23) Tsugeki, N., Nakane, K., Doi, H., Tadokoro, K., Kuwae, K. (2023): Zooplankton sedimentary DNA as an effective tool for tracking past population dynamics. The eDNA Society International Meeting 2023, Otsu, May 17 2023
 - 24) Nagai, T., G. S. D. Gómez, H. Saito, H. Ogawa, T. Kobari, N. Yoshie, H. Nakamura (2023): Is the subsurface Kuroshio just a nutrient conduit or a spreader? Japan Geoscience Union Meeting 2023, Makuhari, Japan, 21st May, 2023, Oral,

4. 研究成果

invited

- 25) Tong-u-dom, S., A. Morimoto, N. Yoshie, K. Tada, K. Ichimi, H. Yamaguchi, and M. Nakakuni (2023): Roles of riverine nutrients from different sources in the Harima-Nada and their contributions to primary production, Japan Geoscience Union Meeting 2022, Makuhari, Japan, 21st May, 2023, oral
- 26) Nagai, T., G. S. D. Gómez, H. Saito, H. Ogawa, T. Kobari, N. Yoshie, H. Nakamura (2023): Is the subsurface Kuroshio just a nutrient conduit or a spreader? International Workshop on Western Boundary Current - Subtropical Continental Shelf Interactions, Savannah, USA, 23rd May, 2023, poster
- 27) 美山 透・堤 英輔・吉江直樹・郭 新宇・遠藤貴洋・宮澤泰正 (2023): 急潮予測に向けた豊後水道の御五神島周辺における観測に対応するモデル結果, Japan Geoscience Union Meeting 2023, 幕張, 2023年5月23日, 口頭
- 28) 堤 英輔・吉江直樹・郭 新宇・遠藤貴洋・宮澤泰正・美山 透 (2023): 急潮予測に向けた豊後水道の御五神島周辺における流れと乱流混合の観測, Japan Geoscience Union Meeting 2023, 幕張, 2023年5月24日, ポスター
- 29) Wang, S., Guo, X., Cao, Z., Tsutsumi, E., Chen, X. (2023) Semidiurnal internal tides in the Tokara Strait: downscaling energy cascade via PSI Workshop on turbulent mixing in and around the Kuroshio. Workshop on turbulent mixing in and around the Kuroshio, Kagoshima, Japan, June.
- 30) Kuwae, M., Finney, B.P., Shi, Z., Sakaguchi, A., Tsugeki, N., Omori, T., Agusa, T., Suzuki, Y., Yokoyama, Y., Hinata, H., Hatada, Y., Inoue, J., Matsuoka, K., Shimada, M., Takahara, H., Takahashi, S., Ueno, D., Amano, A., Tsutsumi, J., Yamamoto, M., Takemura, K., Yamada, Y., Ikehara, K., Haraguchi, T., Tims, S., Froehlich, M., Fifield, L.K., Aze, T., Sasa, K., Takahashi, T., Matsumura, M., Tani, Y., Leavitt, P.R., Doi, H., Irino, T., Moriya, K., Hayashida, A., Hirose, K., Suzuki, H., and Saito, Y. (2023) Cumulative numbers of anthropogenic fingerprints as a potential marker of the onset of the Anthropocene—an example of the Beppu Bay stratigraphy. INQUA Congress, Rome, July 17, 2023.
- 31) 日向博文 (2023): 別府湾海底に堆積するマイクロプラスチック量 - 75年間の変遷 -, 瀬戸内海研究フォーラム in 山口, 山口, 8月27日, (招待講演)
- 32) 加三千宣・齋藤文紀・横山祐典・槻木玲美・土居秀幸 (2023): 層序学上の人新世の始まり. 日本第四紀学会2023年大会, 9月1日, 所沢
- 33) Li, Z., Guo, X., Ono, T. (2023): Seasonal and long-term variations of oxygen depletion in the East China Sea, The Oceanographic Society of Japan, Kyoto, 23F-01-04, September.
- 34) Bai Y., Guo X., Kataoka T., Hinata H., (2023): Distribution and Transport Process of Microplastics in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月.
- 35) Zhao X., Goto A., Yoshie N., Kunisue T., Guo X. (2023): Seasonal variation of PCB concentrations in plankton from Iyo-Nada, Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月.
- 36) Li Y., Guo X., Yang M., Leng Q., (2023): A three-dimensional numerical model for the polychlorinated biphenyls (PCBs) in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月.
- 37) Leng Q., Guo X., Morimoto A. (2023): Impact of Yearly Variability in Nutrient Loads from Open Ocean on Nitrogen Inventory in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月.
- 38) Dong M., Guo X., Matsuura T., Tebakari T., Zhang J. (2023): Impacts of river and groundwater on nutrients and phytoplankton growth in Toyama Bay. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月
- 39) Wang, S., Guo, X., Cao, Z., Tsutsumi, E., Chen, X. (2023) PSI of M2 internal tides in the Tokara Strait. The Oceanographic Society of Japan Fall Meeting, Kyoto, Japan, September.
- 40) 宮澤泰正・Sergey M. Varlamov・美山 透・章 若潮・Yu-Lin K. Chang・林田博士・木戸晶一郎・郭 新宇 (2023): 日本沿海予測可能性実験における沿岸外洋相互作用研究. 日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月.
- 41) Zhao Xueting, 後藤哲智, 吉江直樹, 国末達也, 郭 新宇 (2023): 瀬戸内海の伊予灘におけるプランクトン中の PCB 濃度の季節変動, 2023年度日本海洋学会秋季大会, 京都, 2023年9月25日, 口頭
- 42) 長井健容, Gloria Silvana Durán Góm, 齊藤宏明, 小川浩史, 小針 統, 吉江直樹, 中村啓彦 (2023): トカラ海峡を異なる流路で流れる黒潮が形成する乱流と栄養塩供給のホットスポット, 2023年度日本海洋学会秋季大会, 京都, 2023年9月27日, 口頭
- 43) 加三千宣 (2023): 層序学上の人新世の開始年代. 2023年度 日本地球化学会年会9月23日, 東京 招待講演
- 44) Hinata, H. (2023): Bottom sediments in a hypoxic basin as a recording medium of the microplastic pollution history. Japan-Thailand Bilateral Symposium of Advanced Materials for Sustainable Society, Bangkok, Thailand, Oct.10, (招待講

演)

- 45) T. Tanaka and N. Yoshie (2023): Coastal ocean observing systems in Japan, PICES 2023 annual meeting, Seattle, USA, 21th Oct., 2022, Oral.
- 46) Wang, S., Guo, X., Miyazawa, Y., Furue, R., Varlamov, S. M. (2023) Sea surface signature of incoherent semidiurnal internal tides revealed by a tide-resolving OCGM. 海洋乱流に関する研究集会, Sapporo, Japan, December.
- 47) Hinata, H. (2023): Learning from history toward a better future: Bottom sediments in a hypoxic basin as a recording medium of the microplastic pollution history. MRM2023/IUMRS-ICA2023, Kyoto, Dec.13,(招待講演)

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 水原奈々・田上瑠美・久保田彰・小椋響子・国末達也・野見山桂 (2023): ゼブラフィッシュ胚を用いた抗精神病剤ハロペリドールの発生・神経毒性と生物濃縮性の評価, 第57日本水環境学会年会, 松山, 3月15日~17日, 講演要旨集, 422
- 2) 甲斐 奏・田上瑠美・近藤昌和・仲山 慶・小林 淳・野見山桂・国末達也 (2023): 魚類肝 S9画分を用いた医薬品類の肝代謝速度定数の解析と生物濃縮性予測モデルへの適用, 第57日本水環境学会年会, 松山, 3月15日~17日, 講演要旨集, 632
- 3) Kaori Chigusa, Kazuki Kanda, Hisato Iwata. (2023): Effects of tris (2-chloroisopropyl) phosphate (TCIPP) on early chicken embryos in a shell-less incubation system: Continuous observation of phenotypes, The 2023 Society of Toxicology Annual Meeting and ToxExpo, P659, Mar., Nashville, TN
- 4) Kaori Chigusa, Kazuki Kanda, Hisato Iwata. (2023): Effects of tris (2-chloroisopropyl) phosphate (TCIPP) on early chicken embryos in a shell-less incubation system: New insight into molecular mechanism, The 2023 Society of Toxicology Annual Meeting and ToxExpo, P658, Mar., Nashville, TN
- 5) Takahito Kumagawa, Hoa Thanh Nguyen, Mayumi Sakata, Hisato Iwata (2023): In vitro and in silico assessment of dog estrogen receptor α transactivation potencies by UV absorbers and their molecular mechanisms. 62nd Annual meeting of Society of Toxicology (SOT), Nashville, USA, 3月
- 6) Hoa Thanh Nguyen, Yuka Yoshinouchi, Masashi Hirano, Kei Nomiya, Haruhiko Nakata, Eun-Young Kim, Hisato Iwata (2023): In vitro and in silico assessment of transactivation potencies of environmental contaminants mediated by Baikal seal (*Pusa sibirica*) estrogen receptor α and β , The 2023 Society of Toxicology Annual Meeting and ToxExpo, Mar., Nashville, TN
- 7) Mizukawa, H. (2023): Contamination status and risk assessment for environmental micro-pollutants in house dust and commercial pet food collected from Japan. SETAC EUROPE 33rd Annual Meeting, Dublin, Ireland, April, Program 3.19. P-Mo236.
- 8) Sousa, A.C., Weiss, J., Mizukawa, H. (2023): Pet Animals' Exposure to Chemicals and Health Effects of Relevance for Humans - One Health. SETAC EUROPE 33rd Annual Meeting. Dublin, Ireland, April, Program 3.19.V.
- 9) Falahudin, D., Herandarudewi, S.M.C., Hukom, F.D., Arifin, Z., Wulandari, I., Sudaryanto, A., Hoang, A.Q., Watanabe, I., Mizukawa, H., Takahashi, S. (2023): The first assessment of halogenated organic compounds in the blubber of short-finned pilot whales (*Globicephala macrorhynchus*) stranded along the coast of Savu Island, Indonesia. SETAC EUROPE 33rd Annual Meeting, Dublin, Ireland, April, Program 3.04.P-Mo163.
- 10) 新里優太・水川葉月・渡辺桃加・野見山桂・高橋 真 (2023): 肝臓中水酸化 PCBs(OH-PCBs) の分析法確立と野生鳥類における PCBs 代謝能力の種間差解析, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 73-74.
- 11) 須之内朋哉・後藤哲智・Nguyen Minh Tue・田島木綿子・山田 格・天野雅男・田辺信介・国末達也 (2023): 沿岸性鯨類2種およびシワハイルカにおける POPs・POP類縁化合物の蓄積プロファイルと種間比較, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 75-76
- 12) 水川葉月・近藤雄大・高須賀智奈美・日鷹一雅・高橋 真 (2023): 水中農薬の一斉分析法開発と田面水及び周辺水系における農薬の動態解析, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 108-109.

4. 研究成果

- 13) Falahudin, D., Hukom, F. D., Arifin, Z., Dirhamsyah, D., Peristiwady, T., Sudaryanto, A., Iwata, M., Hoang, A. Q., Watanabe, I, Takahashi, S. (2023): Accumulation profiles of halogenated organic compounds in the living Indonesian coelacanth (*Latimeria menadoensis*), 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 171-172.
- 14) 寶來佐和子・中田勝士・城ヶ原貴通・江口 藍・藤村成剛・国末達也・山元 恵 (2023): 水銀高蓄積野生動物種における水銀およびその他微量元素の母子間移行―フイリマンゲースを例に―, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 184-185
- 15) Hirai, A., Yohanne Y.B., Collins N., Tamba M., Nomiyama K., Eguchi A., Hoshi, N., Hirano, T., Nakayama, S., M.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y. (2023): Neonicotinoid-induced changes in brain monoamines and behavior, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 214-215.
- 16) 久保田彰・Ahmed Rehab・Chen Xing・Lee Jae Seung・池本秀樹・小椋響子・田上瑠美・野見山桂・高橋 真・石橋弘志・後藤哲智・国末達也・中村達朗・村田幸久・寺岡宏樹・池中良徳 (2023): 分析化学的手法の活用によるゼブラフィッシュ胚を用いた発生毒性評価と毒性発現機構の解析, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 216-217
- 17) 家田曜世・橋本俊次・国末達也 (2023): 日本海堆積物コア試料中有機ハロゲン化合物の網羅的スクリーニング, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 218
- 18) 田上瑠美・甲斐 奏・小椋響子・水原奈々・久保田彰・仲山 慶・小林 淳・国末達也・野見山桂 (2023): 医薬品類およびパーソナルケア製品由来物質の生物移行・残留性と中枢神経系への影響の評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 223-224
- 19) 仲山 慶・和田梨奈・山崎雅俊・宇野誠一・国末達也・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛 (2023): 水生生物に対するタイヤ粒子の有害性評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 237
- 20) 磯部友彦・中山祥嗣・岩井美幸・高木麻衣・上山 純・小栗朋子・篠原直秀・国末達也・仲山 慶・田上瑠美 (2023): 日用品等に含まれる化学物質の体内動態に関する研究, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 244
- 21) 小栗朋子・篠原直秀・李 聡・高木麻衣・上山 純・国末達也・磯部友彦 (2023): フタル酸エステル類及び代替物質の尿中排泄量の変動, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 250
- 22) 松田悠莉・田上瑠美・大浦 奏・仲山 慶・上山 純・小栗朋子・篠原直秀・高木麻衣・岩井美幸・中山祥嗣・磯部友彦・国末達也 (2023): フェノール性内分泌かく乱化学物質によるヒト曝露実態: 尿中濃度と曝露量・排泄率の評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 251-252
- 23) Chen, X., Lee, J.S. Tanoue, R., Nomiyama, K., Salama, Y., Kawai, Y., Kubota, A. (2023): Distinct potency of developmental effects of bisphenol A analogs and their possible molecular mechanisms in zebrafish, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 258-259.
- 24) Jae Seung Lee・Xing Chen・Wataru Ishihara・Akitoshi Goto・Tatsuya Kunisue・Yusuke Kawai・Akira Kubota (2023): Biological effects of 2,3,7,8-substituted and non-2,3,7,8-substituted polybrominated dibenzo-p-dioxins in developing zebrafish, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 260-261
- 25) 水原奈々・田上瑠美・久保田彰・小椋響子・国末達也・野見山桂 (2023): 抗精神病剤ハロペリドールと抗ヒス

- タミン剤クロルフェニラミンの2種におけるゼブラフィッシュ胚への生物濃縮性比較, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 286-287
- 26) 甲斐 奏・田上瑠美・仲山 慶・小林 淳・国末達也・野見山桂 (2023): 魚類肝 S9画分を用いた医薬品類の肝代謝速度定数の解析および生物濃縮性予測モデルの有用性評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 288-289
- 27) 佐藤愛佳・佐藤楓夏・水川葉月・池中良徳・田上瑠美・横山 望・滝口満喜・中津 賞・野見山桂 (2023): コンパニオンアニマルの PFAS 汚染: イヌ・ネコの種差要因と汚染の地域差, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 305-306.
- 28) 寺本優雅・江口哲史・野見山桂 (2023): LC-QToF-MS によるノンターゲットメタボロミクス手法の高度化に向けた内部標準物質の検討, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 391-392.
- 29) 田上瑠美・大浦 奏・上山 純・磯部友彦・国末達也 (2023): リン酸エステル系難燃剤によるヒト曝露実態: 24h 蓄尿試料を用いたバイオモニタリング, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 413-414
- 30) Nguyen Minh Tue・Nurlatifah・Haruhiko Nakata・Hisato Iwata・Tatsuya Kunisue (2023): Preliminary screening of ER, AR, AhR, and PPAR-mediated activities of additives in biobased and biodegradable plastic bags, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 417
- 31) Nguyen Minh Tue・Hidenori Matsukami・Le Huu Tuyen・Go Suzuki・Pham Hung Viet・Annamalai Subramanian・Shinsuke Tanabe・Tatsuya Kunisue (2023): Unknown contributors to androgenic activities in river waters from Vietnam and India, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 454
- 32) 西村優佳・森永朱香・本多希久子・後藤智哉・豊田賢治・征矢野清・長江真樹・莚平裕次・井原 賢・中田典秀・江口哲史・野見山桂・宮川信一 (2023): 環境医薬品のメダカに対する分子応答解析, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 569-570.
- 33) 伊藤健登・藤森 崇・福谷 哲・水川葉月・国末達也・高岡昌輝・高橋 真 (2023): 高次栄養動物における抽出可能性塩素および臭素の時系列評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 612-613
- 34) 野見山桂・佐藤楓夏・島崎真琴・水川葉月・池中良徳 (2023): 原材料・生産国別に見る有機ハロゲン化合物によるペットフードの汚染実態とその特徴, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 621-622.
- 35) 水原奈々・田上瑠美・久保田彰・小椋響子・国末達也・野見山桂 (2023): ゼブラフィッシュ胚を用いた抗精神病剤ハロペリドールの発生・神経毒性および生物濃縮性の評価, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 646-647
- 36) Xueting Zhao・Akitoshi Goto・Naoki Yoshie・Tatsuya Kunisue・Xinyu Guo (2023): Seasonal variation of PCB concentrations in plankton from Seto Inland Sea, Japan, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 688
- 37) 中島 舞・水川葉月・川嶋文人・中村裕史・高橋 真 (2023): ハウスダスト中 PFASs の分析法開発と汚染実態調査, 第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 709-710.

4. 研究成果

- 38) 後藤哲智・仲山 慶・鈴木 剛・国末達也 (2023): タイヤゴム老化防止剤6PPD およびその酸化生成物6PPD-Qの高感度分析法開発, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 751
- 39) 後藤哲智・Nguyen Minh Tue・国末達也 (2023): 魚食性猛禽類ミサゴに蓄積する有機ハロゲン化合物のターゲット/ノンターゲットスクリーニング, 第2回環境化学物質3学会合同大会 (第31回環境化学討論会, 第25回環境ホルモン学会研究発表会, 第27回日本環境毒性学会研究発表会), 徳島, 5月30日~6月2日, 講演要旨集, 752
- 40) Hoa Thanh Nguyen, Yuka Yoshinouchi, Masashi Hirano, Kei Nomiyama, Haruhiko Nakata, Eun-Young Kim, Hisato Iwata (2023): 環境汚染物質によるバイカルアザラシ エストロゲン受容体の *in vitro* 転写活性化能を予測する *in silico* 解析, 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 5-6月
- 41) 千種佳織・神田宗欣・岩田久人 (2023): 有機リン系難燃剤 リン酸トリス (TCIPP) 曝露によるニワトリ初期胚発生毒性の分子作用機序の解明, 環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 5-6月
- 42) 千種佳織・神田宗欣・岩田久人 (2023): 有機リン系難燃剤 リン酸トリス (2-クロロ-1-メチルエチル) (TCIPP) 曝露によるニワトリ初期胚の発生毒性評価, 環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 5-6月
- 43) 熊川貴仁, Nguyen Thanh Hoa, 坂田真有美, 岩田久人 (2023): Chemoinformatics と *in silico* 解析を組み合わせた *in vitro* イヌ エストロゲン受容体転写活性化能予測の QSAR モデル, 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 5-6月
- 44) 熊川貴仁, Nguyen Thanh Hoa, 坂田真有美, 岩田久人 (2023): 紫外線吸収剤によるイヌ・ネコ エストロゲン受容体転写活性化能の種間比較, 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 5-6月
- 45) 仲山 慶・和田梨奈・山崎雅俊・宇野誠一・国末達也・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛 (2023): 水生生物に対するタイヤ粒子の有害性評価. 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 2023年5月30日~6月2日.
- 46) 和田梨奈・仲山 慶・倉田 修・和田新平・天野敦子・板木拓也・宇野誠一・国末達也・鈴木 剛 (2023): コイに対して経口投与したタイヤ粒子の慢性的な影響. 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 2023年5月30日~6月2日.
- 47) 仲山 慶・國師恵美子・今村和貴・宇野誠一 (2023): 底質毒性試験と DNA 分析による底質環境評価の試み. 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 2023年5月30日~6月2日.
- 48) 山崎雅俊・宇野誠一・今村和貴・尾藤達宙・小田桐光李・國師恵美子・仲山 慶・鈴木 剛 (2023): 海産ヨコエビに対するタイヤ粉塵及びその溶出物の影響評価と走行距離に応じた毒性変化. 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 2023年5月30日~6月2日.
- 49) 落合真理・栗原 望・国末達也・岩田久人 (2023): スナメリの誘導神経細胞を用いた環境汚染物質の神経毒性評価. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島, 5-6月. P-56.
- 50) 落合真理・栗原 望・Hoa Thanh Nguyen・平野将司・中田章史・田島木綿子・山田 格・岩田久人 (2023): 鯨類における化学物質の毒性・リスク評価のための *in vitro* 試験法の開発. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島, 5-6月. WE-D1-6.
- 51) Dave Arthur Robledo, Takahito Kumagawa, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2023): Transactivation potencies of killer whale (*Ornicus orca*) estrogen receptor alpha (ER α) by DDTs exposure: *in vitro* and *in silico* approaches. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島, 5-6月. P-011.
- 52) 西間庭恵子・山田 格・天野雅男・国末達也・田島木綿子 (2023): スナメリとスジイルカの眼輪筋一臍性部の組織学的考察 ~ 臆はどのように閉じるのか~, 日本セトロロジー研究会第33回 (佐世保) 大会, 佐世保, 6月10~11日, 発表要旨集, 11
- 53) 須之内朋哉・田島木綿子・山田 格・国末達也 (2023): 淀川河口にストランディングしたマッコウクジラにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性, 日本セトロロジー研究会第33回 (佐世保) 大会, 佐世保, 6月10~11日, 発表要旨集, 30
- 54) 国末達也 (2023): アジア新興国における廃棄物および工業・生活排水に由来する有害化学物質汚染の現状, 第50回日本毒性学会学術年会, 横浜, 6月19~21日, 講演集, S59&S276
- 55) 石橋弘志・西村紗織里・田中こころ・治多伸介・高山弘太郎・山城秀之・竹内一郎 (2023): 日焼け止め成分オキシベンゾンのミドリイシ属サンゴ/褐虫藻に対する毒性影響. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島, 6月.
- 56) 前田和勲・平野将司・飯田 緑・石橋弘志 (2023): 機械学習を用いたヒト PPAR α に結合する PFAS の特徴の解明. 第2回環境化学物質3学会合同大会, 徳島, 6月.

- 57) 高橋 真・岡村奏太郎・久保 猛・野崎彰平・高須賀智奈美・水川葉月・中村裕史・川嶋文人・石橋弘志 (2023): 魚類および野生動物組織中の PFASs の分析法開発と蓄積特性評価. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 58) 石橋弘志・内田雅也・富永伸明・有蘭幸司・平野将司 (2023): 海産甲殻類アミにおける脱皮ホルモン応答遺伝子の時系列発現解析. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 59) 松村勇輝・内田雅也・水川葉月・富永伸明・有蘭幸司・平野将司・石橋弘志 (2023): フェニルピラゾール系殺虫剤フィプロニル分解物の海産甲殻類アミトランスクリプトームに及ぼす影響. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 60) 内田雅也・平野将司・水川葉月・富永伸明・有蘭幸司・石橋弘志 (2023): 海産甲殻類アミを用いたフェニルピラゾール系殺虫剤エチプロールの生態影響評価. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 61) 平野将司・内田雅也・小林 淳・石橋弘志 (2023): 甲殻類アミおよびイガイにおける1,3,7-TriBDD の毒性影響. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 62) 西山裕貴・内田雅也・石橋弘志・有蘭幸司・富永伸明 (2023): メダカ胚による有機フッ素化合物 PFOS, PFOA の発生影響評価. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 63) 久保田彰・Ahmed Rehab・Chen Xing・Lee Jae Seung・池本秀樹・小椋響子・田上瑠美・野見山桂・高橋 真・石橋弘志・後藤哲智・国末達也・中村達朗・村田幸久・寺岡宏樹・池中良徳 (2023): 分析化学的手法の活用によるゼブラフィッシュ胚を用いた発生毒性評価と毒性発現機構の解析. 第2回環境化学物質3学会合同大会. 徳島. 6月.
- 64) Ishibashi H, Nishimura S, Tanaka K, Haruta S, Takayama K, Yamashiro H, Takeuchi I. (2023): Transcriptome analysis of the hermatypic coral *Acropora tenuis* and its symbiotic dinoflagellates exposed to the UV absorber oxybenzone (BP-3) included in sunscreens. SETAC Australasia 2023 Conference, Townsville, Queensland, Australia, August.
- 65) 須之内朋哉・宮本侑磨・石井直人・Nguyen Minh Tue・後藤哲智・日向博文・国末達也 (2023): 海洋環境を想定したマイクロプラスチックに対する PCBs 吸着試験法の構築. 環境科学会2023年会, 神戸, 9月7~8日, 要旨集, 175
- 66) 須之内朋哉・平田若葉・後藤哲智・高橋 真・田上瑠美・国末達也 (2023): 野生鳥類2種におけるリン酸エステル系難燃剤汚染. 環境科学会2023年会, 神戸, 9月7~8日, 要旨集, 176
- 67) 家田曜世・橋本俊次・高橋 真・国末達也 (2023): 環境試料ノンターゲット分析手法の開発と堆積物コア試料への応用. 日本分析化学会第72回年会, 熊本, 9月13~15日, プログラム集, 2P-273
- 68) 座古 保・福永隼大・国末達也 (2023): アミロイド凝集を指標とした化合物の内分泌攪乱性評価法の創出. 日本分析化学会第72回年会, 熊本, 9月13~15日, プログラム集, 3A4-107
- 69) Goto, A., Zushi, Y., Tue, N. M., Kunisue, T. (2023): Suspect screening of bioaccumulative halogenated natural products in Japanese seabass by GC × GC/HRTToFMS. 20th International Conference on Harmful Algae (ICHA2023), Hiroshima, Japan, September, Abstract Book 400
- 70) Dave Arthur R. Robledo, Takahito Kumagawa, Yuka Yoshinouchi, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2023): Transactivation potencies of estrogen receptor alpha (ER α) by DDTs: Interspecies comparison of the killer whale, Baikal seal, and mouse using in vitro and in silico approaches, 2023 International Joint Meeting of 23rd ICCP450/38th JSSX (国際学会), 静岡, 9月
- 71) Hisato Iwata (2023): In vitro and in silico assessments of chemical-induced disruption of nuclear receptor-cytochrome P450 signaling pathways in aquatic mammals, 2023 International Joint Meeting of 23rd ICCP450/38th JSSX (招待講演) (国際学会), 静岡, 9月
- 72) Takahito Kumagawa, Hoa Thanh Nguyen, Mayumi Sakata, Hisato Iwata (2023): Assessment and Predictive Modeling of Trans a ctivation Potential of Endocrine Disrupting Chemicals through Dog and Cat Estrogen Receptor alpha, International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics(2023 ICCP450/JSSX), 静岡, 9月
- 73) 内田雅也・水川葉月・平野将司・富永伸明・有蘭幸司・石橋弘志 (2023): 海産甲殻類を用いた農薬類の生態影響評価. 九州微生物研究フォーラム. 福岡. 9月.
- 74) Oeda, T., Sunouchi, T., Kunisue, T., Matsuda, A., Matsuishi, T., Nishimaniwa, K., Yamada, T.K., Tajima, Y. (2023): The attempt to assess the POPs impact of marine plastic debris in gastrointestinal tracts of stranded cetaceans in Japan, The 16th Asian Society of Conservation Medicine Conference, Jeju, Republic of Korea, October, Abstracts, 85

4. 研究成果

- 75) Sunouchi, T., Goto, A., Tue, N.M., Tajima, Y., Yamada, T.K., Kunisue, T. (2023): Can halogenated natural products be potential indicators for understanding cetacean habitats? The 16th Asian Society of Conservation Medicine Conference, Jeju, Republic of Korea, October, Abstracts, 155
- 76) Tue, N. M., Matsuoka, J., Viet, P. H., Sudaryanto, A., Kunisue, T. (2023): Non-target screening of organohalogen compounds in archived tilapia samples from several Asian countries, SETAC North America 44th Annual Meeting, Kentucky, USA, November, Program 4.23.V-020
- 77) Nakayama K, Wada R, Kurata O, Wada S, Goto A, Kunisue T, Amano A, Itaki T, Uno S, Suzuki G. (2023): Chronic effects of dietary administered tire particles in common carp. SETAC North America 44th Annual Meeting, Louisville, KY, USA, November 12–16, 2023, Abstract book, 394.
- 78) administered tire particles in common carp. SETAC North America 44th Annual Meeting, Louisville, KY, USA, November 12–16, 2023, Abstract book, 394.
- 79) Yamasaki M, Uno S, Kokushi E, Bito T, Imamura K, Odagiri H, Nakayama K, Suzuki G. (2023): Effects to marine amphipod exposed to particles and their dissolved components derived from new or used tires. SETAC North America 44th Annual Meeting, Louisville, KY, USA, November 12–16, 2023, Abstract book, 395.
- 80) 石橋弘志・南出成梧・竹内一郎 (2023): 除草剤ジウロンを曝露したウスエダミドリイシとその共生藻におけるストレス応答遺伝子の発現解析. 日本サンゴ礁学会第26回大会. 宮城. 11月.
- 81) 中島 舞・水川葉月・川嶋文人・中村裕史・横山 望・池中良徳・石橋弘志・高橋 真 (2023): 室内ダスト中ベル及びポリフルオロアルキル物質 (PFAS) の汚染実態調査とリスク評価, 2023年室内環境学会学術大会, 那覇市, 11月30日~12月2日, 要旨集 A-08.
- 82) Kubota, A., Hideki Ikemoto, H., Okizawa, Y., Ogura, K., Mizuhara, N., Tanoue, R., Nomiya, K., Ikenaka, Y., Kawai Y.K., (2023): ゼブラフィッシュにおけるネオニコチノイド系殺虫剤の体内動態と発達神経毒性の評価, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 8.
- 83) Hirai, A., Toda, C., Yohannes, Y.B., Collins, N., Mai Tamba, M., Nomiya, K., Eguchi, A., Hoshi, N., Hirano, T., Nakayama, S.N.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y., (2023): ネオニコチノイド投与による不安様行動と脳内モノアミンの関連性, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 16.
- 84) Koike, K., Hirai, A., Nomiya, K., Eguchi, A., Hoshi, N., Hirano, T., Nimako, C., Beyene, Y, Tamba, M., Nakayama, S.M.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y., (2023): 質量分析計を用いたネオニコチノイド投与マウスの毒性評価, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 17.
- 85) Sato, A., Sato, F., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Tanoue, R., Yokoyama, N., Takiguchi, M., Nakatsu, S., Nomiya, K. (2023): コンパニオンアニマルにおける PFAS の汚染実態解明, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 24.
- 86) Shinzato, Y., Mizukawa, H., Nomiya, K., Watanabe, M., Takahashi, S., (2023): 野生鳥類における PCBs 汚染実態と代謝特性の解明および生態影響評価, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 25.
- 87) Kubo, N., Nomiya, N., Buenfil-Rojas, M., Iwata, H. (2023): メキシコ産モレレットワニにおける POPs の汚染実態と影響毒性評価の試み, 7th Chemical Hazard Symposium, 愛媛大学, 12月13日~12月14日, 講演要旨集, 28.
- 88) 中島 舞・水川葉月・川嶋文人・中村裕史・横山 望・池中良徳・石橋弘志・高橋 真 (2023): 室内ダスト中ベル及びポリフルオロアルキル物質 (PFAS) の汚染実態調査とリスク評価. 2023年室内環境学会学術大会. 沖縄. 12月.
- 89) Hao Chen, Kaori Chigusa, Kazuki Kanda, Rumi Tanoue, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2023): Hazard Assessment of Short-chain Chlorinated Paraffins on Early-stage Chicken Embryos in a Shell-less Incubation System. 7th International Chemical Hazard Symposium. Ehime, Japan, December.
- 90) Shun Shinoda, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2023): Developmental Cardiotoxicity and Cardiotoxicity Assessment of Organophosphorus Flame Retardants and Organofluorine Compounds. Using Human iPS Cell-Derived Cardiomyocytes. 7th International Chemical Hazard Symposium. Ehime, Japan, December.
- 91) Islem Boukara, Hoa Thanh Nguyen, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2023): Hazard Assessment of Chlorinated Paraffins using Human iPS Cells. 7th International Chemical Hazard Symposium. Ehime, Japan, December.

生態・保健科学部門

- 1) 大林由美子 (2023): 「波の花」から探る大気海洋境界の生物地球化学, 寒冷圏大気-海洋間の生物地球化学的相互作用に関する研究集会, 札幌市/オンライン(ハイブリッド), 2023年2月28日.
- 2) Uddin, M. M., Suzuki, Y., Suzuki, T., Reyes, J. I. L., Watanabe, K. (2023): Symposium of JSPS Core-to-Core Program Asia-Africa Science Platforms "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Japan, Characterization of viral DNA forms of cell-fusing agent virus (CFAV) produced in *Aedes aegypti* mosquito in vitro, 2023年3月7日.
- 3) 岩本洋子・関口俊男・濱崎恒二・岩田 歩・大林由美子 (2023): 「波の花」に含まれる界面活性物質の化学的性質と起源に関する研究, 金沢大学 環日本海域環境研究センター 2022年度共同研究成果報告会, 金沢/オンライン(ハイブリッド), 2023年3月9日.
- 4) 渡邊里帆・大林由美子・北村真一 (2023): ヒラメ養殖場近海の底泥からのスクーチカ症原因繊毛虫 *Miamiensis avidus* の検出, 神奈川県藤沢市, 2023年3月14日.
- 5) 高橋真司, 守屋 翼, Arthien Pelingen, Clivaz Karim, Dan Joseph LOGRONIO, 渡辺幸三, 竹門康弘 (2023): 第57回日本水環境学会年会, 松山市, 天竜川におけるアユの産卵床分布の時空間変動に対する環境 DNA の応答, 2023年3月16日.
- 6) 鈴木康嗣, 鈴木貴大, Jerica Isabel L Reyes, Mohammad Mosleh Uddin, Irish Coleen A. Asin, 三浦郁修, Artem Baidaliuk, Etienne Simon-Loriere, Louis Lambrechts, Maria Carla Saleh, 渡辺幸三 (2023): 第57回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 松山市, ネットイシマカと蚊特異的ウイルスをモデルとした媒介蚊-ウイルス相互作用の理解, 2023年6月30日.
- 7) 渡辺幸三 (2023): 第4回愛媛ワンヘルス研究会, 松山市, デング熱媒介蚊の生態の遺伝学的調査, 2023年7月1日.
- 8) 鈴木康嗣, Irish Coleen A. Asin, 光成 渉, Mohammad Mosleh Uddin, Reyes L. Jerica Isabel, 渡辺幸三 (2023): 第70回ウイルス学会学術集会, 仙台市, 昆虫特異的ウイルス cell-fusing agent virus 自然感染蚊における個体内ウイルス動態とウイルス DNA 産生の解析, 2023年9月26日.
- 9) 新開祐介・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2023): 駿河湾沖合域における浮遊性ヤムシ類の季節変動と群集構造, 2023年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 函館市, 2023年9月2日.
- 10) 剣持瑛行・日高弥子・Dhugal Lindsay・Mehul Naresh Sangekar・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2023): 駿河湾奥部におけるメソ動物プランクトンの群集構造: 海産枝角類を中心として, 2023年度日本海洋学会秋季大会, 京都市, 2023年9月25日.
- 11) 山岡望海・宗林留美・久保篤史・西川 淳・松浦弘行・吉川 尚・大林由美子 (2023): 駿河湾における溶存有機物と原核生物の関係, 2023年度日本海洋学会秋季大会, 京都市, 2023年9月.
- 12) 上田裕希・宗林留美・西川 淳・松浦弘行・吉川 尚・大林由美子 (2023): 駿河湾の海水を用いたオリゴ糖様化合物の生産実験, 2023年度日本海洋学会秋季大会, 京都市, 2023年9月.
- 13) Muharromah, A. F., Reyes, J., Kagia, N., Watanabe, K. (2023): Annual Meeting of America Society of Tropical Medicine and Hygiene, USA, Genome-wide detection of *Wolbachia* in natural *Aedes aegypti* populations using ddRAD-Seq, 2023年10月20日.
- 14) Miaral, F. P. L., Carvajal, T. M., Cruz, A. K. R. D., Dideles, S. A. N., Hipolito, L. P. A., Amalin, D. M., Watanabe, K. (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, Insecticide resistance screening and genotyping of *Aedes aegypti* populations in Laguna and Cavite, Philippines, 2023年11月30日.
- 15) Reyes, J. I. L., Suzuki, Y., Watanabe, K. (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, Susceptibility of Philippine *Aedes aegypti* (Linnaeus) to Dengue virus 2: Implications for dengue transmission, 2023年11月30日.
- 16) Uddin, M. M., Suzuki, Y., Reyes, J. I. L., Watanabe, K. (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, In vitro characterization of viral DNA forms of cell-fusing agent virus (CFAV) produced in *Aedes aegypti* mosquito, 2023年11月30日.
- 17) Muharromah, A. F., Reyes, J., Kagia, N., Watanabe, K. (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, Genome-wide detection of *Wolbachia* in natural *Aedes aegypti* populations using ddRAD-Seq, 2023年11月30日.
- 18) Muharromah, A., Carvajal, T. M., Regilme, M. A. F., Watanabe, K. (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, Fine-scale adaptive divergence of *Aedes aegypti* in

4. 研究成果

- heterogeneous landscapes and among climatic conditions in Metropolitan Manila, Philippines, 2023年11月30日.
- 19) Yasutsugu Suzuki, Irish Coleen A. Asin, Takahiro Suzuki, Fuminari Miura, Artem Baidaliuk, Jerica Isabel L. Reyes, Mohammad Mosleh Uddin, Sekii Yu, Etienne Simon-Loriere, Louis Lambrechts, Maria Carla Saleh and Kozo Watanabe (2023): JSPS Core-to-Core Symposium "Mosquito-borne Disease Control from Ecological Approaches", Philippines, Understanding biology of insect-specific viruses toward controlling arbovirus transmission, 2023年11月30日.
 - 20) Obayashi, Y., Tamura, N., Imanaka, K., Nishikawa, J. (2023): Microbial degradation of carcass of jellyfish and other gelatinous zooplankton in seawater, 7th International Jellyfish Blooms Symposium, Thiruvananthapuram, India, 2023年11月.
 - 21) Asin, I. C. A., Suzuki, Y., Baidaliuk, A., Mitsunari, W., Simon-Loriere, E., Watanabe, K. (2023): 第46回日本分子生物学会年会, 神戸, Replication kinetics and tissue tropism of insect-specific viruses in a naturally infected *Aedes aegypti* colony, 2023年12月6-8日.
 - 22) Logronio, D. J., Chiu, M., Larano, A., Kolscar, L.P., Serrana, J., Watanabe, K. (2023): 第6回環境 DNA 学会九州大会, 福岡市, Species-Genetic Diversity Correlations (SGDC) and Metaphylogeographic Analysis of Aquatic Insects Based on Bulk Community and eDNA Metabarcoding, 2023年12月5日.
 - 23) 大林由美子 (2023):「波の花」から海洋エアロゾル中の有機物・微生物動態を知る? ~細胞外加水分解酵素編~, 波の花・海泡濃集ワークショップ, 金沢市/オンライン(ハイブリッド), 2023年12月.

5. 学会及び社会における活動

(令和5年度)

5.1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 招聘上席研究員，独立行政法人海洋研究開発機構 APL
- 2) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 SIMSEA 小委員会委員
- 3) Future Earth Coast 小委員会委員
- 4) 審査委員，独立行政法人日本学術振興会

森本 昭彦

- 1) IOC 協力推進委員会海洋観測・気候変動国内専門部会員，海洋研究開発機構
- 2) 研究航海検討委員会アドバイザー，海洋研究開発機構
- 3) 共同利用・共同研究委員会委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 4) 共同利用・共同研究大気陸域海洋専門委員長，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 5) 融合研究戦略室運営委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 6) EMECS 高校生海洋環境保全研究発表会指導委員，国際 EMECS センター
- 7) 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC 小委員会委員

吉江 直樹

- 1) 共同議長，北太平洋海洋科学機構 (PICES) 北太平洋沿岸海洋観測に関する委員会 (AP-NPCOOS)
- 2) 委員，日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC Japan

加 三千宣

- 1) 東京大学大気海洋研究所研究船共同利用運営委員会研究船運航部会委員

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員，環境省
- 2) 共同利用・共同研究拠点「環境汚染・沿岸環境研究拠点 (LaMer)」拠点長，文部科学省
- 3) 農薬の鳥類に対する慢性影響のリスク評価に関する検討会委員，環境省
- 4) 日本学術振興会 学術システム研究センター プログラムオフィサー (主任研究員)，日本学術振興会
- 5) 難分解性・高濃縮性化学物質による高次捕食動物への毒性評価法に係る検討会委員，環境省
- 6) High-level Foreign Expert Talent, 西北大学 (中国)

国末 達也

- 1) 学術諮問委員，(社)日本化学工業協会
- 2) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員，愛媛県
- 3) 曝露評価専門委員会精度管理分科会委員，環境省
- 4) 大阪 PCB 処理事業部会委員，中間貯蔵・環境安全事業(株)
- 5) 北九州 PCB 処理事業部会委員，中間貯蔵・環境安全事業(株)
- 6) 愛媛県環境影響評価審査会委員，愛媛県

5. 学会及び社会における活動

- 7) 新規 POPs 等研究会委員，環境省
- 8) POPs 条約有効性評価国内検討委員，環境省
- 9) 西条市環境審議会委員，愛媛県西条市
- 10) 化学物質環境実態調査に係る保存試料活用に関する検討会委員，環境省
- 11) 愛媛県地下水保全及び適正利用審議会委員，愛媛県
- 12) 南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会委員，環境省
- 13) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県

仲山 慶

- 1) 化学物質審査検討会専門委員，経済産業省
- 2) 餌料投与法における試験条件の精緻化に関する調査委員，経済産業省
- 3) 令和5年度海洋プラスチックゴミによる生物・生態影響把握等業務有害性評価分科会委員，環境省

落合 真理

- 1) アドバイザリーボード委員，環境研究総合推進費「野生動物への環境汚染物質の影響評価を実現する培養細胞を用いた新規評価技術の構築（4RF-2102）」

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 審査委員，独立行政法人日本学術振興会
- 2) 客員教授，山形大学
- 3) 客員教授，デ・ラサール大学（フィリピン）
- 4) 客員教授，パジャジャラン大学（インドネシア）
- 5) フェロー，Borneo Medical and Health Research Centre, Universiti Malaysia Sabah
- 6) 特任教授（客員），東北大学

大林由美子

- 1) 審査委員，独立行政法人日本学術振興会

鈴木 康嗣

- 1) 外部審査員，Dutch Research Council
- 2) 外部審査員，Swiss National Science Foundation

5.2 学協会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 評議員，日本海洋学会
- 2) 事業部会委員，日本海洋学会沿岸海洋研究会

森本 昭彦

- 1) 評議員，日本海洋学会
- 2) 委員，日本海洋学会沿岸海洋研究会
- 3) 総務部長，日本海洋学会沿岸海洋研究会

吉江 直樹

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 事業部会委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究会
- 3) 副企画委員長, 瀬戸内海研究会議
- 4) 海洋酸性化対策検討委員会委員, 日本財団 海洋酸性化適応プロジェクト
- 5) 統合シミュレーションモデル構築のための課題整理検討会課題リーダー, 瀬戸内海研究会議
- 6) 部会長, 宇和島環境教育協議会, 教育カリキュラム部会
- 7) 日本財団 海洋酸性化適応プロジェクト 海洋酸性化対策検討委員会委員

加 三千宣

- 1) 評議員, 日本第四紀学会
- 2) 編集委員, 日本第四紀学会

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 理事, 日本内分泌攪乱化学物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 22nd International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO22), International Scientific Committee
- 4) 21st International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21) 実行委員会委員

国末 達也

- 1) 評議員, 内分泌攪乱物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 編集委員, 日本環境化学会 機関誌「環境化学」
- 4) 理事, 日本環境化学会

野見山 桂

- 1) 幹事, 日本水環境学会中国・四国支部
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 内分泌攪乱化学物質学会
- 4) 副幹事, 日本環境化学会 環境毒性部会
- 5) 正幹事, 日本環境化学会 中国四国地区部会
- 6) EMCR, Editorial Board Members

田上 瑠美

- 1) 評議員, 日本環境化学会

仲山 慶

- 1) 幹事・編集委員, 日本環境毒性学会
- 2) 編集委員, 日本水産学会
- 3) Editorial Board Member, Environmental Toxicology (Wiley)

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 運営幹事, 日本水環境学会
- 2) Executive Board Members, Benthological Society of Asia (BSA)

大林由美子

- 1) 幹事, 日本海洋学会
- 2) 研究に関する将来構想ワーキンググループ, 日本海洋学会
- 3) 論文賞選考委員会委員, 日本海洋学会
- 4) 海洋環境委員会委員, 日本海洋学会

5.3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) LaMer シンポジウム
「環境化学物質 3学会合同大会」環境化学物質の学際的共同研究の成果と展望
期日: 令和5年5月31日
会場: あわぎんホール
- 2) LaMer 特別講演会
「月と海底地形が織りなす深海乱流の世界」
期日: 令和5年6月23日
会場: 愛媛大学理学部講義棟1階 S12講義室
- 3) LaMer 特別講演会
「High-throughput exposure assessment in cell-based in vitro bioassays」
期日: 令和5年6月23日
会場: オンライン開催
- 4) LaMer 特別講演会
「Host-microbiota interactions in response to environmental stressors in cladocerans」
期日: 令和5年8月25日
会場: 愛媛大学 総合研究棟1 6階理学部会議室
- 5) LaMer 特別講演会
「Mosquito-specific viruses: diversity, evolution, and virus-host interactions.」
「Dynamic evolution of endogenous retroviral envelope derived protein-coding genes in mammalian genomes.」
期日: 令和5年8月30日
会場: 愛媛大学 工学部2号館 4階ゼミ室
- 6) LaMer シンポジウム
「One Health シンポジウム
～環境の健全性評価に多角的な視点でアプローチする～」
期日: 令和5年9月11日
会場: 愛媛大学 総合研究棟1 6階理学部会議室 (オンラインとのハイブリッド開催)
- 7) LaMer 特別講演会
「環境に依存する動物の性の研究」
期日: 令和5年11月9日
会場: 愛媛大学 総合研究棟1 6階理学部会議室
- 8) LaMer 特別講演会
「Blue carbon」
期日: 令和5年11月28日
会場: 愛媛大学 総合研究棟1 4階共通会議室
- 9) LaMer 研究集会
「瀬戸内海水産環境研究集会」
期日: 令和5年11月29日～30日
会場: 愛媛大学理学部講義棟 3階 S31講義室 (オンラインとのハイブリッド開催)
- 10) LaMer 特別講演会
「Deep oceans may acidify faster than anticipated due to global warming」

期日：令和5年12月5日

会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階共通会議室

11) LaMer シンポジウム

第7回 Chemical Hazard Symposium (日本環境化学会 北海道・東北地区部会および中国・四国地区部会との共催)
～環境研究のための異分野融合～「化学物質による野生動物への影響評価の最前線」

期日：令和5年12月13日～14日

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階理学部会議室 (オンラインとのハイブリッド開催)

12) LaMer 特別講演会

「人工知能とシミュレーションを使って生物を理解・設計する」

期日：令和6年1月26日

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階理学部会議室

13) LaMer 研究集会

「Recent trends in biological control: Interdisciplinary approaches for vector-borne diseases and agricultural pest management」

期日：令和6年2月20日

会場：愛媛大学理学部講義棟 総合研究棟2 2階213室

5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)

該当なし

5. 5 学会賞等

化学汚染・毒性解析部門

甲斐 奏 (大学院理工学研究科 博士前期課程1年)

- 1) 第2回環境化学物質3学会合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (RSC 賞) (令和5年6月)

水原 奈々 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第2回環境化学物質3学会合同大会, ナイスプレゼン賞 (最優秀賞) (令和5年6月)

須之内朋哉 (大学院理工学研究科 博士後期課程)

- 1) 環境科学会2023年会, 優秀発表賞 (富士電機賞) (令和5年9月)

服部 兼真 (理学部理学科化学コース)

- 1) 第58回日本水環境学会年会, 優秀ポスター発表賞 (ライオン賞) (令和6年3月)

千種 佳織 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第2回環境化学物質3学会合同大会, 若手奨励賞受賞 (令和5年6月)

熊川 貴仁 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第2回環境化学物質3学会合同大会, 優秀学生発表賞 (森田賞) 受賞 (令和5年6月)

Dave Arthur R. Robledo (大学院理工学研究科 博士後期課程2年)

- 1) 第2回環境化学物質3学会合同大会, ナイスプレゼン賞 (令和5年6月)

6. 国際的活動

(令和5年度)

6.1 国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成30年1月～, 日本南岸黒潮と親潮による栄養塩輸送及び北西太平洋への影響, 自然資源部第二海洋研究所
- 2) 平成30年1月～, 東シナ海の起源の異なる栄養塩の役割に関するモデリング研究, 中国海洋大学, 天津科技大学
- 3) 平成30年1月～, 渤海と黄海における残留性有機汚染物質に関するモデリング研究, 中国海洋大学, 中国科学院煙台海岸帯研究所
- 4) 令和4年5月～, タイのチャオプラヤー川の海水進入に関する研究, カセサート大学

森本 昭彦

- 1) 平成26年6月～, 西部太平洋および周辺縁辺海の海面高度と流速場の変動, CNES (フランス)
- 2) 令和2年4月～, 持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト, チュラロンコン大学 (タイ), マレーシアテレンガヌ大学 (マレーシア), 海洋環境資源研究所 (ベトナム), フィリピン大学ビサヤ校 (フィリピン)

吉江 直樹

- 1) 平成30年4月～, 北太平洋沿岸域における海洋モニタリングに関する研究 (AP-NPCOOS), PICES 加盟国 (米国, カナダ, ロシア, 中国, 韓国)

加 三千宣

- 1) 令和元年8月～, 人新世 GSSP 研究プロジェクト (米国・カナダ・イギリス・オーストラリア)

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 2) 平成21年～, 野生生物のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 韓国・Kyung Hee University
- 3) 平成28年～, フィリピン水圏環境の汚染と野生生物の影響に関する研究, フィリピン・University of the Philippines Los Baños
- 4) 平成29年～, 環境汚染物質が野生生物のトランスクリプトームに及ぼす影響評価, 中国・西北大学
- 5) 平成29年～, 野生動物のゲノム解析に関する研究, 韓国・Ewha Womans University
- 6) 令和3年～, メキシコ産ワニを対象とした次世代型モニタリング基盤の開発, メキシコ・El Colegio de la Frontera Sur (ECOSUR)
- 7) 令和5年～, タイ住民を対象にしたマイクロプラスチック汚染の影響評価, タイ・Chulabhorn Research Institute

国末 達也

- 1) 平成26年～, インドの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設, 都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究, インド Bharathidasan University, Tiruchirappalli および KLE' s

Nijalingappa College, Bangalor

- 2) 平成26年～, ベトナムの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設, 都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究, ベトナム・ハノイ科学大学
- 3) 平成26年～, ガーナの電子・電気機器リサイクル施設における難燃剤およびダイオキシン類化合物の汚染と起源に関する研究, ガーナ科学・工業研究評議会 (Council for Scientific and Industrial Research)
- 4) 平成26年～, POPs 関連物質, 有機スズ化合物, 微量元素によるポルトガルの室内環境と食品汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学 & Évora 大学
- 5) 平成27年～, インドネシアの沿岸域および都市域における POPs 関連物質と微量元素の汚染に関する研究, インドネシア・Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency
- 6) 平成27年～, POPs 関連物質によるマレーシア沿岸域の汚染に関する研究, マレーシア・アプトラ大学
- 7) 平成30年～, POPs 関連物質によるエジプト沿岸域の汚染に関する研究, エジプト・National Research Centre (NRC)
- 8) 令和5年～, バングラデッシュにおける抗生物質汚染と薬剤耐性菌の出現に関する研究, バングラデッシュ・ダッカ大学

野見山 桂

- 1) 平成20年～, 有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NASA
- 2) 平成27年～, アジア河川域における PPCPs による汚染実態の解明, ベトナム・ハノイ科学大学
- 3) 平成28年～, PCBs, PBDEs, および水酸化代謝物によるポルトガルのペット動物汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成29年～, タイ王国におけるペット動物汚染の実態解明に関する研究, Kasetsart 大学獣医学部

田上 瑠美

- 1) 平成27年～, 水生生物に対する医薬品類の影響評価に関する研究, 英国・ブルネル大学
- 2) 平成29年～, 内分泌かく乱化学物質によるポルトガルの室内環境とヒト汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 3) 令和元年度～, ベトナムの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, ベトナム・ハノイ科学大学
- 4) 令和5年度～, タイの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, タイ・カセサート大学
- 5) 令和5年度～, インドネシアの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, インドネシア・National Research and Innovation Agency - BRIN
- 6) 令和5年度～, バングラデッシュの水圏環境における医薬品類の環境動態・生態リスクに関する研究, バングラデッシュ・ダッカ大学

落合 真理

- 1) 令和5年～, *In vitro* 試験による海棲哺乳類の毒性影響評価に関する研究, ドイツ・Helmholtz-Centre for Environmental Research-UFZ

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 平成24年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, フィリピン・デ・ラサール大学理学部
- 2) 平成26年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・パジャジャラン大学医学部
- 3) 平成28年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・ガジャマダ大学理学部
- 4) 平成28年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・ハサヌディン大学公衆衛生学物
- 5) 令和2年4月～, 感染症数理モデルに関する研究, オランダ・国立公衆衛生環境研究所 (RIVM)

大林由美子

- 1) 令和5年9月～, クラゲ類と共生微生物の生態に関する研究, タイ・ブラバ大学海洋科学研究所

鈴木 康嗣

- 1) 令和2年9月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, フランス・パスツール研究所
- 2) 令和2年9月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, オランダ・国立公衆衛生環境研究所 (RIVM)

6. 2 在外研究等

該当なし

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 令和5年7月20日～23日, CMES で開発した数値モデルを用いた共同研究の打合せおよび学術交流協定締結に向けた意見交換, ベトナム海洋水産研究所およびハノイ科学大学, ベトナム
- 2) 令和5年9月11日～23日, 国際共同 B の成果についての議論, 中国科学院煙台海岸帯研究所, 中国
- 3) 令和6年3月6日～13日, 黒潮内側域における海水起源に関する論文作成, 黒潮内側域における流動構造に関する情報交換, 中山大学, 台湾大学, 台湾
- 4) 令和6年3月16日～28日, 研究打ち合わせおよび論文準備, 杭州, 青島, 中国

森本 昭彦

- 1) 令和5年5月12日～20日, 北部タイランド湾の海洋環境調査およびバンコク市内の運河・河川の水質調査, Bangkok, Thailand
- 2) 令和5年6月12日～15日, 北部タイランド湾における係留系観測, Chonburi, Thailand
- 3) 令和5年7月20日～23日, CMES で開発した数値モデルを用いた共同研究の打合せおよび学術交流協定締結に向けた意見交換, ベトナム海洋水産研究所およびハノイ科学大学, ベトナム
- 4) 令和5年7月30日～8月5日, 北部タイランド湾の海洋環境調査およびバンコク市内の運河・河川の水質調査, Bangkok, Thailand
- 5) 令和5年9月18日～23日, SWOT Science Team Meeting 参加, Toulouse, France
- 6) 令和5年10月12日～15日, 北部タイランド湾の海洋環境調査およびバンコク市内の運河・河川の水質調査, Bangkok, Thailand
- 7) 令和6年2月18日～22日, 北部タイランド湾の環境改善に向けた共同研究の打合せ, Bangkok, Thailand
- 8) 令和6年3月8日～17日, 北部タイランド湾における観測作業及びデータ解析トレーニングコース指導・研究打合せ, Bangkok, Thailand

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 令和5年7月5日～8日, 共同研究会議, Chulabhorn Research Institute タイ

国末 達也

- 1) 令和5年9月22日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam

Nguyen Minh Tue

- 1) 令和5年9月22日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam
- 2) 令和5年11月12日～16日, Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 44th Annual Meeting で発表, オンライン

後藤 哲智

- 1) 令和5年11月5日～10日, 20th International Conference on Harmful Algae (ICHA2023) で発表, 広島

田上 瑠美

- 1) 令和5年7月30日～8月3日, タイの環境調査と研究試料の採取, Kasetsart University, Bangkok, Thailand
- 2) 令和5年9月22日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam
- 3) 令和5年10月12日～15日, タイの環境調査と研究試料の採取, Kasetsart University, Bangkok, Thailand

生態・保健科学部門

大林由美子

- 1) 令和5年11月20日～27日, 7th International Jellyfish Blooms Symposium (JBS7), Thiruvananthapuram, India. 発表・参加,

6. 4 外国人客員研究員等

環境動態解析部門

- 1) Cao Anzhou, 愛媛大学外国人客員研究員, 浙江大学海洋学院, 2022年7月13日～2023年7月3日
- 2) Kittipong Phattananuruch, 愛媛大学外国人客員研究員, カセサート大学, 2023年1月5日～2023年8月28日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Kanerva Mirella Maria, 愛媛大学特定研究員, 令和元年5月1日～
- 2) Marisol Asela Buenfil Rojas, 愛媛大学特定研究員, 令和4年8月17日～

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析部門

- 1) Suriyan Tunkijjanukij, カセサート大学, 2023年4月27日
- 2) Juta Mookdasanit, カセサート大学, 2023年4月27日
- 3) Tanuspong Pokavanich, カセサート大学, 2023年4月27日
- 4) Anukul BURANAPRATHEPRAT, ブラパ大学, 2023年6月1日～11日
- 5) Endor SOEYANT, インドネシア国立研究改革庁, 2023年7月11日～16日
- 6) Donglin Yu, 中国海洋大学環境科学与工程学院, 2023年11月7日～19日
- 7) Yujun Liu, 中国海洋大学環境科学与工程学院, 2023年11月7日～19日
- 8) Chen-Tung Arthur CHEN, National Sun Yat-Sen University, 2023年11月9日～12月15日
- 9) Tianchi Li, 天津科技大学海洋与環境学院, 2023年11月28日～12月8日
- 10) Qiaojun Chen, 天津科技大学海洋与環境学院, 2023年11月28日～12月8日
- 11) Suhendar SACHOEMAR, インドネシア国立研究改革庁, 2023年12月9日～15日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Agus Sudaryanto, Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency, Indonesia, 共同研究の実施, 令和5年7月4日～19日
- 2) Susi Sulistia, Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency, Indonesia, 共同研究の実施, 令和5年7月4日～16日
- 3) Ana C. A. Sousa, University of Évora, Portugal, 共同研究の実施, 令和6年1月10日～2月7日
- 4) Elaiyaraja Arun, Bharathidasan University, India, 共同研究の実施, 令和6年2月13日～28日
- 5) Chompoobut Chalida, Chulabhorn Research Institute タイ, 令和5年9月1日～10月30日
- 6) Jee-Yea Lim, Kyung Hee University, Korea, 令和5年7月24日～8月7日
- 7) Eun-Young Kim, Kyung Hee University, Korea, 令和5年7月24日～8月7日
- 8) Jae-Seong Lee, Sungkyunkwan University, Korea, 令和5年8月24日～27日

6. 6 招聘研究員

環境動態解析部門

- 1) Dong Menghong, 特定研究員, 富山湾における低次生態系数値モデリング, 中国
- 2) Wang Shuya, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 黒潮流域における流れと地形の相互作用に起因する内部波と乱流混合, 中国
- 3) Mao Xinyan, 特定研究員, 燧灘の高解像度流動モデル・低次生態系モデルを開発, 中国

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Nguyen Minh Tue, 研究機関研究員, アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価, バイオアッセイおよび GC (LC) –TOFMS を用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立, ベトナム
- 2) Kanerva Mirella Maria, 特定研究員, 環境汚染物質暴露によるバルト海産タイセイヨウサケの肝臓トランスクリプトーム・プロテオームへの影響, フィンランド
- 3) Marisol Asela Buenfil Rojas, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, メキシコ・ワニ野生個体群の化学物質汚染と影響の統合的評価, メキシコ

生態・保健科学部門

- 1) Levente-Péter Kolcsár, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 日本産河川昆虫ユキガガンボの種多様性の解明と地球温暖化の影響予測, ハンガリー
- 2) Karen Judan Cruz, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 遺伝子組換えティラピアのゲノムワイド検索: 養殖における水資源管理への応用, フィリピン
- 3) Anwar Hossain, 沿岸環境科学研究センター, 特定研究員, 養殖排水中の抗生物質の除去と薬剤耐性菌の制御: バングラデシュへ適用可能な新技術, バングラデシュ
- 4) Michael T. Monaghan, 沿岸環境科学研究センター, 客員教授, 東南アジアの蚊媒介感染症講座に関する教育および研究, ドイツ
- 5) Divina Amalin, 沿岸環境科学研究センター, 客員教授, 東南アジアの蚊媒介感染症講座に関する教育および研究, フィリピン
- 6) Kim Sanghee, 理工学研究科修士課程, 魚類スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の走化性に関する研究, 大韓民国

6. 7 留学生等

環境動態解析部門

- 1) Tong-u-dom Siraporn, 大学院理工学研究科博士後期課程, 播磨灘の栄養塩循環に関する研究, タイ
- 2) Leng Qian, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海における外洋起源栄養塩に関する研究, 中国
- 3) Bai Yu, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海におけるマイクロプラスチック動態に関するモデリング, 中国
- 4) Li Zilin, 大学院理工学研究科博士後期課程, 東シナ海における低酸素水塊の分布と時間変動に関する研究, 中国
- 5) Li Yaxian, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海における PCB の水平分布と季節変化に関する研究, 中国
- 6) Zhao Xueting, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海の植物プランクトン態の PCB 濃度の時間変動に関する研究, 中国
- 7) Li Saisai, 大学院理工学研究科博士後期課程, ADCP データによる動物プランクトン現存量の推測, 中国
- 8) Lin Shiyang, 大学院理工学研究科博士後期課程, 燧灘におけるフロント構造と底部冷水に関するモデリング研究, 中国
- 9) Luo Yifei, 大学院理工学研究科博士後期課程, 黒潮流域における沿岸水と外洋水の海水交換と栄養塩輸送及びその影響評価, 中国
- 10) Wu Zaosen, 大学院理工学研究科博士後期課程交換留学生, 堆積物における窒素・炭素循環に関するモデリング研究, 中国
- 11) Lu Xinyu, 大学院理工学研究科博士後期課程交換留学生, 干潟における炭素循環に関するモデリング研究, 中国
- 12) Kongpradit Pattinee, 大学院理工学研究科博士後期課程理工学専攻, 北部タイランド湾の栄養塩循環とヤコウチュウ赤潮に関する研究, タイ

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 李 曉彬, 理工学研究科博士前期課程, リン系難燃剤を暴露したニワトリ胚の心臓毒性に関する研究, 中国
- 2) Park Chaeyeon, 理学部生物学コース, 殻なしニワトリ胚孵化装置を用いたリン酸トリフェニル (TPHP) の発生毒性評価, 韓国
- 3) Chen Hao, 理工学研究科博士後期課程, 塩素化パラフィン曝露によるニワトリ胚の発生毒性評価, 中国
- 4) Cruz Angeline, 理工学研究科博士前期課程, TCDD 曝露によるスナメリ線維芽細胞への毒性影響評価, フィリピン
- 5) Boukara Islem, 理工学研究科博士前期課程, 日本政府・文科省国費留学生, iPS 細胞とその分化肝細胞を用いた塩素化パラフィンの肝毒性評価, アルジェリア
- 6) Dave Robledo, 理工学研究科博士後期課程, 愛媛大学特別研究員, 環境汚染物質によるシャチエストロゲン受容体の転写活性化能の評価および分子メカニズムの解明, フィリピン
- 7) Wei Ming, 理学部生物学コース, ヒト iPS 細胞から神経細胞への分化誘導および環境汚染物質の神経毒性評価, 中国

生態・保健科学部門

- 1) Micanaldo E. Francisco, 理工学研究科博士後期課程 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 2) Jerica Isabel L. Reyes, 理工学研究科博士後期課程, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 3) Atikah Fitria Muharromah, 理工学研究科博士後期課程, 住友電工社会貢献基金寄付講座留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, インドネシア

6. 国際的活動

- 4) **Mohammad Mosleh Uddin**, 理工学研究科博士後期課程, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, バングラデシュ
- 5) **Kenneth Bongulto**, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 6) **Dan Joseph Logronio**, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, 淡水生態系の生物多様性評価に関する研究, フィリピン
- 7) **Irish Coleen Angelo Asin**, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 8) **Kim Sanghee**, 理工学研究科修士課程, 魚類スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の走化性に関する研究, 大韓民国

7. 教育活動

(令和5年度)

7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 横溝 壮真：堆積物 DNA を用いた瀬戸内海の主要な動物プランクトン *Paracalanus parvus* の長期動態復元
- 2) 衣川 和志：別府湾堆積物中の微細マイクロプラスチックに関する研究
- 3) 尾上 遥：北極域ポーフォート海の過去数十年にわたる基礎生産変動に関する研究
- 4) 山下 碧斗：豊後水道における急潮に伴う生態系応答に関する研究
- 5) 細川 琉平：ノリを導入した低次生態系モデルの開発
- 6) 山岡 昂平：東シナ海陸棚斜面域における低次生態系の時空間分布に関する研究

修士論文

- 1) 平橋 佑介：堆積物 DNA を用いたカタクチイワシのハプロタイプ組成変化の復元
- 2) 原 佑輔：豊後水道における沿岸海洋酸性化の時空間変動に関する研究

博士論文

- 1) Leng Qian：Understanding the Role of Different Nutrient Sources in a Semi-enclosed Sea, Seto Inland Sea
- 2) Tong-u-dom Siraporn：Research on lower trophic ecosystem dynamics and their response to changes in nutrient supply in the eastern part of the Seto Inland Sea

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 大木 翼：日本沿岸域に漂着・座礁したスジイルカにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 2) 久保那菜子：メキシコ産モレレットワニにおける血漿中 POPs 汚染の実態
- 3) 小山 愛莉：スリランカの病院排水・公共下水処理排水・環境水における抗微生物薬の存在と挙動および生態リスク
- 4) 徳田 深咲：生体組織試料中 PFAS を対象とした分析手法の検討
- 5) 西岡 咲希：大阪湾のスナメリ及び魚類におけるリン酸エステル系難燃剤汚染：残留性有機汚染物質との比較解析
- 6) 服部 兼真：二枚貝を指標生物とした瀬戸内海沿岸域におけるベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤汚染
- 7) 森 晨滉：ベトナムの水環境中における PFAS の汚染実態調査
- 8) 山村 紀航：野生猛禽類トビにおける新規残留性有機汚染物質の蓄積特性
- 9) 西村 慧介：p,p'-DDE 曝露によるスジイルカ線維芽細胞トランスクリプトームへの影響評価
- 10) 山根進太郎：芳香族炭化水素受容体 (AHR) 活性化予測 QSAR モデルによるプラスチック添加剤の毒性評価
- 11) 魏 銘：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いたフタル酸ジイソノニルの毒性評価
- 12) 南條 完知：ワカレオタマボヤによるセレンテラジンの生合成
- 13) 和田 梨奈：タイヤ粒子の慢性曝露がコイの成長と血液性状に及ぼす影響

修士論文

- 1) 水原 奈々：ゼブラフィッシュ胚を用いた抗精神病剤ハロペリドールと抗ヒスタミン剤クロルフェニラミン曝露による発生・中枢神経毒性および生物濃縮性の評価
- 2) Cruz Maria Angeline Isabelle Judan：Assessment of the effect of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD) on the transcriptome of finless porpoise (*Neophocaena asiaeorientalis*)
- 3) Islem Boukara：Study on the toxicity of chlorinated paraffins (CPs) with human induced pluripotent stem cells (iPSCs), and induction of their differentiated hepatocyte-like cells (HLCs)
- 4) 篠田 隼：ヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いた有機リン系難燃剤および有機フッ素化合物の発生心毒性・心毒性評価
- 5) 千種 佳織：有機リン系難燃剤リン酸トリス (2-クロロ-1-メチルエチル) 曝露によるニワトリ初期胚発生毒性の評価と分子作用機序の解明
- 6) 熊川 貴仁：環境化学物質によるイヌ・ネコのエストロゲン受容体 α 活性化能の評価と活性予測モデルの構築
- 7) 藤田龍之助：トランスクリプトミクスによる *Aeromonas salmonicida* 感染時のコイの生体応答解析

生態・保健科学部門

卒業論文

- 1) 恵美 羽奏：海洋でのプラスチックの挙動に生物付着が与える効果と環境要因
- 2) 庄野 裕人：魚類寄生微生物スクーチカ繊毛虫の海水中での生残性および微生物群集との関係

7.2 講義・集中講義

環境動態解析部門

講義

郭 新宇

- 1) 令和5年度前期, 沿岸海洋学研究, 理学部
- 2) 令和5年度前期, 海洋物理学Ⅱ, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 沿岸海洋学, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 5) 令和5年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 地球環境学序論, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 地球物理学実験, 理学部
- 8) 令和5年度前期, 大気海洋科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 令和5年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 令和5年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和5年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和5年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和5年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和5年度後期, 地球進化学特論Ⅷ, 大学院理工学研究科博士後期課程

森本 昭彦

- 1) 令和5年度前期, 沿岸海洋学研究, 理学部
- 2) 令和5年度後期, 沿岸海洋学, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 海洋物理学Ⅰ, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 地学課題演習, 理学部
- 5) 令和5年度後期, 課題挑戦キックオフセミナー, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部

- 7) 令和5年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 令和5年度後期, 地球環境学序論, 理学部
- 9) 令和5年度後期, 地球物理学実験, 理学部
- 10) 令和5年度後期, 海洋力学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和5年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和5年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和5年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和5年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 令和5年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程

加 三千宣

- 1) 令和5年度前期, 地学Ⅰ, 理学部
- 2) 令和5年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 地球環境学序論, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 5) 令和5年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 理学部
- 7) 令和5年度前期, 海洋学概論, 理学部
- 8) 令和5年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 令和5年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 令和5年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和5年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和5年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程

吉江 直樹

- 1) 令和5年度前期, 海洋学概論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 2) 令和5年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 環境建設プロジェクト実習Ⅲ, 工学部
- 4) 令和5年度後期, 地球生態学, 工学部
- 5) 令和5年度後期, 地球化学, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅣ, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 令和5年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ～Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 令和5年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, Ⅲ, Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和5年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ～Ⅳ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度前期, 地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅰ～Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和5年度前期, 地域社会プロジェクト実習Ⅰ～Ⅱ, 工学部

化学汚染・毒性解析部門

講義

岩田 久人

- 1) 令和5年度前期, 環境毒性学, 理学部・農学部・社会共創学部
- 2) 令和5年度前期, 生物化学基礎Ⅰ, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅡ, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部

7. 教育活動

- 5) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅢ, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 生物学展望Ⅰ, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 8) 令和5年度前・後期, 生物学特別演習Ⅰ-Ⅳ, 理学部
- 9) 令和5年度前・後期, 卒業研究Ⅰ-Ⅱ, 理学部
- 10) 令和5年度後期, 環境分子毒性学, 大学院理工学研究科
- 11) 令和5年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 12) 令和5年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 13) 令和5年度後期, 課題挑戦 KO セミナー, 理学部
- 14) 令和5年度通年, 分子毒性学, 医学系研究科
- 15) 令和5年度前・後期, 生物学ゼミナールⅠ-Ⅳ, 大学院理工学研究科
- 16) 令和5年度前・後期, 生物学課題実験Ⅰ-Ⅳ, 大学院理工学研究科
- 17) 令和5年度後期, 環境生物学特論, 大学院理工学研究科

国末 達也

- 1) 令和5年度前期, 特別演習Ⅰ, 理学部
- 2) 令和5年度前期, 特別演習Ⅱ, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 特別研究Ⅰ, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 特別研究Ⅱ, 理学部
- 5) 令和5年度後期, 環境化学, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 生態環境分析学, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 課題挑戦 KO セミナー, 理学部
- 8) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部
- 9) 令和5年度前期, 環境科学セミナーⅡ, 理学部
- 10) 令和5年度後期, 環境科学セミナーⅢ, 理学部
- 11) 令和5年度前期, 環境化学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度前期, 科学・技術英語, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和5年度前期, 高等セミナー A, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和5年度後期, 高等セミナー B, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和5年度集中, 修士特別研究Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程

野見山 桂

- 1) 令和5年度前期, 特別演習Ⅰ, 理学部
- 2) 令和5年度前期, 特別演習Ⅱ, 理学部
- 3) 令和5年度後期, 特別研究Ⅰ, 理学部
- 4) 令和5年度後期, 特別研究Ⅱ, 理学部
- 5) 令和5年度後期, 化学実験法, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 化学Ⅰ, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 機器分析Ⅱ, 理学部
- 8) 令和5年度前期, 科学研究倫理, 理学部
- 9) 令和5年度前期, 化学実験Ⅱ, 理学部
- 10) 令和5年度後期, 化学実験Ⅴ, 理学部
- 11) 令和5年度前・後期, 基礎化学実験, 理学部
- 12) 令和5年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部
- 13) 令和5年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部
- 14) 令和5年度前期, 化学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科
- 15) 令和5年度後期, 化学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科
- 16) 令和5年度前期, 化学ゼミナールⅢ, 大学院理工学研究科
- 17) 令和5年度後期, 化学ゼミナールⅣ, 大学院理工学研究科

- 18) 令和5年度後期, 有害物質動態論, 大学院理工学研究科
- 19) 令和5年度前期, 分子科学課題演習 I, 大学院理工学研究科
- 20) 令和5年度後期, 分子科学課題演習 II, 大学院理工学研究

田上 瑠美

- 1) 令和5年度前期, 基礎化学実験, 理学部
- 2) 令和5年度後期, 基礎化学実験, 理学部
- 3) 令和5年度前・後期, 化学実験II, III, IV, V, 理学部
- 4) 令和5年度前期, 特別演習 I, 理学部
- 5) 令和5年度前期, 特別研究 I, 理学部
- 6) 令和5年度後期, 特別演習 II, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 特別研究 II, 理学部

仲山 慶

- 1) 令和5年度前期, 基礎生物学演習, 理学部
- 2) 令和5年度前期, 基礎生物学実験, 理学部
- 3) 令和5年度前期, 生物学ゼミナール I, 理学部
- 4) 令和5年度前期, 生物学展望 II
- 5) 令和5年度前期, 特別演習 I, 理学部
- 6) 令和5年度前期, 特別研究 I, 理学部
- 7) 令和5年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 8) 令和5年度後期, 生物学特別講義, 理学部
- 9) 令和5年度前後期, 生物学特別演習 I~IV, 理学部
- 10) 令和5年度前後期, 卒業研究 I, II, 理学部
- 11) 令和5年度前後期, 生物学ゼミナール I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和5年度前後期, 生物学課題実験 I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 令和5年度前期, 工学入門, 工学部
- 2) 令和5年度前期, 建設倫理, 工学部
- 3) 令和5年度前期, 学部共通 PBL, 工学部
- 4) 令和5年度前期, 技術英語 I, 工学部
- 5) 令和5年度後期, 応用数学 II, 工学部
- 6) 令和5年度後期, 工学コミュニケーション, 大学院理工学研究科
- 7) 令和5年度後期, 流域環境工学, 大学院理工学研究科
- 8) 令和5年度前期, 生物多様性と人間活動, 大学院理工学研究科
- 9) 令和5年度前後期, 水圏環境工学特論 VII, 大学院理工学研究科

大林由美子

- 1) 令和5年度前期, 環境基礎数学, 農学部
- 2) 令和5年度前期, 海洋環境学, 農学部
- 3) 令和5年度前期, 環境保全学実験 III, 農学部
- 4) 令和5年度前期, 生物学実験, 農学部
- 5) 令和5年度後期, 環境保全学概論, 農学部
- 6) 令和5年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 7) 令和5年度通年, 環境保全セミナー, 農学部
- 8) 令和5年度前期, 環境保全学特論, 大学院農学研究科

7. 教育活動

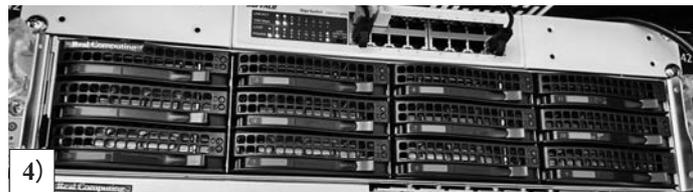
- 9) 令和5年度後期, 海洋生物地球科学, 大学院農学研究科
- 10) 令和5年度通年, 環境保全学特別演習 I, 大学院農学研究科
- 11) 令和5年度通年, 環境保全学特別演習 II, 大学院農学研究科
- 12) 令和5年度通年, 環境保全学特別実験 I, 大学院農学研究科
- 13) 令和5年度通年, 環境保全学特別実験 II, 大学院農学研究科

8. 設 備

(令和5年度導入)

環境動態解析部門

- 1) 電子計算機システム：数値モデル実験
- 2) アルミベース AL-200型（ハイフロートモデル・リカバリーライン付）：係留観測用
- 3) コンパクトリカバブル設置係留装置 750m耐圧，浮力36kg C-ROM：流速計の海底係留
- 4) RC Xanadu Storage FS12 Intel Xeon Silver4309Y：数値モデル実験結果の保存
- 5) Applied ワークステーション WST-EP7763M3Q1TTNVM：数値モデル結果解析用
- 6) 多波長励起蛍光光度計 Multi-Exciter MFL50W-USB JFE アドバンテック：植物プランクトンの群集組成を測定するために利用
- 7) Applied ワークステーション WST-EP7763M3Q1TTNVM：数値モデル結果解析用



8. 設 備

化学汚染・毒性解析部門

- 1) オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-X800：培養細胞の蛍光イメージング解析
- 2) 多目的冷却遠心機 CAX-571：試料の遠心分離



共 通

- 1) ライフラフト（膨張式救命いかだ） プラスチモ コンテナタイプ 8人用：調査船で重大な故障や事故が生じた際、避難するために使用



9. 広 報

(令和5年度)

9.1 CMES ニュース

CMES ニュース No.48

目 次

研究課題紹介

化学汚染・毒性解析部門	教 授 国末 達也
環境動態解析部門	教 授 森本 昭彦
化学汚染・毒性解析部門	助 教 田上 瑠美
解説「人新世の始まりを刻んだ別府湾海底堆積物」	
環境動態解析部門	准教授 加 三千宣

受賞紹介

理工学研究科 博士後期課程1年	Dave Arthur R.Robledo
-----------------	-----------------------

編集後記

LaMer ニュース No.15

目 次

拠点長 新年度挨拶

化学汚染・毒性解析部門	教 授 岩田 久人
シンポジウム開催報告	
化学汚染・毒性解析部門	教 授 野見山 桂
化学汚染・毒性解析部門	兼任准教授 水川 葉月
北海道大学 獣医学研究院 附属動物病院	
	教 授 池中 良徳

De La Salle University, Philippines Dr.Divina Amalin

若手の国際学会参加報告

理工学研究科 博士前期課程2年	熊川 貴久
-----------------	-------

2023年度共同利用・共同研究 採択課題

化学汚染・毒性解析部門	教 授 岩田 久人
-------------	-----------

編集後記

CMES ニュース No.49

目 次

ワークショップ開催報告

国際・社会連携室	特定准教授 鈴木 康嗣
----------	-------------

研究課題紹介

環境動態解析部門	教 授 郭 新宇	
生態・保健科学部門	日本学術振興会外国人特別研究員	Anwar Hossain
化学汚染・毒性解析部門	日本学術振興会外国人特別研究員	Asela Marisol Buenfil Rojas

受賞紹介

化学汚染・毒性解析部門	兼任准教授 石橋 弘志
-------------	-------------

編集後記

LaMer ニュース No.16

目 次

研究集会開催報告

環境動態解析部門	教 授	森本 昭彦
化学汚染・毒性解析部門	教 授	野見山 桂
化学汚染・毒性解析部門	兼任准教授	水川 葉月

受賞紹介

理工学研究科 博士後期課程 2年	須之内朋哉
理工学研究科 博士後期課程 2年	Dave Arthur Robledo
理工学研究科 博士前期課程 2年	水原 奈々
理工学研究科 博士前期課程 2年	熊川 貴久
理工学研究科 博士前期課程 2年	千種 佳織
理工学研究科 博士前期課程 2年	中島 舞
理工学研究科 博士前期課程 1年	甲斐 奏

若手の国際学会参加報告

理工学研究科 博士後期課程 2年	須之内朋哉
------------------	-------

編集後記

9. 2 報道関係

環境動態解析部門

吉江 直樹

- 1) 令和5年11月8日, 「里海を目指して愛媛・瀬戸内法施行50年⑥海水温上昇 水産や食文化 変化の波」, 愛媛新聞

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 令和5年10月20日, Endocrine disruption in seals by environmental contaminants, EurekaAlert!, <https://www.eurekaalert.org/news-releases/1005378>
- 2) 令和5年10月20日, Organohalogen contamination impact on the health of Baltic Atlantic salmon, EurekaAlert!, <https://www.eurekaalert.org/news-releases/1005380>
- 3) 令和5年10月20日, Organophosphorus flame retardants induce malformations in avian embryos, EurekaAlert!, <https://www.eurekaalert.org/news-releases/1005381>
- 4) 令和5年10月20日, Endocrine disruption in seals by environmental contaminants, AlphaGalileo, <https://www.alphagalileo.org/Item-Display/ItemId/238545>
- 5) 令和5年10月20日, Organohalogen contamination impact on the health of Baltic Atlantic salmon, AlphaGalileo, <https://www.alphagalileo.org/Item-Display/ItemId/238546>
- 6) 令和5年10月20日, Organophosphorus flame retardants induce malformations in avian embryos, AlphaGalileo, <https://www.alphagalileo.org/Item-Display/ItemId/238548>
- 7) 令和5年10月20日, Endocrine disruption in seals by environmental contaminants, Asia Research News, <https://www.asiaresearchnews.com/content/endocrine-disruption-seals-environmental-contaminants>
- 8) 令和5年10月20日, Organohalogen contamination impact on the health of Baltic Atlantic salmon, Asia Research News, <https://www.asiaresearchnews.com/content/organohalogen-contamination-impact-health-baltic-atlantic-salmon>
- 9) 令和5年10月20日, Organophosphorus flame retardants induce malformations in avian embryos, Asia Research News, <https://www.asiaresearchnews.com/content/organophosphorus-flame-retardants-induce-malformations-avian-embryos>

国末 達也

- 1) 令和5年7月9日, クジラやイルカの漂着「ストランディング」研究最前線, NHK NEWS おはよう日本 日曜特集, NHK
- 2) 令和5年7月9日, なぜクジラたちは漂着する? ストランディングがひも解く海の世界, サイエンス ZERO, NHK E テレ (NHK 教育テレビジョン)
- 3) 令和6年3月18日, 環境に残り続ける有害化学物質 国際規制20年 見通せぬ汚染根絶, 毎日新聞

野見山 桂

- 1) 令和5年9月17日, 「ごみがたくさんあって驚いた」愛媛県労士会の有志ら海岸清掃活動, あいテレビ, <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/itv/727747?display=1>
- 2) 令和5年9月17日, 「愛媛県労士会が松山で海岸清掃【愛媛】」, 愛媛朝日テレビ,
- 3) 令和5年8月, 「Fireflies Glowing Faintly in Nighttime Satoyama Scenes」, 内閣府政府広報オンライン「Highlighting JAPAN」, https://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/202307/202307_06_en.html?fbclid=IwAR1LgRLLTCapGFU8wKYQXs2GoBo7mF-4CjtvdhxCzJpKi01JZztuklGsA4
- 4) 令和5年5月30日, 「ペットの血液に有機フッ素化合物 室内汚染が原因か」, 一般社団法人共同通信社, <https://nordot.app/1036189726113137097>
- 5) 令和5年5月30日, 「ペットの血液に有機フッ素化合物 室内汚染が原因か」, 静岡新聞, 愛媛新聞, 琉球新報, 他地方紙多数
- 6) 令和5年8月25日, 「Bio Diversity Lab Guide in EHIME ～愛媛で生物多様性が学べる大学・研究室紹介ガイド～」, 愛媛県, <https://www.pref.ehime.jp/page/17975.html>

9.3 講座, 講演会等

環境動態解析部門

森本 昭彦

- 1) 瀬戸内海の栄養塩循環, 令和5年度えひめ環境大学, 松山市, 7月

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 化学物質と環境, 令和5年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」, 松山市, 1月

国末 達也

- 1) 内分泌かく乱化学物質, 高大連携授業「愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール環境教育学」, 松山市, 9月

野見山 桂

- 1) 「海ごみゼロウィーク 愛媛県社会保険労務士会55周年記念 基調講演」主催・愛媛県社会保険労務士会, 松山市, 日本財団, 9月17日
- 2) 中予コミュニティ・カレッジ「環境講座」野生生物を取り囲む窮屈な環境～化学物質汚染・プラスチック問題を考える～, 愛媛県生涯学習センター, 松山市, 2月20日
- 3) 「食品に含まれる様々な化学物質の理解について」コープえひめ ぐらしの大学, 3月12日

生態・保健科学部門

大林由美子

- 1) 女子中高生夏の学校 ～科学・技術・人との出会い2023, 国立女性教育会館, 8月
- 2) 第29回 海のサイエンスカフェ「小さなプランクトンたちの助け合い? 共生する海の生き物たちの不思議な世界と環境変動」, 企画・実施・進行, 日本海洋学会教育問題研究会主催, 京都市, 9月
- 3) サイエンスアゴラ2023, ブース企画「私たちの生活と母なる海－海の未来が気になる－」, 東京, 11月
- 4) 自然観察会「みてみよう! いきものミクロ☆たんけん隊」, 茨城県自然博物館, 12月

10. 調査実習船「いさな」運航状況

(令和5年度)

船長：大西秀次郎

日 付	運航海域	目 的
令和5年4月11日	伊 予 市 沖	ドローン観測テスト
令和5年4月27日	伊 予 市 沖	いさな視察
令和5年5月1日～3日	豊 後 水 道	宇和海での超音波多層流速計の係留と潮汐フロントの観測
令和5年5月9日～11日	豊 後 水 道	宇和海の潮汐フロント観測
令和5年5月15日～16日	豊 後 水 道	宇和海の潮汐フロント観測
令和5年5月23日	伊 予 灘	農学部学生実験における実習
令和5年5月24日	伊 予 灘	海水・海底泥採取
令和5年5月24日～25日	豊 後 水 道	宇和海での超音波多層流速計回収
令和5年6月4日	伊 予 灘	海底泥採取
令和5年6月13日～14日	伊予灘, 広島湾, 安芸灘	海水・海底泥採取
令和5年6月20日	伊 予 市 沖	いさな視察・研修
令和5年7月25日～31日	伊予灘, 宇和海, 豊後水道	宇和海急潮観測
令和5年8月12日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年8月29日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年9月2日	豊 後 水 道	海底泥採取
令和5年8月29日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年9月12日	伊 予 灘	プランクトン採取
令和5年10月3日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年10月17日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年10月24日	伊 予 灘	海底泥・海面ゴミ採取
令和5年11月1日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年12月2日	広 島 湾	サンプリング
令和5年12月4日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和5年12月10日	伊 予 市 沖	ドローンによる海面高度測定と CTD 観測の実験
令和6年1月17日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和6年2月17日	伊 予 灘	プランクトン採集
令和6年3月22日	伊 予 灘	プランクトン採集

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者）

(令和5年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
森脇 亮	理工学研究科生産環境工学専攻	教授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門
堀 利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	化学物質が発生期の神経系に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
鑑迫 典久	農学研究科生物環境学専攻	教授	工場排水の生物応答を用いた管理手法の開発及び・周辺環境に及ぼす毒性影響評価等	化学汚染・毒性解析部門
座古 保	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	ナノ粒子や生体分子を利用した、新規バイオ分析法の開発	化学汚染・毒性解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態・保健科学部門
畑 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	沿岸魚類群集の解析	生態・保健科学部門

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則(14章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(令和5年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
高橋 暁	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	主任 研究員	瀬戸内海をはじめとする沿岸海域の環 境問題第に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	沿岸域の海面高度・流速のリモートセン シング漂流ブイ・ドローンなどを用 いた広域現場観測	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学農学部生物資源 学科	准教授	貧酸素水塊の形成・変動過程等、沿岸 海域における海洋環境の変動機構に関 する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	教 授	緑辺海および内湾の物理環境に関する 研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学教育研究部 自然科学系理工学部門	教 授	瀬戸内海をはじめとした沿岸域の地質 学的研究	環境動態解析部門
山口 一岩	香川大学農学部 応用生物科学科	准教授	沿岸海域における生物活動を介在する 親生物元素の循環ならびにエネルギー 流の解析	環境動態解析部門
磯辺 篤彦	九州大学応用力学研究所 附属大気海洋環境研究セ ンター	教 授	沿岸海域における大気海洋相互作用と 海洋循環	環境動態解析部門
槻木 玲美	松山大学法学部	教 授	琵琶湖や瀬戸内海等を対象に、湖底・ 海底の堆積物に残る色素や動物・植物 プランクトンの遺骸、遺伝子情報を用 いて微生物相とこれら生物間相互作用 の長期変化を明らかにする古環境解析	環境動態解析部門
柴田 康行	東京理科大学 環境安全センター	副セン ター長	残留性有機汚染物質等の分析法開発並 びに環境動態の解明等	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院 医学研究院環境生命医学	教 授	生活習慣病や心の病、環境がもたらす 健康影響などを事前に予防する「予防 医学」の研究・普及を図っている	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	横浜市立大学	特任教授	発生途上の動物(マウス, ワニ, カエ ル, サカナ)へのエストロゲンの影響 等	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院 農学研究院	教 授	化学物質が水生生物の生理・生殖・行 動に及ぼす影響	化学汚染・毒性解析部門
有蘭 幸司	熊本大学大学院 生命科学研究部(薬)	特任教授	環境汚染物質の生態影響に関する研究 等	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学 農学研究院	教 授	生態系における微量元素の動態解析と 影響評価等	化学汚染・毒性解析部門

12. 客員研究員名簿

山田 格	国立科学博物館	名 誉 研究員	海棲哺乳類学	化学汚染・毒性解析部門
板井 啓明	東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻	准教授	北西太平洋各地の生物試料中水銀安定同位体比を計測し、同位体の三次元分布を元に水銀広域動態を解析する。	化学汚染・毒性解析部門
鈴木 剛	国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域	主 幹 研究員	資源循環研究プログラムにおいて、工業製品廃棄物の健全な資源循環・廃棄処理に資する製品由来化学物質の安全性評価に関する研究等	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県環境センター	館 長	水環境中有害化学物質の動態、中微量化学物質の動態、外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生態系影響、水の高度処理、干潟における多環芳香族炭化水素の光化学反応、医薬品の環境動態、有機性廃棄物の再利用	化学汚染・毒性解析部門
磯部 友彦	国立研究開発法人 国立環境研究所 環境リスク・健康領域	主 幹 研究員	主に生体試料を対象とした新規環境汚染物質の分析法開発に関する共同研究	化学汚染・毒性解析部門
飯田 緑	九州工業大学大学院 情報工学研究院	准教授	抗生物質曝露による魚類への影響解析	化学汚染・毒性解析部門
野中 里佐	尚絅大学生活科学部	准教授	薬剤耐性菌とその出現・拡大のメカニズムに関する研究	生態・保健科学部門
広瀬 裕一	琉球大学理学部 海洋自然学科生物系	教 授	ホヤの生物学および形態学	生態・保健科学部門
柳田 哲矢	山口大学共同獣医学部	准教授	寄生虫の集団遺伝学的解析	生態・保健科学部門
白井 優	酪農学園大学獣医学部	准教授	環境の薬剤耐性菌の衛生学的研究	生態・保健科学部門
丸山 史人	広島大学 IDEC 国際連携機構	教 授	環境ゲノミクスの研究	生態・保健科学部門

13. 運営委員会

(令和5年度)

委員長	郭 新 宇	沿岸環境科学研究センター	センター長・教授
委員	森 本 昭 彦	沿岸環境科学研究センター	副センター長・教授
委員	笹 田 朋 孝	法文学部	准教授
委員	中 村 依 子	教育学部	准教授
委員	井 上 幹 生	理工学研究科 (理学系)	教授
委員	藤 澤 康 弘	医学系研究科	教授
委員	日 向 博 文	理工学研究科 (工学系)	教授
委員	竹 内 一 郎	農学研究科	教授
委員	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	准教授
委員	佐 野 護	研究支援部長	部長
委員	渡 辺 幸 三	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	岩 田 久 人	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	国 末 達 也	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	北 村 真 一	沿岸環境科学研究センター	准教授
委員	加 三 千 宣	沿岸環境科学研究センター	准教授
委員	野見山 桂	沿岸環境科学研究センター	准教授
委員	田 上 瑠 美	沿岸環境科学研究センター	准教授

14. センター規則および運営委員会規程 ●●●●●●●●●●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条の2第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態・保健科学部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 特定職員である教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 センターに、前項のほか、副センター長を置くことができる。

(先端研究院会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究院先端研究院会議（以下「先端研究院会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者及び副センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授及び特定職員である教授のうちから先端研究院会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長及び副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究院会議が推薦し、国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て、学長が選考する。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、兼任教員の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(職務)

第10条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 センター長が不在又は事故があるときは、副センター長、専任教員又は特定職員である教員のうち、センター長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

4 専任教員及び特定職員である教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

5 兼任教員は、専任教員とともにセンターの業務を遂行する。

6 センター職員は、センターの業務に従事する。

(客員教授等)

第11条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(研究員)

第12条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第13条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程又は愛媛大学外国人客員研究員規程の定めるところによる。

(利用)

第14条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(国際・社会連携室)

第15条 センターに、愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室（以下「国際・社会連携室」という。）を置く。

2 国際・社会連携室に関し必要な事項は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第16条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第17条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第18条 センターに関する事務は、研究・産学連携支援部研究・産学連携課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

14. センター規則および運営委員会規程

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年5月30日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長（副センター長を置く場合に限る。）
 - (3) センターの講師以上の専任教員
 - (4) 各学部の専任教員 各1人
 - (5) 研究・産学連携支援部長
 - (6) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第4号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
- 3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究・産学連携支援部研究・産学連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行後、第3条第2項の規定により最初に任命される社会共創学部の同条第1項第4号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室内規

（令和3年4月1日
制 定）

（趣旨）

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第15条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室（以下「連携室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 連携室は、センターが行う国際共同研究や国際交流などの国際連携活動及び社会連携活動の推進に寄与することを目的とする。

（業務）

第3条 連携室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教職員、研究者、学生の国際交流に関すること。
- (2) 国際共同研究に関すること。
- (3) 寄附講座等の社会連携活動に関すること。
- (4) その他国際連携活動や社会連携活動に関すること。

（組織）

第4条 連携室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員

（室長）

第5条 室長は、センターの専任教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 室長はセンター長の指示に従い、連携室の業務を掌理する。

（室員）

第6条 室員は、センター運営委員会が推薦し、室長が任命する。

2 室員は、連携室の業務に従事する。

（雑則）

第7条 この内規に定めるもののほか、連携室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

- 2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

- 2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究・産学連携支援部研究・産学連携課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和6年5月28日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
調査実習船「いさな」安全管理規程

平成28年 4月 1日

目 次

第1章 総 則

第2章 安全統括管理者の責務

第3章 安全統括管理者，運航管理者等の選解任

第4章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

第5章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

第6章 運航の可否判断

第7章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

第8章 運航施設の点検整備

第9章 海難その他の事故の処理

第10章 安全に関する教育，訓練等

第11章 雑 則

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)が調査実習船の運航に当たって、安全最優先意識の徹底を図るとともに、調査実習船の業務を安全、適正かつ円滑に処理するための業務の実施の基準を明確にし、運航の安全を確保することを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 安全マネジメント体制：安全統括管理者により、センターで行われる安全管理が、あるべき手順及び方法に沿って確立され、実施され、維持される状態
- (2) 安全統括管理者：運航の安全を確保するための管理業務を統括管理する者
- (3) 運航管理者：船長の職務権限に属する事項以外の船舶の運航の管理に関する統轄責任者
- (4) 運航管理補助者：運航管理者の職務を補佐し、運航管理者が職務を執行できないとき、その職務を代行する者
- (5) 陸上連絡員：船舶との連絡を行う者
- (6) 運航補助員：乗員の代表者(学生を除く。)
- (7) 運航計画：起終点、寄港地、航行経路、航海速力、運航回数、発着時刻、運航の時季等に関する計画
- (8) 発航：現在の停泊場所を解らんして次の目的港への航海を開始すること。
- (9) 基準航行：基準経路を基準速力により航行すること。
- (10) 入港：港の区域内、港湾区域内等において、狭水路、関門等を通航して防波堤等の内部へ進航すること。
- (11) 運航：「発航」、「基準経路及び基準速力による航行の継続」又は「着棧」を行うこと。
- (12) 反転：目的港への航行の継続を中止し、発航港へ引返すこと。
- (13) 運航基準図：航行経路(起終点、寄港地、針路、変針点等)、標準運航時間、航海速力、船長が直接操船する区間、その他航行の安全を確保するために必要な事項を記載した図面

第2章 安全統括管理者の責務

(安全統括管理者の主体的関与)

第3条 船舶による運航の安全確保のため、安全統括管理者は次に掲げる事項について主体的に関与し、全体の安全マネジメント体制を適切に運営する。

- (1) 関係法令及び学内規程の遵守と安全最優先の原則の徹底
- (2) 重大な事故等に対する確実な対応
- (3) 安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、かつ、運航の安全を確保するために必要な要員、情報、運航施設等を確実に使用できるようにすること。
- (4) 安全マネジメント体制の見直し

第3章 安全統括管理者、運航管理者等の選解任

(安全統括管理者の選任)

第4条 センター長は、安全統括管理者を選任又は自ら兼任する。

(運航管理者の選任)

第5条 安全統括管理者は、センターの教職員の中から運航管理者を選任する。

(安全統括管理者及び運航管理者の解任)

第6条 安全統括管理者は、安全統括管理者又は運航管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該安全統括管理者又は運航管理者を解任する(自ら兼務している場合は兼務を解く。)ものとする。

- (1) 身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引続き行うことが困難になったとき。
- (2) 安全管理規程に違反することにより、その職務を引続き行うことが運航の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(運航管理補助者及び陸上連絡員の選任及び解任)

第7条 安全統括管理者は、運航管理補助者及び陸上連絡員を選任及び解任する。

第4章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

(安全統括管理者等の勤務体制)

第8条 安全統括管理者、運航管理者及び運航管理補助者は、船舶を運航中は常時連絡できる体制になければならない。

(安全統括管理者の職務及び権限)

第9条 安全統括管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 安全マネジメント体制に必要な手順及び方法を確立し、実施し、維持すること。
- (2) 情報伝達及びコミュニケーションの確保、事故等に関する報告、是正措置及び予防措置の実施状況等、安全マネジメント体制の実施状況及び改善の必要性の有無を記録すること。
- (3) 関係法令の遵守と安全最優先の原則を徹底するとともに、安全管理規程の遵守を確実にすること。

(運航管理者の職務及び権限)

第10条 運航管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 船長の職務権限に属する事項を除き、船舶の運航の管理及び運航の安全に関する業務全般を統轄し、安全管理規程の遵守を確実にしてその実施を図ること。
 - (2) 船舶の運航に関し、(船長と協力して)運航の安全を図ること。
 - (3) 運航管理補助者を指揮監督すること。
- 2 運航管理者の職務及び権限は、法令に定める船長の職務及び権限を侵し、又はその責任を軽減するものではない。

(運航管理補助者の職務)

第11条 運航管理補助者は、運航管理者を補佐するほか、運航管理者がその職務を執行できないときは、その職務を代行するものとする。

第5章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

(使用許可)

第12条 船舶の使用を希望する者は、あらかじめセンター長に調査実習船使用願を提出し、使用許可を受けなければならない。

- 2 乗船者に学外者が含まれる場合は、前項の使用願とともに、当該者に係る誓約書を提出しなければならない。
- 3 センター長は、船舶の使用を許可したときは、遅滞なく運航管理者及び船長に通知するものとする。

(運航計画の作成及び変更)

第13条 船長は運航にあたって事前に運航計画書を運航管理者に提出しなければならない。

- 2 運航計画を作成又は変更する場合は、運航管理者は使用船舶の性能、使用棧橋付近の状況、航路の交通状況及び自然的性質等についてその安全性を検討するものとする。
- 3 船舶、陸上施設又は港の状況が船舶の運航に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合は、運航管理者は、運航休止、寄港地変更等の措置をとらなければならない。

(運航管理者の措置)

第14条 運航管理者は、前条第1項に定める運航計画書の提出があった場合は、遅滞なく安全統括管理者に報告するものとする。

- 2 運航管理者は、気象・海象に関する情報、港内事情、陸上施設の状況、水路通報、港長公示等官公庁の発する運航に関する情報、乗船した乗員数、船舶の動静、その他航行の安全の確保のために必要な事項を把握するものとする。

(船長の措置)

第15条 船長は、次に掲げる場合には必ず陸上連絡員に連絡しなければならない。

- (1) 発航前点検を終え出港するとき。
 - (2) 現場海域での調査・実習が終了したとき。
 - (3) 着棧したとき。
 - (4) 非常連絡事項(別表)に定める事故が発生したとき。
 - (5) 航行の安全に係わりを有する船体、機関、設備等の修理又は整備を必要とする事態が生じたとき。
- 2 船長は、次に掲げる事項の把握に努めるものとする。

- (1) 気象・海象に関する情報
- (2) 航行中の水路の状況

(連絡方法)

第16条 船長と陸上連絡員との連絡は、携帯電話等によるものとする。

(運航基準図等)

第17条 運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

- (1) 起点、終点及び寄港地の位置並びにこれら相互間の距離
- (2) 航行経路（針路、変針点、基準経路等）
- (3) 標準運航時間（起点、終点及び寄港地並びに主要地点通過時間）
- (4) 通航船舶、漁船等により、通常、船舶がふくそうする海域
- (5) 航行経路付近に存在する浅瀬、岩礁等航行の障害となるものの位置
- (6) その他航行の安全を確保するために必要な事項

2 船長は、基準経路、避険線その他必要と認める事項を海図に記入するものとする。

(速力基準等)

第18条 速力基準は、次のとおりとする。

速力区分	速力	毎分機関回転数
最 微 速	2ノット	600rpm（スロークラッチ使用）
微 速	5ノット	600rpm
半 速	15ノット	1800rpm
航海速力	21ノット	2400rpm

2 船長は、速力基準表を船橋内の操作する位置から見易い場所に掲示しなければならない。

(特定航法)

第19条 伊予市森港の航法は、次のとおりとする。

船舶は、入港しようとするときは森港栽培漁業研究所取水口灯浮標を右に見て水路に入り、水路の右側を航行しなければならない。

第6章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第20条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上
- (4) 視程 1,000m 以下

2 船長は、発航前において、航行中に遭遇する気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上

3 船長は、前2項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、乗員の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(航行の可否判断)

第21条 船長は、周囲の気象・海象（視程を含む。）に関する情報を確認し、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるとき又は周囲の視程が1,000m以下となったときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、反転等の適切な措置をとらなければならない。

2 船長は、日の出前及び日没後の航行を避けるよう、運航計画を作成するとともに、万が一運航中遭遇が予想される場合は、運航計画の変更を速やかに行い、避港等の措置を実施する。

(着栈の可否判断)

第22条 船長は、着栈予定地の気象・海象に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達していると認めるとき

は、着棧を中止し、適宜の海域での待機、臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上
- (4) 視程 1,000m 以下

(運航の可否判断等の連絡及び記録)

第23条 船長は、運航中止の措置をとったときは、その旨を陸上連絡員に連絡しなければならない。

- 2 船長は、基準航行の変更、運航の可否判断、運航中止の措置を運航日誌に記録するものとする。運航中止基準の達した、又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については、判断理由を記載すること。記録は適時まとめて記載してもよい。

(陸上連絡員の援助措置)

第24条 陸上連絡員は、船長から臨時寄港する旨の連絡を受けたときは、当該寄港地における使用棧橋の手配等適切な援助を行うものとする。

第7章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

(作業体制)

第25条 船長は、乗員の中から運航補助員（学生を除く。）を任命する。

- 2 船長は運航補助員及び乗員を指揮して、乗下船する乗員の誘導、離着棧時における諸作業を実施する。
- 3 船長は、乗員に対し、乗船前又は乗船後出港前に、安全に関する説明を行う。

(乗船作業)

第26条 着棧後、運航補助員は船長の指示を確認し、乗員に乗船の開始を指示する。

- 2 運航補助員は乗船乗員数を把握し、乗員定員を超えていないことを確認して船長に報告する。

(離棧作業)

第27条 運航補助員は、乗員の乗船が完了したときはその旨船長に報告し、船長の指示により迅速に離棧作業を行う。

(着棧作業)

第28条 運航補助員は、船長の指示により迅速、確実に係留作業を実施する。

- 2 運航補助員は、着棧時の衝撃による乗員の転倒事故を防止するため、乗員へ着席や手すりへの掴まりを指示する。
- 3 運航補助員は、着棧時、乗員が船体着棧側に身を乗り出さないよう注意する。

(係留中の保安)

第29条 船長及び運航補助員は、係留中、乗員の安全に支障のないよう係留方法に十分留意する。

(下船作業)

第30条 船長は、船体が完全に着棧したことを確認したときは、その旨乗員に合図する。

- 2 運航補助員は、着棧完了合図を確認した後、乗員に下船を指示し、下船完了後、船長に報告する。

(発航前点検)

第31条 船長は、発航前に船舶が航海に支障ないかどうか、その他航海に必要な準備が整っているかどうか等を点検しなければならない。

(船内点検)

第32条 船長は、航海中、船内の状況に留意し、直接状況を見られない場所その他必要と認められる場所については運航補助員及び乗員に点検させるものとする。

(機器点検)

第33条 船長は着棧前、棧橋手前（防波堤手前）300m 等着棧地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進、舵等の点検を実施する。一日に何度も離着棧を繰り返す場合もその都度実施する。

(乗船待ち及び調査・実習中の乗員に対する遵守事項等の周知)

第34条 船長は、乗員に対して乗船前又は乗船後出港前において、次の事項を周知しなければならない。

- (1) 乗員は乗下船時又は船内においては、船長及び運航補助員の誘導に従うこと。
- (2) 乗員は船内においては、乗船中の者に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。
- (3) その他乗員の調査・実習中の安全に関して調査実習船「いさな」使用者の安全心得（別紙）を守ること。

(船内における遵守事項等の掲示)

第35条 船長は、船内の乗員が見やすい場所に次の事項を掲示しなければならない。

- (1) 乗員の禁止事項
- (2) 救命胴衣の格納場所及び着用方法
- (3) 非常の際の避難要領（非常信号、避難経路等）
- (4) 病気、盗難等が発生した場合の乗員への通報
- (5) 下船及び非常の際には船長及び運航補助員の指示に従うこと。

(乗員に対する救命胴衣及び安全具の着用に関する指示)

第36条 船長は、救命胴衣及び安全具の着用に関し、乗員に対し次の措置を講じなければならない。

- (1) 乗員には、常時救命胴衣を着用させるよう徹底させること。
- (2) 甲板作業中は、ヘルメット及び手袋の着用を徹底させること。
- (3) 特に必要があるときは、防護具が入った安全靴の着用を指示すること。

(飲酒等の禁止)

第37条 船長及び乗員は、呼気1リットル中のアルコール濃度が0.15mg以上であると判断される場合は、船舶の運航及び調査・実習等の作業を行ってはならない。

第8章 運航施設の点検整備

(船舶検査結果の確認)

第38条 運航管理者は、船舶が法令に定める船舶検査を受検したときは、当該検査の結果を確認しておくこと。

(船舶の点検整備)

第39条 船長は、船体、機関、諸設備、諸装置等について、点検簿を作成し、それに従って、原則として運航前に1回以上点検を実施するものとする。ただし、当日、発航前点検を実施した事項については点検を省略することができる。

2 船長は、前項の点検中、異常を発見したときは、修復整備の措置を講じなければならない。

(陸上施設の点検整備)

第40条 船長は、陸上施設チェック表に基づいて、運航前に1回以上、係留施設（岸壁、ビット、防舷材）、乗降用施設について点検し、異常のある個所を発見したときは、直ちに修復整備の措置を講じなければならない。

第9章 海難その他の事故の処理

(事故処理にあたっての基本的態度)

第41条 事故の処理にあたっては、次に掲げる基本的態度で臨むものとする。

- (1) 人命の安全の確保を最優先とすること。
- (2) 事態を楽観視せず常に最悪の事態を念頭におき措置を講ずること。
- (3) 事故処理業務は、すべての業務に優先して実施すること。
- (4) 陸上連絡員は、陸上でとりうるあらゆる措置を講ずること。

(事故等の範囲)

第42条 この規程において、「事故」とは本学の運航中の船舶に係る第1号から第4号までに掲げる事象をいい、「事故等」とは事故及び第5号の事態（以下「インシデント」という。）をいう。

- (1) 乗員、乗員又はその他の乗船者の死亡、行方不明、負傷若しくは疾病又はその他の人身事故（以下「人身事故」という。）
- (2) 衝突、乗揚げ、火災、浸水、漂流、行方不明、機関停止等重大な機関故障又はその他の救助を必要とする船舶の海難事故
- (3) 航路の障害、港湾施設の損傷又は荒天等による運航の阻害
- (4) 強取（乗っ取り）、殺人、傷害又は暴行・脅迫等の不法行為による運航の阻害
- (5) 前各号の事象に至るおそれの大きかった事態

(船長のとるべき措置)

第43条 船長は、自船に事故が発生したときは、人命の安全の確保のための万全の措置、事故の拡大防止のための措置、乗員の不安を除去するための措置等必要な措置を講ずるとともに、事故の状況及び講じた措置を速やかに海上保安官署及び陸上連絡員等に連絡しなければならない。この場合において措置への助言を求め、援

助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。

- 2 船長から海上保安官署等への速報は、「官公署連絡表」(別表)により、まず、「118」番に架電し、以後、海上保安官署の指示によるものとする。
- 3 船長は、自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥るおそれがある場合は、直ちに遭難通信(遭難信号)又は緊急通信を発しなければならない。
- 4 事故が発生したときに、乗員の安全、船体の保全のために船長が講ずべき必要な措置はおおむね次のとおりである。
 - (1) 海難事故の場合
 - ① 損傷状況の把握及び事故局限の可否の検討
 - ② 人身事故に対する早急な救護
 - ③ 連絡方法の確立
 - ④ 乗員への正確な情報の周知及び状況に即した適切な乗員の誘導
 - ⑤ 二次災害及び被害拡大を防止するための適切な作業の実施
 - (2) 不法事件の場合
 - ① 被害者に対する早急な救護
 - ② 不法行為者の隔離又は監視
 - ③ 連絡方法の確立
 - ④ 乗員に対する現状及び措置状況の周知と乗員の軽率な行為の禁止
 - ⑤ 不法行為が継続している場合、中止を求める不法行為者への説得

(陸上連絡員のとるべき措置)

第44条 陸上連絡員は、通常連絡、着棧連絡等、船長からの連絡が異常に遅延し連絡がない場合、遅滞なく船舶の動静把握のために必要な措置を講じなければならない。

- 2 陸上連絡員は、前項の措置を講じたにもかかわらず船舶の動静を把握できないときは、直ちに「118」番により海上保安官署に連絡するとともに、関係者に通報しなければならない。
- 3 事故の発生を知ったとき又は船舶の動静が把握できないときに陸上連絡員がとるべき必要な措置はおおむね次のとおりである。
 - (1) 事故の実態把握及び救難に必要な情報の収集
 - (2) 海上保安官署への救助要請
 - (3) 行方不明者の捜索又は本船の救助のための捜索船又は救助船等の手配
 - (4) 必要人員の派遣及び必要物資の補給等
 - (5) 船長に対する必要事項の連絡
 - (6) 医師、病院、宿舎の手配等の乗員の救護のための措置
 - (7) 乗員の氏名の確認及びその連絡先への通知
 - (8) 損害保険会社への連絡

(安全統括管理者のとるべき措置)

第45条 安全統括管理者は、事故の状況、被害規模等を把握・分析し、適切に対応措置を講じなければならない。また、現場におけるリスクを明確にし、必要な対応措置を講じなければならない。

(医療救護の連絡等)

第46条 船長及び陸上連絡員は、船内に医療救護を必要とする事態が発生したときは、最寄りの医師と連絡をとり、その指示のもとに適切な措置を講じなければならない。

(現場の保存)

第47条 船長及び陸上連絡員は、事故の処理後、関係海上保安官署等と連絡をとりつつ、事故原因の調査を行うとともに、事件捜査の対象となる場所及び物品の保存に努めなければならない。

(事故の原因等の調査)

第48条 運航管理者は、事故原因及び事故処理の適否を調査し、事故の再発防止及び事故処理の改善を図るものとする。

第10章 安全に関する教育、訓練等

(安全教育)

第49条 安全統括管理者は、乗員及び陸上連絡員に対し、安全管理規程、海上衝突予防法等の関係法令その他運航の安全を確保するために必要と認められる事項について理解しやすい具体的な安全教育を定期的実施し、その周知徹底を図らなければならない。

- 2 運航管理者は、航路の状況、海難その他の事故及びインシデント（事故等の損害を伴わない危険事象）事例を調査研究し、随時又は前項の教育に併せて乗員に周知徹底を図るものとする。

(訓練)

第50条 安全統括管理者は、事故処理に関する訓練を計画し、年1回以上これを実施しなければならない。訓練は、実践的なものとし、訓練の前後には打合せを行う。

(記録)

第51条 運航管理者は、前2条の教育及び訓練を行ったときは、その概要を記録簿に記録しておくものとする。

(見直し)

第52条 安全統括管理者は、年1回以上船舶及び陸上施設の状況並びに安全管理規程の遵守状況のほか安全マネジメント体制全般にわたり見直しを行うものとする。さらに、重大事故が発生した場合には速やかに実施する。

- 2 見直しを行うに際し、安全マネジメント体制の機能全般に関し見直しを行い、改善の必要性について評価し、改善に向け作業する。
- 3 安全統括管理者は、見直しを行ったときは、その内容を記録しておくものとする。

第11章 雑 則

(安全管理規程の変更)

第53条 安全統括管理者は、関係法令の改正、使用船舶の変更等、この規程の内容に係る事項に常に留意し、当該事項に変更が生じたときは、遅滞なくこの規程の改正を行なうものとする。

(安全管理規程等の備付け等)

第54条 安全統括管理者は、安全管理規程及び運航基準図を船舶その他必要と認められる場所に、容易に閲覧できるよう備え付けなければならない。

- 2 安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、作成した各種文書は適切に管理する。

(情報伝達)

第55条 安全統括管理者は、運航の安全の確保に関する情報伝達を行うとともに容易に閲覧できるようにする。

- 2 安全統括管理者は、安全にかかる意見等の把握に努め、その検討、実現反映状況についてセンター内各員へ周知する。

附 則

この規程は、平成22年6月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別紙（第34条第3号関係）

調査実習船「いさな」使用者の安全心得

〈乗船前安全心得〉

1. 乗船にあたって、使用責任者は研究室及び事務室に乗船目的や、航海計画を事前に提出して許可を得、乗船時の緊急連絡先を確保して置くこと。また、補助者が学生（正職員で無い場合）の場合は出張届を出して、大学の総合保険を付けて貰うこと（平成17年7月1日から適用）。
2. 船は狭くて突起物が多いので、服装は身体にフィットするものとし、長靴又は靴を準備すること（サンダル履き禁止）。
3. 体調には十分留意し、持ち込む飲食物にも十分注意を払うこと。

〈乗船時安全心得〉

1. 船内においては船長の命令は絶対であるので、指示に従うこと。
2. 乗船してすぐに救命胴衣を着用すること。また乗船中は常に着用しておくこと。
3. 出港時、入港時は岸壁等で身体を挟まないように特に注意すること。船が重たいので、スピードが出ていなくても、強大な圧力がかかる。また、舳い綱も危険であるので、触る場合は船長の指示どおりに行うこと。
4. 救命筏や消火設備、信号紅煙の場所を事前にチェックして、自己の安全を確保しておくこと。船は燃え易い材質なので火気使用は極力避けること。救命浮器は上部甲板後方にある。
5. 乗船中はみだりに船舶備品を触らない。特に計器類は航海上重大な危険を伴うので、研究上必要な場合も船長の許可を得てから使用すること。不用意に触ってしまった場合は、必ず船長に申し出ること。
6. 船に持ち込んだ調査器具や手回り品は作業や通行に邪魔にならないところに荷崩れを起こさないように積み込むこと。
7. 調査時、特にウインチで器具を吊り上げたり下ろしたりしている時は危険であるので、ロープやワイヤーの下にいたり、ロープを踏んだりしないこと。アンカーの上げ下げの時も同様である。
8. 船内は全面禁煙である。

〈下船時心得〉

1. 船長の指示に従って、船を乗船前の状態に戻すこと。特に持ち込んだものは、ゴミ類に至るまで持ち帰ること。
2. 救命胴衣やヘルメットなど、船舶備品は持ち帰らないこと。

補足：〈自分の身は自分で守る〉

1. 携帯電話は十分に充電しておき、ビニール袋などに入れて携帯しておく。
遭難時は、連絡手段の有無が明暗を分けます。常に連絡手段の確保に努めましょう。
2. 気象状況を良く確認しておき、それに備えた服装にする。
体が濡れた状態で風に当たると体力を奪われます。雨具を用意しましょう。また、綿製の衣類は、濡れると体温を奪います。化学繊維製で速乾素材の衣服着用を心がけましょう。（遭難時においても体温保持に相当の効果があるとされています）
3. 非常用食料、飲料を少量でよいので準備しておく。
4. 船は常に揺れているため、脳や体が徐々に疲れ、船酔いの原因ともなる。こまめな糖分・水分の補給を心がけよう。
5. 夏季は大量の紫外線を浴びる。長袖長ズボン、帽子、サングラス、日焼け止めクリームを準備しましょう。

別表（第43条第2項関係）

「官 公 署 連 絡 表」

【非常連絡事項】 事故等が発生した場合の連絡は、原則として次の区分により行うものとする。

- (1) 全事故等に共通する事項
船名, 日時, 場所, 事故等の種類, 死傷者の有無, 救助の要否, 当時の気象・海象
- (2) 事故等の態様による事項

	事故等の種類	連 絡 事 項
a	衝突	① 衝突の状況（衝突時の両船の針路, 速力等又は岸壁等への接近状況） ② 船体, 機器の損傷状況 ③ 浸水の有無（あるときはd項） ④ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置） ⑤ 自力航行の可否 ⑥ 相手船の船種, 船名, 総トン数, (用) 船主・船長名（できれば住所, 連絡先） — 船舶衝突の場合 ⑦ 相手船の状況（船体損傷の状況, 死傷者の有無, 救助の要否等） — 船舶衝突の場合
b	乗揚げ	① 乗揚げの状況（乗揚げ時の針路, 速力, 海底との接触箇所, 船体傾斜, 吃水の変化, 陸岸との関係等） ② 船体周囲の水深, 底質及び付近の状況 ③ 潮汐の状況, 船体に及ぼす風潮及び波浪の影響 ④ 船体, 機器の損傷状況 ⑤ 浸水の有無（あるときはd項） ⑥ 離礁の見通し及び陸上からの救助の可否 ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
c	火災	① 出火場所及び火災の状況 ② 出火原因 ③ 船体, 機器の損傷状況 ④ 消火作業の状況 ⑤ 消火の見通し
d	浸水	① 浸水箇所及び浸水の原因 ② 浸水量及びその増減の程度 ③ 船体, 機器の損傷状況 ④ 浸水防止作業の状況 ⑤ 船体に及ぼす風浪の影響 ⑥ 浸水防止の見通し ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
e	強取, 殺人傷害, 暴行等の不法行為	① 事件の種類 ② 事件発生の端緒及び経緯 ③ 被害者の氏名, 被害状況等 ④ 被疑者の人数, 氏名等 ⑤ 被疑者が凶器を所持している場合は, その種類, 数量等 ⑥ 措置状況
f	人身事故 (行方不明を除く)	① 事故の発生状況 ② 死傷者数又は疾病者数 ③ 発生原因 ④ 負傷又は疾病の程度 ⑤ 応急手当の状況 ⑥ 緊急下船の必要の有無
g	乗員, 乗組員等の 行方不明	① 行方不明が判明した日時及び場所 ② 行方不明の日時, 場所及び理由（推定） ③ 行方不明者の氏名等 ④ 行方不明者の遺留品等
h	その他の事故	① 事故の状況 ② 事故の原因 ③ 措置状況
i	インシデント	① インシデントの状況 ② インシデントの原因 ③ 措置状況

発行 2024年11月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
E-mail : engan@stu.ehime-u.ac.jp
印刷 創風社出版

※今後、年報の送付を希望されない場合や、所属機関、住所等の変更がございましたら、お手数ですが上記発行者までお知らせください。

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

EHIME UNIVERSITY
CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES

